

GRAPHTEC

CUTTING PLOTTER
CELITE-50

取扱説明書



はじめに

このたびは、カッティングプロッター CE LITE-50をご購入頂きまして、誠にありがとうございます。本機は、高速・高精度な作業を実現したカッティングプロッターです。マーキングフィルムなどのカットのほか、ペンプロッターとしてもご利用いただけます。ご使用に際しましては、本取扱説明書をご熟読いただき、正しくご利用いただけますようお願い申し上げます。

この製品は、ガーバーサイエンティフィックテクノロジー社の米国特許第5,537,135号ならびにその外国特許のライセンスの基に、製造販売されています。

VCCIについて

この装置は、クラスA 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には、使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

輸出に関するご注意とお願い

当社製品を輸出または国外へ持ち出す際、その製品が外国為替及び外国貿易法(外為法)の規定による規制貨物に該当する場合は、日本国政府(経済産業省)に対して、輸出許可証の申請が必要です。また、非該当品であっても通関上何らかの書類が必要となります。詳しくは最寄りの弊社営業所までお問い合わせください。

本書に関する注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を複製・転写することを禁止します。
- (2) 本書の内容および製品の仕様は、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書および製品につきましては万全を期しておりますが、万一ご不明な点や誤り等にお気づきの点がございましたら、弊社までご連絡ください。
- (4) 本書および製品を運用した結果の影響につきましては、(3)の項に関わらず責任を負いかねますのでご了承ください。

登録商標について

記載された会社名・ロゴ・製品名などは、該当する各社の商標または登録商標です。

著作権について

本取扱説明書は、グラフテック株式会社が全ての著作権を保有しています。

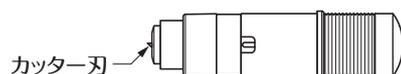
著作権について本取扱説明書は、グラフテック株式会社が全ての著作権を保有しています。

カッター刃の取り扱いの注意

本製品は、刃物を使用しています。刃物による傷害事故を防ぐため、カッターペンの本体への取り付け等、カッター刃を取り扱うときは、十分に注意して行ってください。

カッターペン

先端は、鋭利な刃物になっています。刃を出しすぎないように注意してください。また、使用しないときは、カッターペンの先から刃を出さないようにしてください。



本体への取り付け後

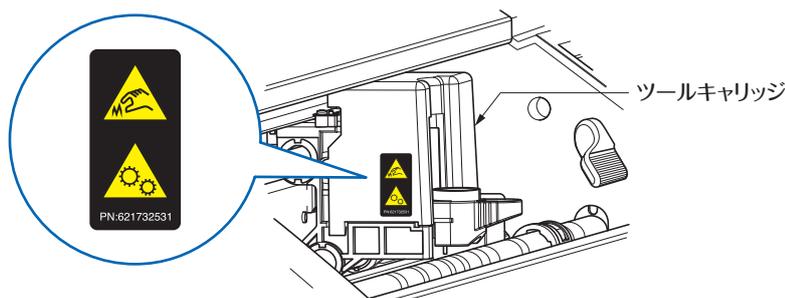
電源投入後や動作中は、危険ですのでペン先に触れないようにしてください。

電源投入後の注意

作業中及び作業終了直後や各種設定時には、ツールキャリッジ、セットされたメディアが急に動くことがありますので、稼動部やその移動範囲に、手・髪の毛・衣服等を近づけたり、物を置いたりしないでください。使用する際は、手・髪の毛・衣服等が挟まれたり、巻き込まれたりして怪我をしないように十分に注意してください。

警告ラベルについて

本機のツールキャリッジには、以下の警告ラベルが貼ってあります。必ず遵守してください。



文中の語句について

- 本説明書での「作図」とは、本機が動作して、筆記ペンにて作図すること、カッターペンにてカットすること等を意味します。
- 本説明書では、用紙・ロール紙・シート紙またはマーキングフィルムを総称して「メディア」と表現しています。

作業の前に

- 付属の「安全に正しくお使いいただくために」を必ずお読みください。読まずに作業をすると、思わぬ事故を起こしたり火災の原因となることがあります。
- ご購入の際、「保証書」にお買い上げいただいた販売店の捺印・購入年月日が正しく記入されていることをお確かめの上、「保証書」を大切に保管してください。
- 「保証書」に必要事項をご記入の上、FAX をお送りいただくか、弊社Webサイト「ユーザー登録」から、お客様登録をお願い致します。

カールしたメディアを使用する際の注意

- 上向きのカールは、弱いカールでもメディア詰まりを引き起こす原因となります。
- カールしていないメディアを使用するか、カールを手直ししてプロッター本体に沿う程度の下向きの弱いカールにしてからご使用ください。

目次

はじめに.....	i
VCCIについて.....	i
輸出に関するご注意とお願い.....	i
本書に関する注意.....	i
登録商標について.....	i
著作権について.....	i
カッター刃の取り扱いの注意.....	ii
カッターペン.....	ii
本体への取り付け後.....	ii
電源投入後の注意.....	ii
警告ラベルについて.....	ii
文中の語句について.....	ii
作業の前に.....	iii
カールしたメディアを使用する際の注意.....	iii
1章 ご使用の前に	
1.1 標準付属品.....	1-2
1.2 各部の名称と機能.....	1-3
1.3 操作パネル.....	1-4
画面の種類と操作.....	1-4
その他の表示と操作.....	1-5
1.4 本体の設置.....	1-6
設置スペース.....	1-6
1.5 メディアサイズと作図範囲.....	1-7
対応メディアサイズ.....	1-7
作図範囲.....	1-7
1.6 ドライバ/ソフトウェアのインストール.....	1-8
1.7 電源の接続と投入.....	1-9
1.8 パソコンの接続.....	1-10
1.9 初回電源投入時の設定.....	1-11
2章 基本操作	
2.1 ツールのセット.....	2-2
カッターペンの刃出し量の調整.....	2-2
刃出し量調整の目安と注意.....	2-2
ツールのセット.....	2-3
2.2 メディアセットレバーのセット.....	2-4
2.3 プッシュローラーのセット.....	2-5
プッシュローラーの移動.....	2-5
プッシュローラーのセット位置.....	2-5
2.4 シート紙のセット.....	2-6
プッシュローラーに突当ててセット.....	2-6

	プッシュローラーを解除してセット	2-8
	シート紙の取り出し	2-9
2.5	CONDITION NO.(カット条件)の確認	2-10
2.6	データを作成する際の注意	2-11
	作図原点位置について	2-11
	作図範囲について	2-11
2.7	作図データの送信	2-12
2.8	日常のお手入れ	2-13
	カッターペンの清掃	2-13

3章 印刷に合わせてのカット

3.1	プリント&カットとは	3-2
3.2	シンプル プリント&カット	3-3
3.3	トンボ読み取り プリント&カット	3-5
3.4	トンボの種類と配置	3-6
	トンボの形状	3-6
	トンボの配置位置	3-7
	トンボ位置自動検出	3-8
3.5	トンボ作成からカットまでの流れ	3-9
	Graphtec Pro Studio	3-9
	Cutting Master 4	3-12
	Graphtec Studio	3-15

4章 便利な機能

4.1	ロール紙のカット	4-2
	ロール紙ストッカーの組み立て	4-2
	ロール紙のセットと検出	4-4
	ページ長さの設定	4-8
	クロスカッターの使用法	4-9
4.2	カッティング用台紙を使用したカット	4-10
	カッティング用台紙へのメディアのセット	4-11
	カッティング用台紙のセット	4-12
4.3	筆記ペンでの作図	4-15
	筆記ペンをペンアダプターにセット	4-15
	ペンアダプターのセット	4-16
4.4	USBメモリからのカット	4-18
	データをUSBメモリに保存	4-18
	USBメモリのデータを読み込んでカット	4-18
	バーコード付きデータのカット	4-19
4.5	同じデータを複数カット(コピー機能)	4-20
	1枚のメディアに複数コピー	4-20
	複数のメディアに繰り返しコピー	4-22
4.6	作図位置を指定してカット	4-23
4.7	作図範囲の拡張	4-24

4.8	カットの中止と一時停止	4-25
4.9	ツールキャリッジの退避	4-26
5章 詳細設定		
5.1	カット条件の設定を個別に登録	5-2
5.2	カット品質の調整	5-3
	ツールの選択とオフセット値の設定	5-3
	カット圧の設定	5-4
	オフセット圧の設定	5-4
	条件の優先の設定	5-4
	距離補正の設定	5-5
	刃先方向初期化位置の設定	5-6
5.3	作図時間の調整	5-7
	速度の設定	5-7
	加速度の設定	5-7
	ツールアップ速度の設定	5-8
5.4	厚いメディアのカット	5-9
	タンジェント制御とは	5-9
	タンジェント制御の設定	5-9
	オーバーカットの設定	5-10
5.5	テストカットを行う	5-11
	設定値で1つカット	5-11
	設定値に±1を含めた3つのテストパターンをカット	5-11
	テストカットの確認	5-12
5.6	トンボの読み取り設定	5-13
	読み取りモードの設定	5-13
	トンボ検出の確認	5-14
	トンボ位置の補正	5-16
	トンボ位置自動検出の設定	5-19
5.7	メディア動作の調整	5-20
	ならし動作の設定	5-20
	自動メディア送りの設定	5-20
	イニシャル フィードの設定	5-21
	メディア幅検出の設定	5-21
5.8	コマンドの設定	5-23
	コマンドの選択	5-23
	HP-GL 原点位置の設定	5-23
	HP-GL 機種名の応答の設定	5-23
	GP-GL ステップサイズの設定	5-24
5.9	操作パネルの設定	5-25
	言語の選択	5-25
	長さの単位の選択	5-25
	操作キーのブザーの設定	5-25

6章 トラブル対処

6.1	困ったときの対処.....	6-2
	電源をオンにしても動作しないとき.....	6-2
	動作がおかしいとき.....	6-2
6.2	エラーメッセージの確認.....	6-3
	GP-GLコマンドエラー.....	6-3
	HP-GLコマンドエラー.....	6-3
	ARMSエラー.....	6-4
	その他のエラー表示.....	6-4
6.3	本体の動作確認.....	6-5
	セルフテストパターンの作図.....	6-5
	テストパターンの作図.....	6-5
	メディア幅センサーの調整.....	6-6
	本体診断テスト.....	6-6
6.4	本体ファームウェアのバージョンの確認.....	6-7
6.5	カッティングマット交換方法.....	6-8

付録

A.1	標準仕様.....	A-2
A.2	サプライ品.....	A-3
A.3	外観図.....	A-4
A.4	メニューツリー.....	A-5
A.5	初期値一覧.....	A-9

索引.....	I-1
---------	-----

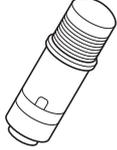
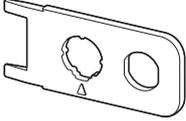
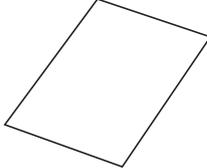
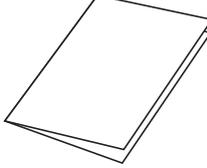
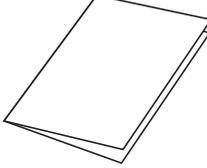
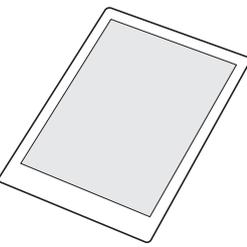
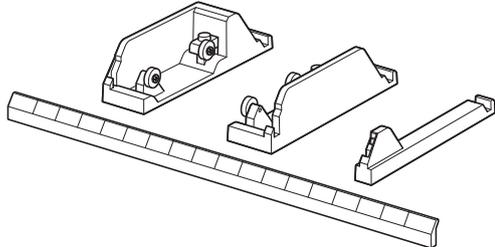
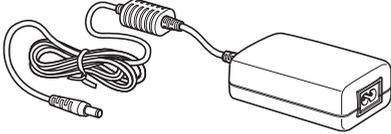
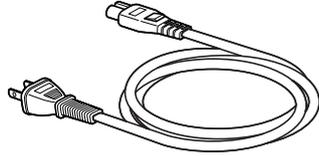
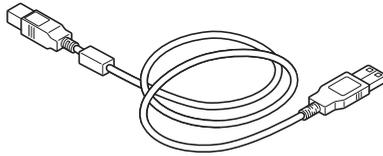
1章 ご使用の前に

本機の概要とコンピュータとの接続について説明します。

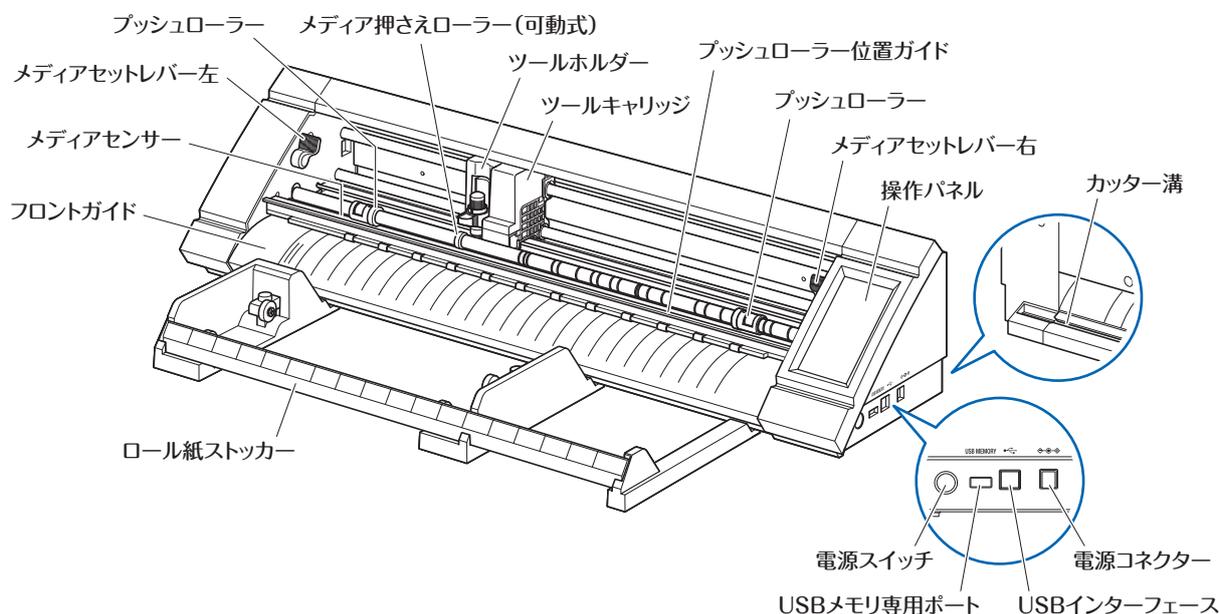
- 1.1 標準付属品
- 1.2 各部の名称と機能
- 1.3 操作パネル
- 1.4 本体の設置
- 1.5 メディアサイズと作図範囲
- 1.6 ドライバ/ソフトウェアのインストール
- 1.7 電源の接続と投入
- 1.8 パソコンの接続
- 1.9 初回電源投入時の設定

1.1 標準付属品

全ての付属品が揃っているか確認してください。付属品の不足がありましたら、ご購入先または当社カスタマーセンターまで直ちにご連絡ください。

カッターセット(標準刃) [PM-BS-001] 	1式	刃先キャップ取り外し治具 	1個
クロスカッター[PM-CC-001] 	1個	Software Activation Code 	1枚
セットアップマニュアル 	1冊	安全に正しくお使いいただくために 	1冊
カッティング用台紙(13インチ) 	1枚	ロール紙ストッカー 	1セット
ACアダプター 	1個	ACケーブル 	1本
USBケーブル(1.5m) 	1本	保証書 	1枚

1.2 各部の名称と機能



操作パネル : 操作や各種設定を行います。

メディアセットレバー右 : メディアをセットするときにプッシュローラーを上下させ、メディアの固定(3段階) / 解除を行います。メディアの幅に合わせて調整してください。

メディアセットレバー左 : メディアをセットするときにプッシュローラーを上下させ、メディアの固定 / 解除を行います。

プッシュローラー : メディアを押し付け、固定 / 搬送します。メディアの種類やサイズに合わせて位置を調整してください。

プッシュローラー位置ガイド

: 示してあるマークの位置に合わせて、プッシュローラーをセットします。

ツールキャリッジ : ツールを左右に駆動したり、トンボやバーコードを読み取ります。

ツールホルダー : ツールを保持し、上下に駆動します。

メディア押さえローラー(可動式)

: カット品質の低下やトンボ検出の誤動作に繋がるメディアの浮きを抑えます。メディアの中央あるいは浮きの激しい部分に設置してください。

メディアセンサー : メディアを検出します。

フロントガイド : 左側に示してあるマークの位置に合わせて、メディアをセットします。

ロール紙ストッカー : ロール紙を保持します。

電源スイッチ : 電源をオン / オフします。

USBメモリ専用ポート : USBメモリを読み込むときに使用します。

USBインターフェース : コンピュータと接続するときに使用します。

電源コネクター : 電源ケーブルを接続するときに使用します。

カッター溝 : クロスカッターで、ロール紙を裁断するときに使用します。

1.3 操作パネル

画面の種類と操作

HOME画面とボタンの機能



- 「メニュー」ボタン : 「MENU」画面に移行します。
- 「CONDITION NO.選択」ボタン : CONDITION NO.を選択します。
- 「CONDITION」ボタン : CONDITION(カット条件)の設定画面に移行します。
- 「メディアセット」ボタン : メディアセット画面に移行します。

以下の画面は、メディアをセットすると表示されます。

- 「メディア取り出し」ボタン : セットされたメディアを排出します。
- 「コピー」ボタン : コピーモードに移行します。
- 「テストカット」ボタン : テストカット画面に移行します。
- 「ホーム」ボタン : ツールキャリッジをホーム点に移動します。
- 「USB」ボタン : USBメモリから作図するときのメニューに移行します。
- ポジションキー : ポジションキー画面に移行します。

その他のボタン

- 「ページ」ボタン : 同階層の次ページに移行します。
- 「終了」ボタン : 現在の画面を終了します。
 (確定)が表示されている画面で、 (確定)の前に押すと、設定をせずに終了します。
- 「確定」ボタン : 設定を確定させます。
- 「実行」ボタン : 設定を実行します。
- 「原点」ボタン : 作図原点を設定します。
- 「作図範囲」ボタン : セットされたメディアの作図範囲を表示します。
- 「OK」ボタン : ポジションキーで移動したツールの位置を確定させます。
- 「停止」ボタン : 作図動作を停止します。

メニュー選択画面

設定項目を選択します。設定するボタンを押してください。



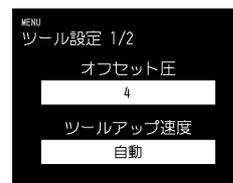
ボタンの色の違い

水色が選択されている設定です。設定するボタンを押してください。



表示ボックスの違い

白いボックスを押すと、入力画面に移行します。



水色のボックスは、現在の設定値を表示しています。



入力画面

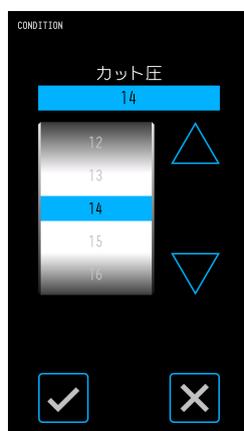
数値入力

ボタンを押して数字を入力します。



ドラム選択

ドラムを回転させてリストを移動し、設定値を選択します。



リスト選択

リストから選択したい項目を押して、設定します。



ポジションキー

「△」「▽」「◀」「▶」を押すと、矢印の方向にツールキャリッジやメディアが移動します。「/」「\」を押すと斜め方向への移動ができます。押し始めはゆっくりと移動しますが、数秒押し続けると速く移動します。



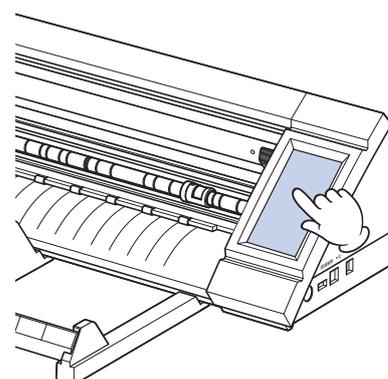
その他の表示と操作

指示画面

- メディアセットレバーを解除した状態で電源を投入すると、操作パネルに「メディアセットレバーを閉じてください」と表示されます。メディアセットレバーを下げると「メディアセット」画面が表示されます。
- メディアをセットするとき、メディアやプッシュローラーに関する表示が出る場合があります。その場合、画面の指示に従って操作してください。
- その他の操作関連の表示が出た場合も、画面の指示に従って操作してください。

スリープ解除

本機は、電源がオンの状態でも数分操作しないと操作パネルが消灯します。再起動するときは、操作パネルを押してください。



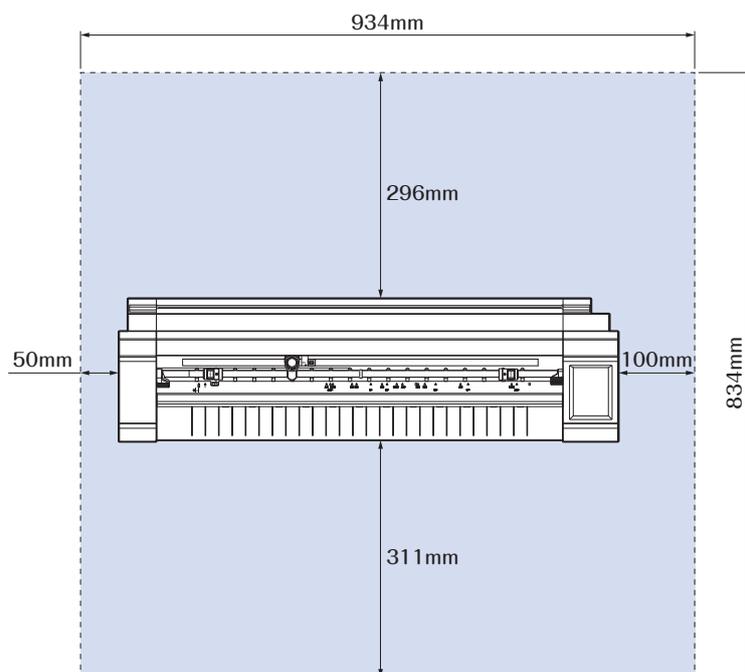
1.4 本体の設置

設置スペース

本機を設置するためのスペースは、作図動作に影響しないよう十分に確保してください。

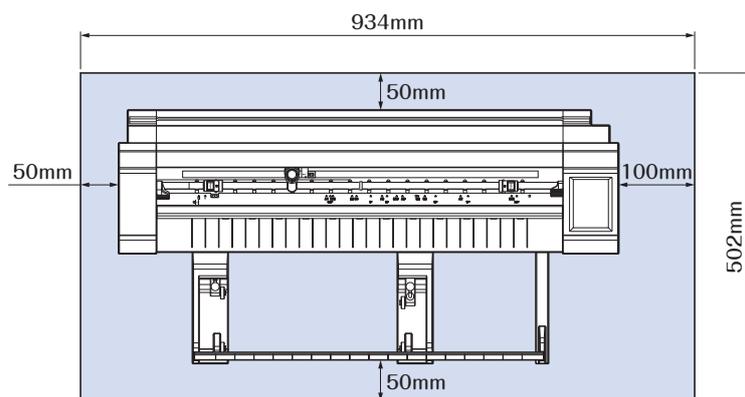
- 使用するメディアのサイズにより、前後の必要スペースは異なります。
- 本体の前後にメディア搬送を妨げる様な障害物を置かないでください。

カッティング用台紙を使用した際の設置スペース



ロール紙ストッカーを使用して台の上に設置する場合は、934×502mm以上の天板を持つ水平で丈夫な物をご使用ください。

- ロール紙を使用する場合は、本体の前後にメディア搬送を妨げる様な障害物を置かないでください。



1.5 メディアサイズと作図範囲

対応メディアサイズ

本機は、定型サイズ幅対応のカットングプロッタです。セットできるメディアは、下記のサイズに限定されます。下記以外の幅のメディアを使用する際は、カットング用台紙をお使いください。

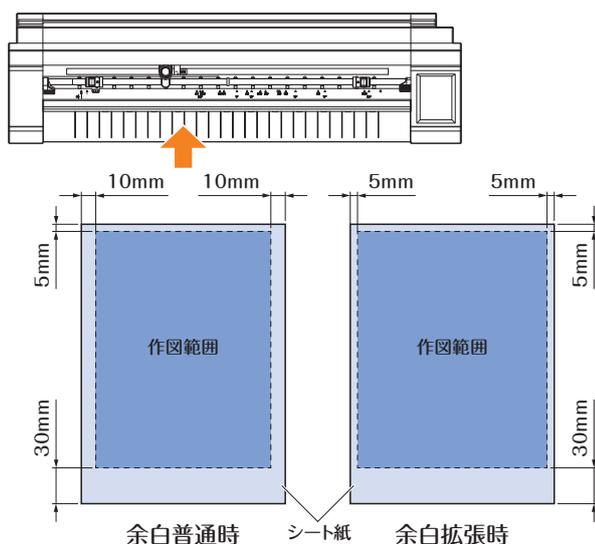
カットング用台紙については、「4.2 カットング用台紙を使用したカット」を参照してください。

対応メディア幅	サイズ規格					右側のメディア セットレバー位置
	ISO A/JIS A	JIS B	ISO B	Inch	規格外	
210.0mm	A4					1
215.9mm				8.5inch		
220.0mm					○	
250.0mm			B4			
257.0mm		B4				
279.4mm				11inch		
297.0mm	A3					2
304.8mm				12inch		
320.0mm					○	
329.0mm	A3ノビ					
353.0mm			B3			
364.0mm		B3				
381.0mm				15inch		3
420.0mm	A2					
431.8mm				17inch		
500.0mm			B2			
508.0mm				20inch		

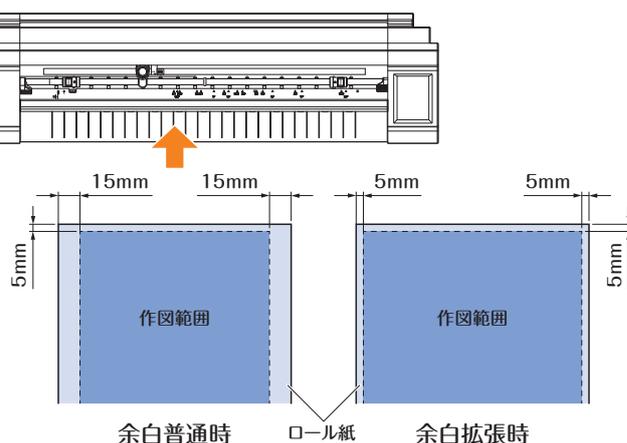
作図範囲

作図範囲と作図方向は、以下のようになります。

シート紙



ロール紙



1.6 ドライバ/ソフトウェアのインストール

ドライバ/ソフトウェアは、弊社ホームページからダウンロードしてインストールを行ってください。

対応OSについて

本ソフトウェアは、以下のOS 環境に対応しています。

Windows 10(32bit/64bit)、Windows 8.1(32bit/64bit)、Windows 8(32bit/64bit)、
Windows 7 (32bit/64bit)

Macintosh MacOS X 10.11 ~ 10.7 / macOS 10.13 ~ 10.12(Graphtec Studioは、MacOS X 10.6にも対応)

なお、最新の対応OSは弊社ホームページにてご確認ください。

プロッタドライバのインストール(Windows)

弊社ホームページから別途ダウンロードしてください。

インストール手順は、ホームページに掲載されている手順書を参照してください。

URL: http://www.graphtec.co.jp/site_download/index.html



注意

プリンタドライバをインストールする前に、本機とコンピュータをUSBケーブルで接続しないでください。
接続するとプリンタドライバを正しくインストールできない場合があります。

Graphtec Pro Studioのインストール(Windows)

弊社ホームページから別途ダウンロードしてください。

インストール手順は、ホームページに掲載されている手順書を参照してください。

URL: http://www.graphtec.co.jp/site_download/index.html

Cutting Master 4のインストール(Windows/Mac)

弊社ホームページから別途ダウンロードしてください。

インストール手順は、ホームページに掲載されている手順書を参照してください。

URL: http://www.graphtec.co.jp/site_download/index.html

Graphtec Studioのインストール(Mac)

弊社ホームページから別途ダウンロードしてください。

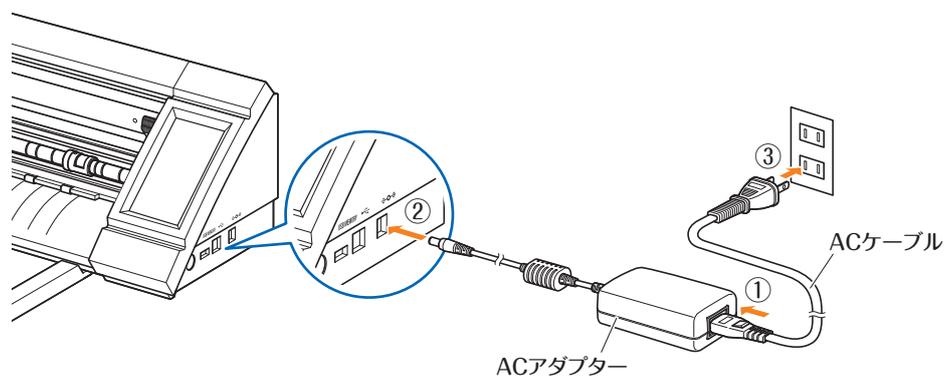
インストール手順は、ホームページに掲載されている手順書を参照してください。

URL: http://www.graphtec.co.jp/site_download/index.html

1.7 電源の接続と投入

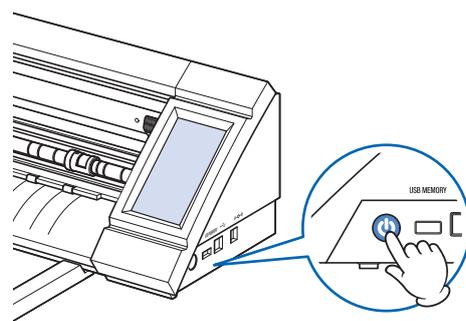
本機とACコンセントを付属のACケーブルとACアダプターで接続し、本機の電源を入れます。

1. ACアダプターとACケーブルを接続します(①)。本機の電源コネクタとACアダプターを接続します(②)。規定電圧のACコンセントと接続します(③)。



2. 電源スイッチを押して、電源をオンにします。
操作パネルが起動したことを確認してください。
電源をオフにした後に再度電源をオンする場合は、20秒以上間隔をあけてください。間隔をあけないと本体に異常をきたす場合があります。

- メディアセットレバーを解除した状態で電源を投入すると、操作パネルに「メディアセットレバーを閉じてください」と表示されます。メディアセットレバーを下げると「メディアセット」画面が表示されますので、**✕** (終了) を押して「HOME」画面に移行してください。

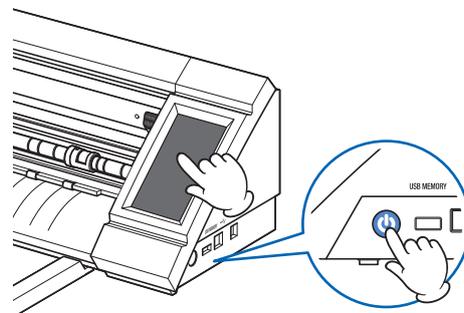


1.8 パソコンの接続

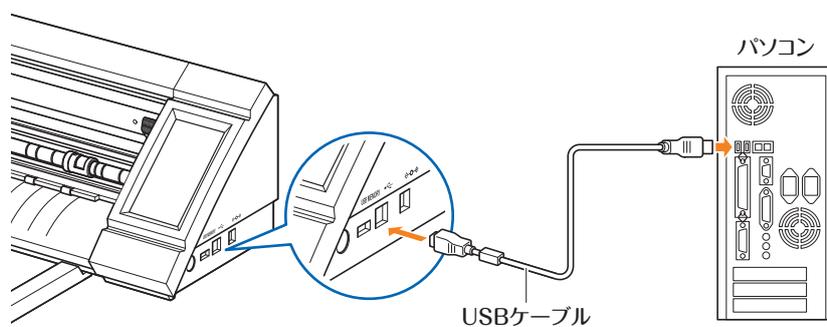
本機とパソコンを付属のUSBケーブルで接続します。

- 接続する前に、ドライバ/ソフトウェアのインストールを行ってください。

1. 電源をオフにします。
操作パネルを押して、画面が起動しないことを確認してください。



2. 本機とパソコンをUSBケーブルで接続します。



1.9 初回電源投入時の設定

初回起動時には、言語と長さ単位の設定を行う必要があります。

言語の選択

本機の電源を初めて入れると、起動画面に続いて言語の選択画面が表示されます。
使用する言語を選択し、（確定）を押してください。



長さの単位の選択

言語を設定すると、長さ単位の選択画面が表示されます。
使用する長さ単位を選択し、（確定）を押してください。



長さ単位を設定すると、HOME画面が表示されます。

2章 基本操作

基本的なカットは、本章の項目に沿って行ってください。

- 2.1 ツールのセット
- 2.2 メディアセットレバーのセット
- 2.3 プッシュローラーのセット
- 2.4 シート紙のセット
- 2.5 CONDITION NO.(カット条件)の確認
- 2.6 データーを作成する際の注意
- 2.7 作図データーの送信
- 2.8 日常のお手入れ

2.1 ツールのセット

付属のカッターペン(PM-BS-001)は、消耗品となっております。カッター刃の切れ味が悪くなったら、新しいカッターペンを購入してください。

また、別売品の厚物刃カッターペン(PM-BS-002)も使用可能です。

カッターペンの刃出し量の調整

最適な作図をするには、刃出し調整を行わなければなりません。何回かテストカットを実施して、最適な刃出し量を設定してください。

⚠ 注意

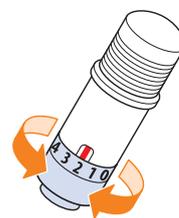
- カッター刃の取り扱い、手などを切らないよう十分に注意して行ってください。
- 刃先を出しすぎると、カッター刃やカッティングマットの損傷またはメディアの無駄な消費につながります。刃出し量はメディアの厚さ未満に抑えてください。

PM-BS-001

刃出し量は、カッターペンの先端を回して調整します。

数値を赤いラインに合わせて、刃出し量を調整してください。

大きな数値に合わせるほど刃出し量が多くなり、数値を1つ回転させると約0.1mm刃が出入りします。約1mmまで刃を出すことができますので、カット条件に合わせて調整してください。



⚠ 注意

刃先が出ていない状態(目盛0)から、時計回り(目盛10側)にはキャップを回さないでください。同様に刃先が1mm出ている状態(目盛10)を超えて、更に反時計回り(目盛0側)には回さないでください。カッターペンが破損する恐れがあります。

PM-BS-002

刃出し量は、カッターペンの先端を回して調整します。

数値を赤いラインに合わせて、刃出し量を調整してください。

大きな数値に合わせるほど刃出し量が多くなり、数値を1つ回転させると約0.1mm刃が出入りします。約2mmまで刃を出すことができますので、カット条件に合わせて調整してください。



⚠ 注意

刃先が出ていない状態から、時計回り(目盛20側)にはキャップを回さないでください。同様に刃先が2mm出ている状態(目盛20)を超えて、更に反時計回りには回さないでください。カッターペンが破損する恐れがあります。

刃出し量調整の目安と注意

一般的なカッティングシートは、糊の付いているシートと台紙の二層で構成されています。

台紙を貫通させないよう刃出し量を調整してください。

<p>カッティングシートが貫通され、台紙に薄くカットした跡が残るくらいに調整します。</p>	<p>カッター刃の出し過ぎは、摩耗だけでなく、刃が欠けてしまう原因にもなります。カッター刃が台紙に深く到達しないよう注意してください。</p>
<p>○</p> <p>カッター刃 カッティングシート 台紙</p>	<p>×</p> <p>カッター刃 カッティングシート 台紙</p>

- 刃出し量の調整は、刃出し量が少ない状態から多い状態に調整してください。
- メディアの厚さにより刃出し量が変わります。メディアの種類を変えるたびに調整とテストカットを行ってください。

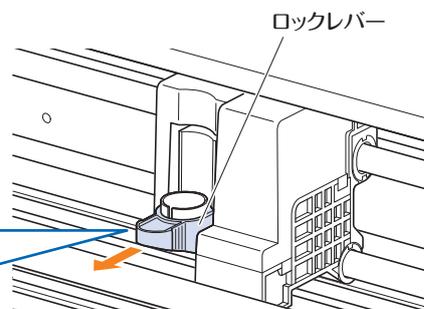
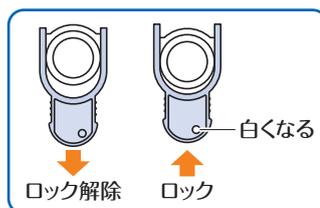
ツールのセット

ツールの取り付けは、ツールをツールホルダー完全に差し込んでから、ロックレバーで固定してください。

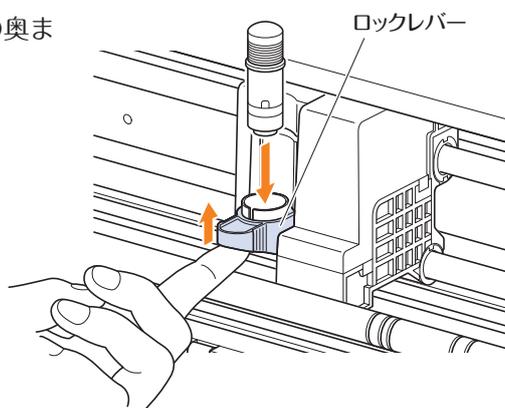
⚠ 注意

- 電源の投入時や動作中は危険ですので、ツールには絶対に触れないでください。
- ツールをセットしているときに、カッター刃でケガしないようご注意ください。

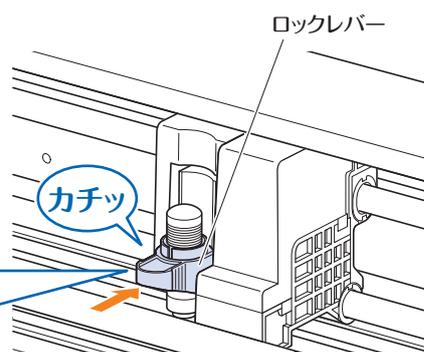
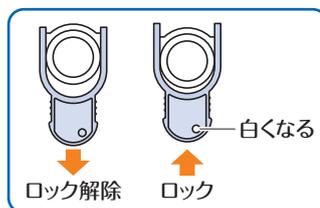
1. ツールホルダーのロックレバーを手前に引き出し固定を解除します。



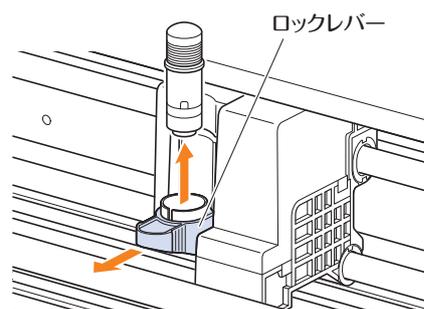
2. ロックレバーを上押ししながら、ツールをツールホルダーの奥まで差し込みます。



3. ロックレバーを「カチッ」と音がするまで押し込み、ツールを固定します。ロックレバー手前の穴の中が、白くなるまで奥に押し込んでください。



4. ツールを取り外す場合は、ロックレバーを手前に引き出し固定を解除してツールを取り外します。



2.2 メディアセットレバーのセット

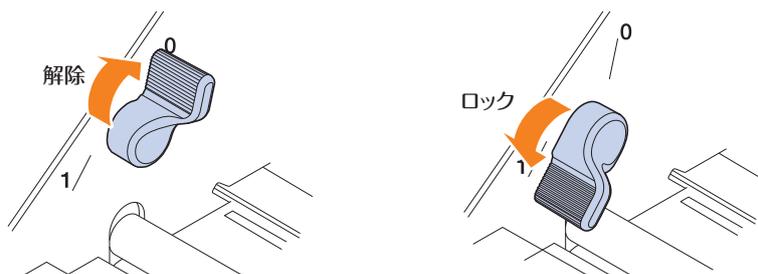
必要なとき以外は、メディアセットレバーはロックした状態にしてください。

メディアセットレバーが解除された状態でHOME画面に移行すると、「メディアセットレバーを閉じてください」と表示されます。

長時間使用しない場合は、メディアセットレバーを解除した状態にしてください。

左側のメディアセットレバーのセット

左側のメディアセットレバーを下ろし、左側のプッシュローラーでメディアを固定します。

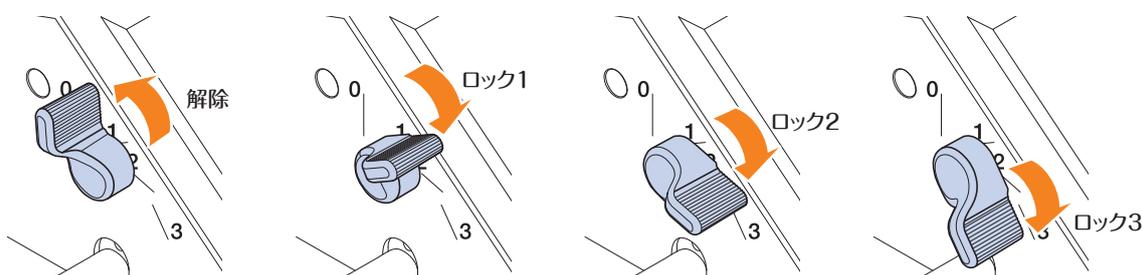


右側のメディアセットレバーのセット

右側のメディアセットレバーは、メディアの幅によりプッシュローラーのロックの強さが異なります。

ロックは3段階あり、メディアの幅に合わせた位置にセットします。

ロック位置については、「1.5 メディアサイズと作図範囲」を参照してください。



間違ったロック位置にセットしてメディアセットの操作をすると、操作パネルに正しいロック位置の情報が表示されません。表示に合わせた位置にセットし直してください。

メディア幅とロック位置

ロック1：A4/8.5”/220mm/B4/11”/A3

ロック2：12”/320mm/A3+/カッティング用台紙/B3/15”/A2

ロック3：17”/500mm/20”

2.3 プッシュローラーのセット

メディアの幅に合わせて、左右のプッシュローラーの位置を調整します。
プッシュローラーは、メディアの両端に位置するようにセットしてください。

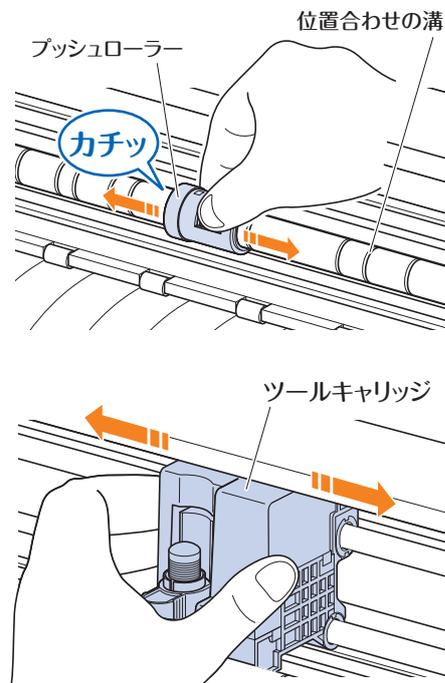
プッシュローラーの移動

プッシュローラーの移動は、メディアセットレバーを上げてプッシュローラーを解除した状態で行います。プッシュローラー真ん中の「PUSH」部と「PUSH」部の反対側を指で挟んで、押したまま左右に移動します。「PUSH」部が押しにくい位置にある場合は、押しやすい位置に回転させてください。プッシュローラーを目的の位置まで移動したら、「PUSH」部を離して、位置合わせの溝に「カチッ」とはまる位置にセットします。セット後、「PUSH」部を押さず軽く左右に動かして、位置合わせの溝にはまっていることを確認してください。

ツールキャリッジが妨げになる場合は、左右のメディアセットレバーを解除してゆっくりと移動させてください。ツールキャリッジは、左右を挟み込むように持ってください。別の部分を持ったり、無理に移動させると破損する恐れがあります。移動させたツールキャリッジは、電源をオンにするとホーム点に戻ります。

⚠ 注意

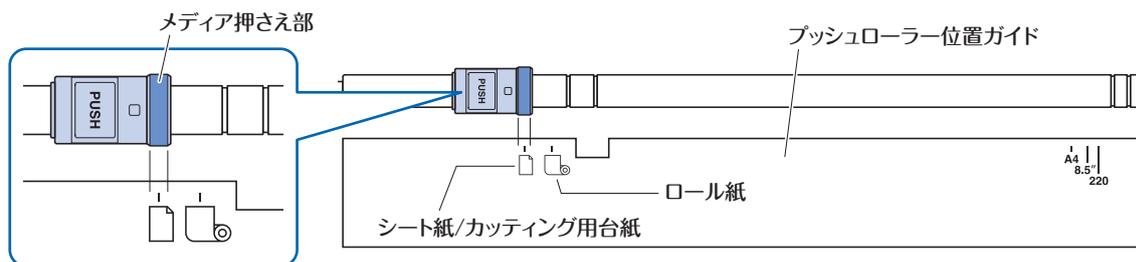
メディアセットレバー、プッシュローラ、ツールキャリッジの操作・移動は、必ずメディアセットメニュー操作時に行ってください。



プッシュローラーのセット位置

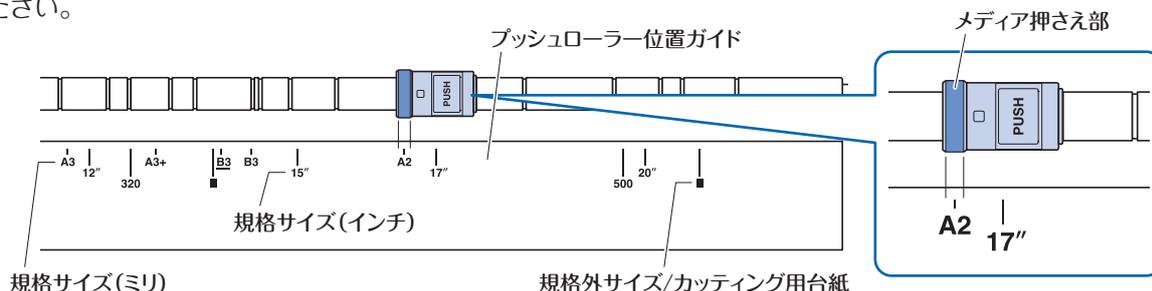
左側のプッシュローラーのセット位置

プッシュローラーの「メディア押さえ部」をプッシュローラー位置ガイドのマークの位置に合わせてセットします。シート紙とカッティング用台紙は「□」マークに、ロール紙は「□」マークに合わせてください。



右側のプッシュローラーのセット位置

プッシュローラーの「メディア押さえ部」をメディアのサイズに合わせてセットします。規格サイズ(ミリ)は上段、規格サイズ(インチ)は中段、規格外サイズとカッティング用台紙は下段のマークに合わせてください。



2.4 シート紙のセット

シート紙は、定型サイズのメディアを使用します。定型サイズ以外は、カッティング用台紙を使用してください。

- メディアの種類(特に透過性が高いメディア)によっては、メディアの先端/幅/セット位置を検出できないため、メディアをセットできない場合があります。このような場合は、カッティング用台紙を使用するか、用紙幅検出を無効にして使用してください。
- メディアの種類によっては、プッシュローラーだけでメディアを抑えきれずに浮きが発生する場合があります。浮きが発生する場合は、メディアの中央または、浮きが激しい部分にメディア押さえローラー(可動式)を移動してください。浮きが発生していない場合は、右側のプッシュローラーにメディア押さえローラー(可動式)を寄せてください。
- メディア押さえローラー(可動式)の移動は、メディアセットレバーを上げてから行ってください。
- コシの弱いメディア、極端に薄いメディアは、カットすることができません。

カッティング用台紙については、「4.2 カッティング用台紙を使用したカット」を参照してください。

用紙幅検出については、「5.7 メディア動作の調整」を参照してください。

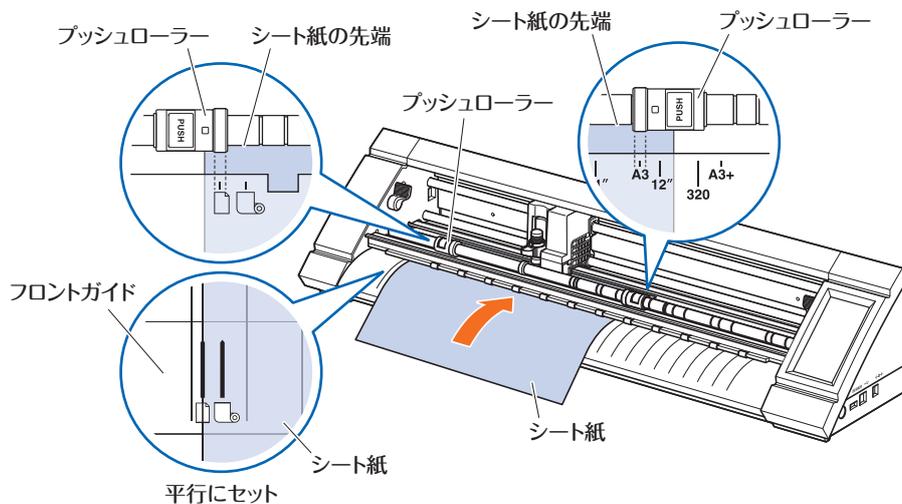
使用できるサイズ：A4～20inchサイズ(「1.5 メディアサイズと作図範囲」参照)

プッシュローラーに突当ててセット

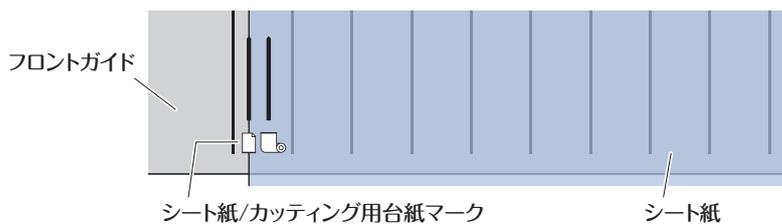
1. メディアセットレバーを上げて、プッシュローラーを解除します。
2. 左側のプッシュローラーを「□」マーク位置にセットします。
右側のプッシュローラーは、シート紙の幅に合わせてセットします。
3. 左右のメディアセットレバーを下げて、プッシュローラーをロックします。
4. 「HOME」画面から「メディアセット」→「シート」を押します。



5. シート紙の先端をプッシュローラーに均等に突当てます。
シート紙は、プッシュローラー位置ガイドの下を通し、フロントガイドに平行になるようにセットしてください。



6. シート紙の左端をフロントガイドの「□」マークの「I」印に合わせます。



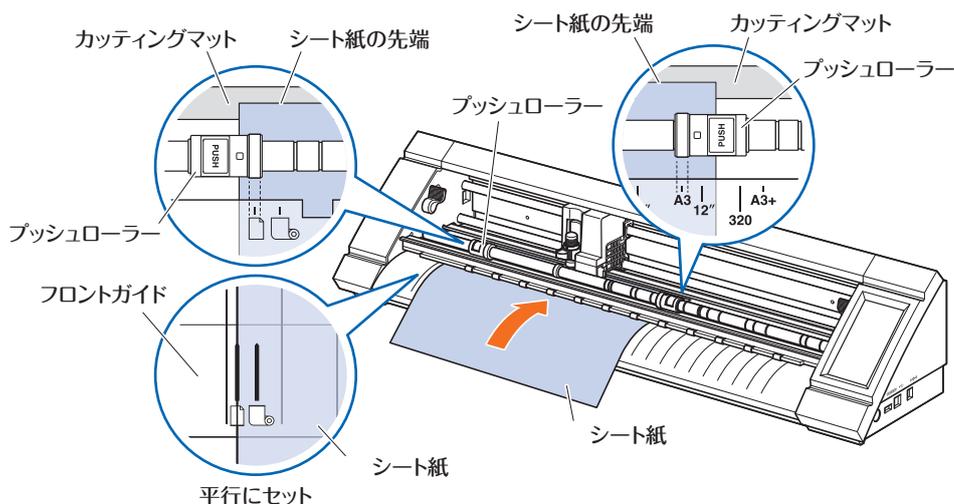
7. メディアの幅・先端・後端を検出し、シート紙がセットされます。
エラー表示が出た場合は、画面の指示に従って操作してください。

⚠ 注意

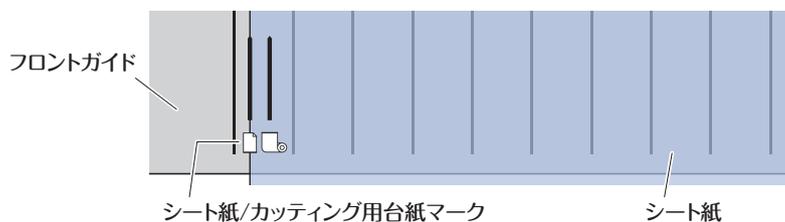
「シート」を押すと、メディアやツールキャリッジが動き出します。体や物に触れないようご注意ください。

プッシュローラーを解除してセット

1. メディアセットレバーを上げて、プッシュローラーを解除します。
2. 左側のプッシュローラーを「□」マーク位置にセットします。
右側のプッシュローラーは、シート紙の幅に合わせてセットします。
3. シート紙の先端をプッシュローラーの奥のカットマット(白い半透明のマット)まで差し込みます。
シート紙は、プッシュローラー位置ガイドの下を通し、フロントガイドに平行になるようにセットしてください。
シート紙を奥に差し込みすぎると、メディアを検出できない場合があります。



4. シート紙の左端をフロントガイドの「□」マークの「|」印に合わせます。



5. 左右のメディアセットレバーを下げて、プッシュローラーをロックします。

6. 「HOME」画面の「メディアセット」を押します。
「シート」を押すと、メディアの幅・先端・後端を検出し、シート紙がセットされます。
エラー表示が出た場合は、画面の指示に従って操作してください。

⚠ 注意

「シート」を押すと、メディアやツールキャリッジが動き出します。体や物に触れないようご注意ください。



シート紙の取り出し

1. 作図動作が停止していることを確認します。
2. 「メディア取り出し」を押すと、本機前方よりメディアが排出されます。



2.5 CONDITION NO.(カット条件)の確認

ツールのカット条件を登録してあるCONDITION NO.を選択して、設定内容を確認します。

表示されているものが、現在選択されているCONDITION NO.とカット条件です。

「HOME」画面の「◀」「▶」で使用するCONDITION NO.を選択し、設定内容を確認してください。

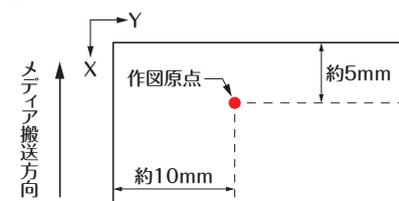
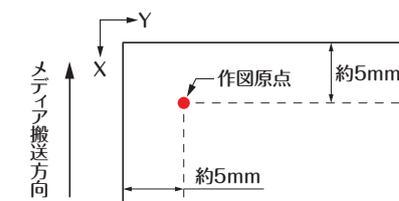
CONDITION NO.とカット条件の設定は、「5.1 カット条件の設定を個別に登録」を参照してください。



2.6 データーを作成する際の注意

作図原点位置について

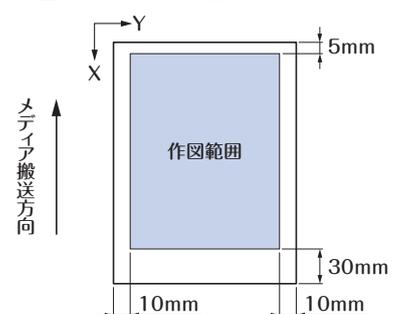
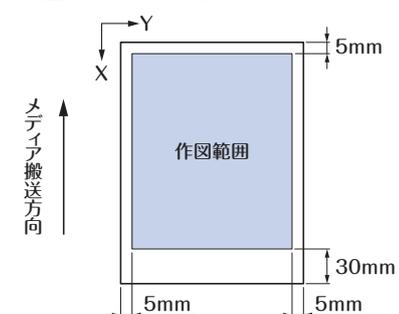
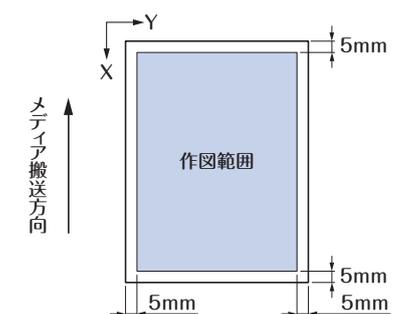
作図原点の位置は、「作図範囲」の設定により変わります。下記を参照して、作図データーを作成してください。

傾き補正:あり 余白:普通/拡張	傾き補正:なし 余白:普通	傾き補正:なし 余白:拡張
<p>作図原点(0,0)は、余白の設定状態に関わらずメディアエッジの頂点付近になります。</p>  <p>●メディアエッジから約5mmの間は、作図範囲外となりますので、作図データーが存在してもカットされません。</p>	<p>作図原点(0,0)は、有効作図エリアの頂点になります。先端エッジから約5mm、左エッジから約10mmの点。</p> 	<p>作図原点(0,0)は、有効作図エリアの頂点になります。先端エッジおよび左エッジから約5mmの点。</p> 

- トンボ読み取り時の作図原点は、「3.3 トンボ読み取り プリント&カット」を参照してください。
- 作図原点を変更したい場合は、「4.6 作図位置を指定してのカット」を参照してください。
- 傾き補正を変更したい場合は、「3.2 シンプル プリント&カット」を参照してください。
- 余白の設定を変更したい場合は、「4.7 作図範囲の拡張」を参照してください。

作図範囲について

作図範囲は、メディアと「作図範囲」の設定により変わります。下記を参照して、作図データーを作成してください。

<p>メディア:シート紙 傾き補正:あり/なし、余白:普通</p> <p>先端:5mm / 左右:10mm / 後端:30mm</p> 	<p>メディア:シート紙 傾き補正:あり/なし、余白:拡張</p> <p>先端:5mm / 左右:5mm / 後端:30mm</p> 
<p>メディア:カッティング用台紙 余白:普通/拡張</p> <p>先端:5mm / 左右:5mm / 後端:5mm</p> 	

- 余白の設定を変更したい場合は、「4.7 作図範囲の拡張」を参照してください。
- カッティング用台紙については、「4.2 カッティング用台紙を使用したカット」を参照してください。

2.7 作図データの送信

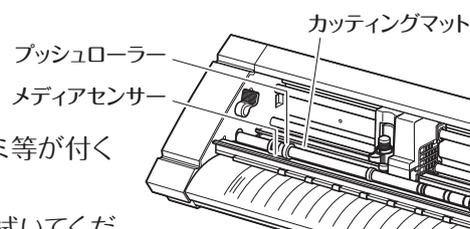
パソコンから以下の環境にて作成した作図データを送信してください。詳細は各ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

- 専用ソフトウェア：Graphtec Pro Studio Plus(オプション)
- 専用ソフトウェア：Graphtec Pro Studio
- 専用ソフトウェア：Graphtec Studio for Mac
- 専用プラグインソフトウェア：Cutting Master 4
- 専用Windows Driver

2.8 日常のお手入れ

日常のお手入れは、以下の事項に注意して行ってください。

- 機構部には、注油しないでください。
- 本体の清掃は、乾いた布で拭くか、中性洗剤を薄めた物を布に付けて拭いてください。
シンナー・ベンジン・アルコールなどは表面を痛めますので使用しないでください。
- カッティングマットが汚れている場合は、乾いた布で拭いてください。
汚れのひどい場合は、アルコールまたは中性洗剤を薄めた物を布に付けて拭いてください。
- メディアを検出するセンサー部や搬送させるローラー部にホコリやゴミ等が付くと誤動作の原因になります。
定期的にアルコールまたは中性洗剤を薄めた物を布や綿棒に付けて拭いてください。
※ ベンジン・シンナー等は、絶対に使用しないでください。
- Yレール摺動面が汚れた場合は、清潔な(きれいな)乾いた布で静かに汚れを拭き取ってください。
※ 摺動面には、潤滑油がしみ出ています。無理に拭き取らないでください。



保存方法

使用しないときの保存方法は、以下の事項に注意して行ってください。

- ツールは、ツールホルダーから外して保存してください。
- 本体に布のおおいを被せて、ホコリを防いでください。
- 直射日光の当たる場所や、温度・湿度が高くなるような場所に保存しないでください。
- メディアセットレバーを上げて、プッシュローラーを解除した状態にしてください。

カッターペンの清掃

カッター刃の先端にメディアカス等が付着していると、カット品質が悪くなります。

定期的に清掃し、メディアカス等を取り除いてください。

⚠ 注意

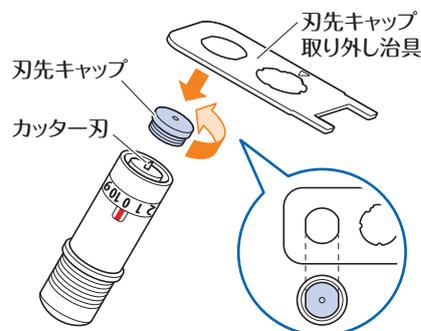
- カッター刃の取り扱い、手などを切らないよう十分に注意して行ってください。
- カッター刃の先端は、エアまたは柔らかい素材で清掃してください。固い素材を使用すると刃が欠けたり折れたりする原因になります。

1. カッターペンの赤いラインに「0」を合わせて、刃が出ていない状態にします。

2. 刃先キャップを反時計方向に回して取り外します。
刃先キャップは、真っ直ぐな部分を刃先キャップ取り外し治具に合わせ、カッターペンの数値部分を持って、取り外してください。

3. 取り外した刃先キャップとカッター刃をエアまたは柔らかい素材で清掃します。

4. 取り外した刃先キャップを時計方向に回して取り付けます。
刃先キャップは手で取り付けた後、刃先キャップ取り外し治具でしっかりと締めてください。



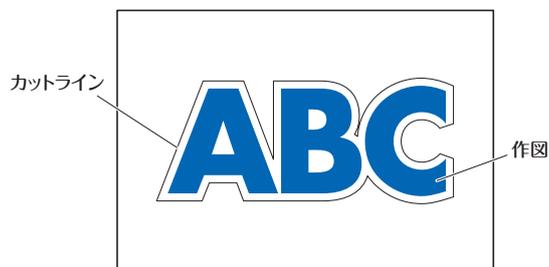
3章 印刷に合わせてのカット

この章では、印刷物に合わせてカットする「プリント&カット」とトンボについて説明します。

- 3.1 プリント&カットとは
- 3.2 シンプル プリント&カット
- 3.3 トンボ読み取り プリント&カット
- 3.4 トンボの種類と配置
- 3.5 トンボ作成からカットまでの流れ

3.1 プリント&カットとは

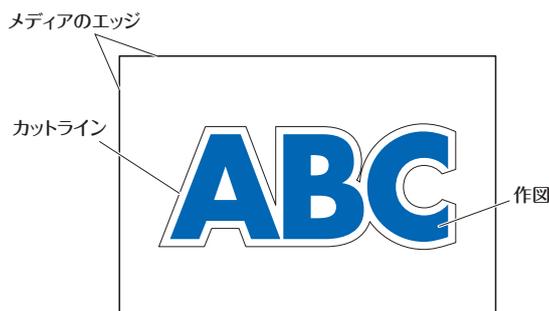
印刷データの作図に合わせてカットラインを入れることで、シール等の作成が行えます。本機では、このプリント&カットを実現するために2つの機能を搭載しました。お使いいただく環境に合わせて使い分けてください。



シンプル プリント&カット

メディアのエッジを検出し、その位置から印刷データの作図位置を予測しカットラインを入れます。トンボを描くことのできないメディアを使用する際に有効です。

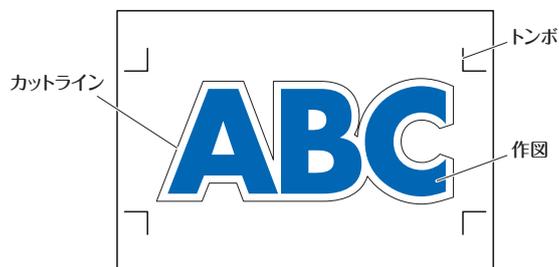
ただし、メディアのエッジを検出するので、定型メディアであることや印刷機的位置精度の影響を受ける等の条件が付きます。



トンボ読み取り プリント&カット

印刷物にトンボ(基準線)を付加して印刷します。そのトンボをセンサーで検出し、その位置から印刷データの作図位置を予測しカットラインを入れます。

メディアの下地等の影響を受けるので、トンボが検出しづらいメディアは使用できません。



3.2 シンプル プリント&カット

メディアセット時に位置と傾きを検出して、印刷物とカットラインの重ね合わせを行います。

- トンボを使用しないので、下地の絵柄によってトンボ検出ができない等の影響はありません。
ただし、印刷物の印刷位置精度の影響を受けますので、印刷位置精度の良い印刷機を使用する事をお勧めします。
- 必ず、正しく裁断された定型紙をお使いください。
- 透明なメディアでは使用できません。使用する場合は、透明ではない離型紙を使用してください。
- エッジが乱雑に切られているメディアや傷んでいるメディアは、誤検出の原因になります。
- ロール紙では、使用できません。
- ソフトウェアで選択するメディアサイズ設定は、必ず本体にセットした定型紙と同じサイズにしてください。

1. 「HOME」画面の「◀」「▶」で使用する CONDITION NO. を選択し、ツールをセットします。



2. 「MENU」画面から「作図範囲 1/2」画面を開き、「用紙傾き合せ」を「オン」にします。

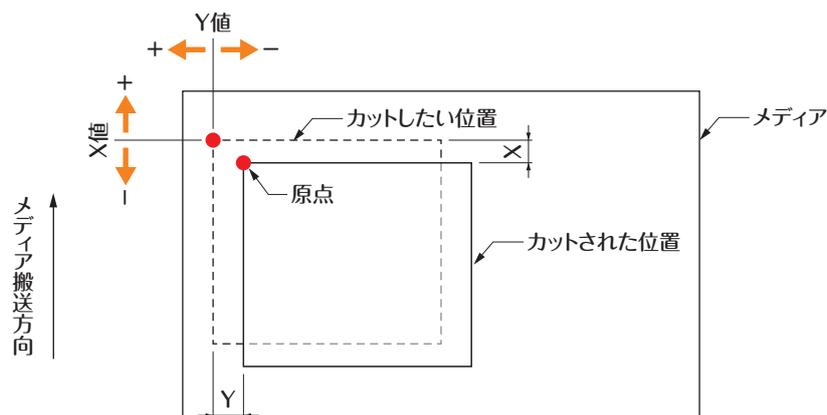


3. ✕ (終了) で「HOME」画面まで戻り、印刷物をセットしてサンプルカットを行います。

4. カットされた印刷物に対するカットラインのズレ量を測ります。

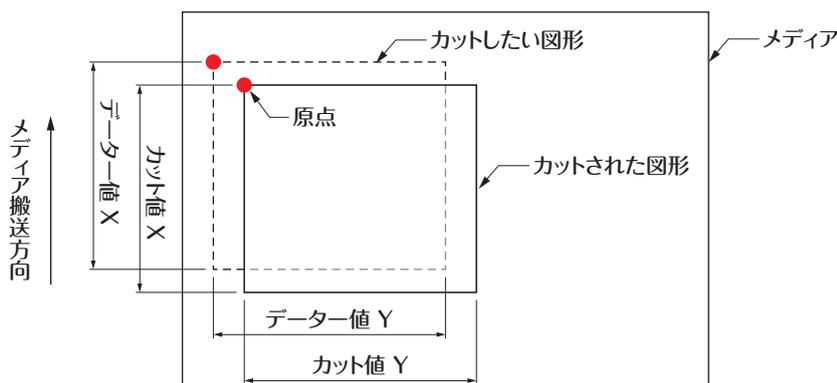
オフセット量を決める

カットしたい位置とカットされた位置の原点近くのX(縦)とY(横)のオフセット量(ズレの量)を測ります。下図では、X/Yともマイナスの値になります。

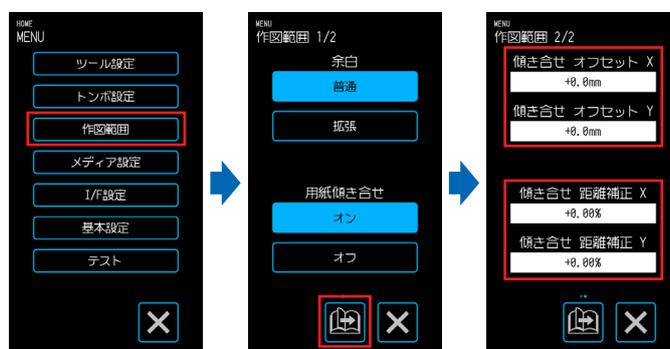


距離補正量を決める

データの図形(印刷物)とカットされた図形のX(縦)とY(横)の長さを測ります。



5. 「MENU」画面から「作図範囲 1/2」→「作図範囲 2/2」画面を開き、オフセットと距離補正の補正值の入力を行います。数値入力の白いボックス内を押すと、入力画面に移行します。X/Y方向のオフセット量とX/Y方向の距離補正量を数値入力してください。



数値入力の方法

オフセット量：

ズレ量を入力し、 (確定) で確定します。

距離補正量：

拡大／縮小率(%)を入力し、 (確定) で確定します。

カットされた値が50mmで、データ値が51mmの場合、
 $(\text{データ値}[51] - \text{カットされた値}[50]) / \text{カットされた値}[50] \times 100(\%) = 2$

となり、+2%を設定します(設定後は、カットする長さが51mmになります)。



6. (終了) で「HOME」画面まで戻り、印刷物をセットしてカット操作を行います。

7. 複数カットする場合は、メディアを交換しながらデータを送信してください。印刷物のセット時の傾きに合せてプリント&カットを行います。

3.3 トンボ読み取り プリント&カット

メディアに描かれたトンボ(基準線)をセンサーで読み取りカットします。
印刷された図形の輪郭をカットする際やメディアを再カットする際に印刷位置のズレを補正し、高精度なカットイン
グを実現します。

- トンボ検出エラーでトンボが検出できない場合や検出できてもカットがズれてしまう場合は、「5.6 トンボの読み取り設定」を参照して設定を変更してください。

1. トンボが描かれた印刷物を作成します(「3.4 トンボの種類と配置」参照)。

2. 「HOME」画面の「◀」「▶」で使用するCONDITION NO.を選択し、ツールをセットしま
す。



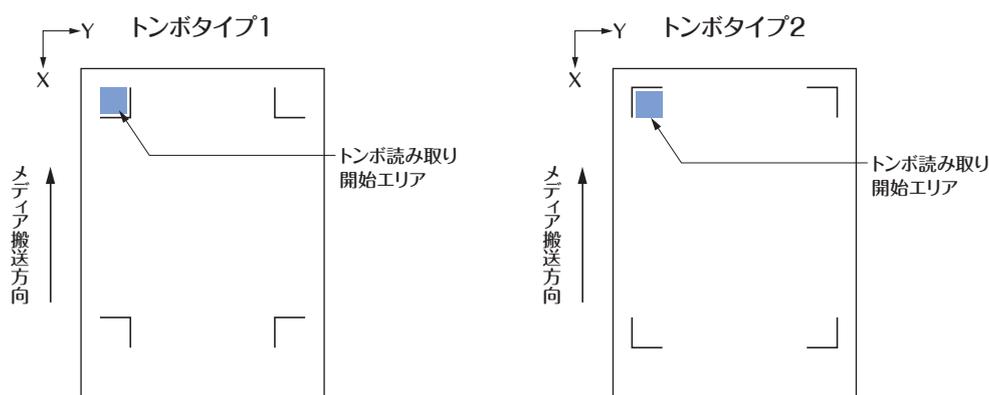
3. トンボが描かれた印刷物をセットします。

4.  (ポジション) を押して「ツール移動」画面を開きます。



5. 「▲」「▼」「◀」「▶」で、ツールをトンボ読み取り開始エリアに移
動します。

ツールの現在位置がトンボ読み取り開始エリアと離れている場合
には、トンボ検索に時間が掛かったり見つからずにエラーになる場
合があります。



6.  (終了) で「HOME」画面まで戻り、カット操作を行います。

7. 複数カットする場合は、メディアを交換しながらデータを送信してください。
印刷物のセット時の傾きに合せてプリント&カットを行います。

3.4 トンボの種類と配置

本機で読み取れるトンボの説明をします。

内容を理解した上、専用アプリケーションソフトの「Graphtec Pro Studio」「Cutting Master 4」「Graphtec Studio for Mac」で作成してください。

アプリケーションソフトは、弊社ホームページからダウンロードしてください。

URL: http://www.graphtec.co.jp/site_download/index.html

トンボの形状

トンボの形状は、タイプ1・タイプの2種類です。

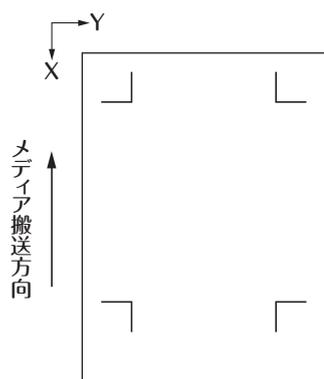
トンボは、専用アプリケーションソフトで作図データとして作成してください。アプリケーションソフト独自のトンボは使用できません。

トンボの線の太さ: 0.3 ~ 1.0mm

トンボサイズ: 5 ~ 20mm

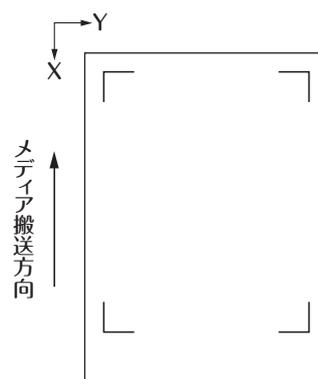
トンボタイプ1

作図範囲の中にトンボを入れたくない場合に使用します。メディアに対してトンボの大きさの分、作図範囲が狭くなります。



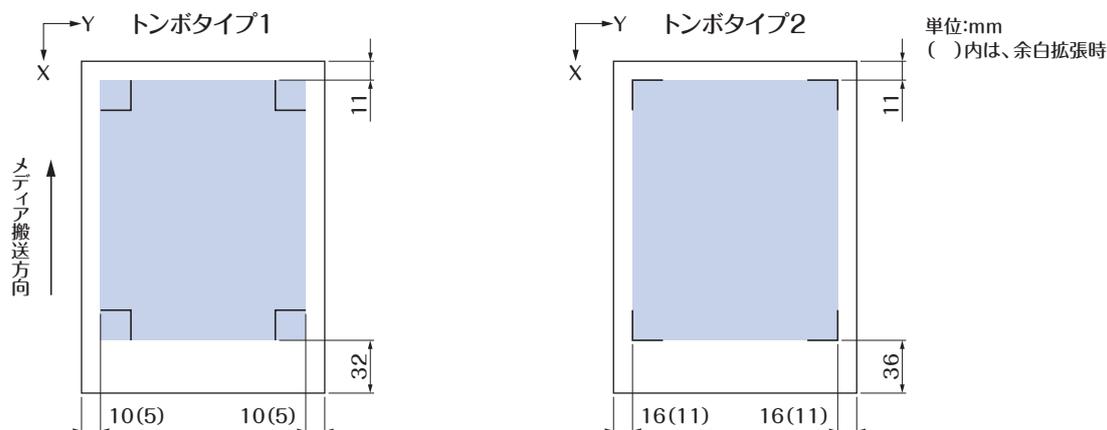
トンボタイプ2

作図範囲をメディアの大きさになるべく近づけたい場合に使用します。作図範囲にトンボが入ってしまうので、注意が必要です。トンボの近くには作図できません。



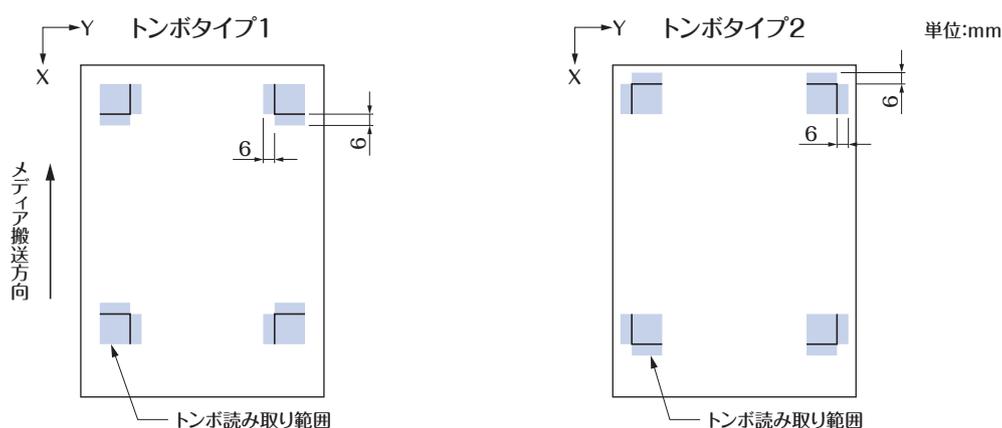
トンボの配置位置

トンボは、メディアの端に余白をとって配置します。



トンボ読み取りに必要な範囲は、下図のとおりです。

- トンボ読み取り範囲にトンボ以外の作図があると、トンボと誤認する可能性があります。
- メディアの汚れやゴミ等は清掃してください。汚れやゴミ等をトンボと誤認する可能性があります。
- トンボは、白いメディアに黒で描画するなど読み取りやすいコントラストにしてください。白以外のメディアや光沢のあるメディアを使用する場合は、トンボの読み取り設定を調整してください。(「5.6 トンボの読み取り設定」参照)

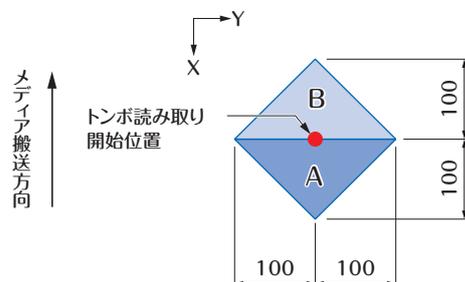


- トンボ検出エラーになる場合は、トンボの読み取り設定を行います。(「5.6 トンボの読み取り設定」参照)
- 専用アプリケーションを使用したトンボの作成に付いては、「3.5 トンボ作成からカットまでの流れ」を参照してください。

トンボ位置自動検出

トンボ読み取り開始位置(ツールの位置)から「A」の範囲を検出し、「A」の範囲にトンボが無ければ「B」の範囲を検出します。

「A」または「B」の範囲内にトンボが存在すると、トンボと認識することができます。



メディアの状態によって、トンボを読み取るのが難しい場合があります。

- 透明なメディア
- トンボ線の印刷がかすれているメディア
- 折れているメディア
- 表面が汚れているメディア
- 厚さが0.6mm以上あるメディア
- ラミネートされているメディア(ラミネートの種類、状態による)
- 白地に黒線トンボで印刷されていないメディア

白地に黒色トンボで印刷されていないメディアを使用する場合は、トンボ自動検出の設定をオフにします。(「トンボ位置自動検出の設定」参照)

また、トンボの読み取り設定を行います。(「5.6 トンボの読み取り設定」参照)

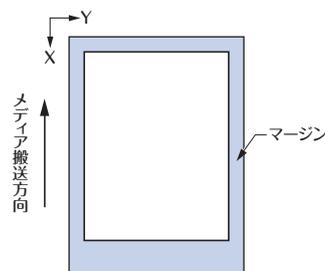
3.5 トンボ作成からカットまでの流れ

専用アプリケーションを使用した場合のトンボ作成からカットまでの流れを説明します。

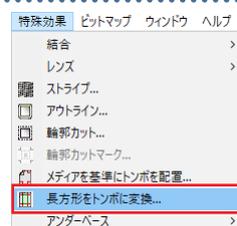
Graphtec Pro Studio

[1] トンボを作成する

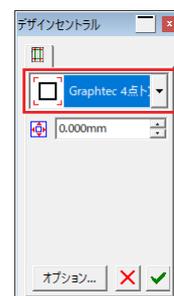
1. Graphtec Pro Studioの「長方形」ツールを使用して、デザイン上に長方形を作成します。
長方形を作成するときにメディア端からのマージンが必要です。印刷するプリンターにより、印刷位置が異なることがあるので、マージンは数ミリ余裕を持つことをお勧めします。



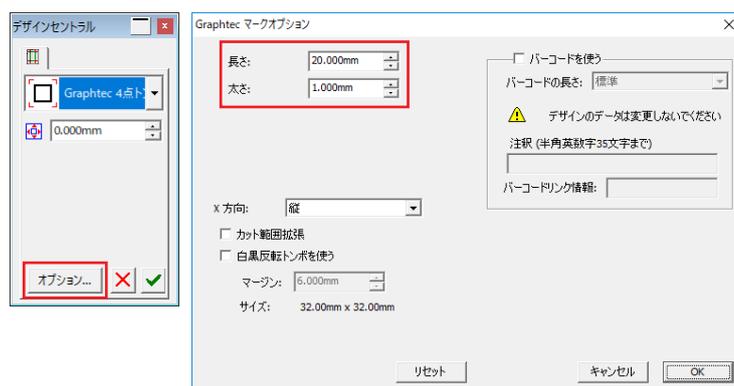
2. 長方形を選択して、「特殊効果」-「長方形をトンボに変換」を選択します。



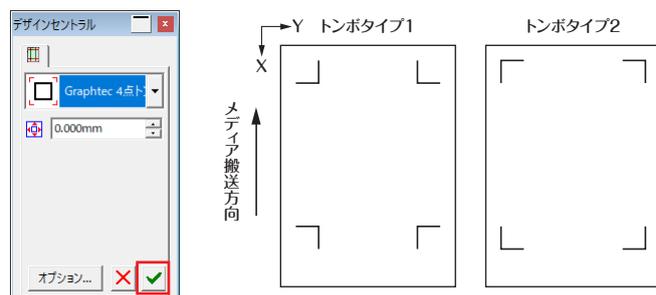
3. 「デザインセントラル」画面のトンボタイプを選択します。



4. 「オプション」を押します。
「Graphtecマークオプション」画面が表示されるので、トンボの長さや太さを指定してください。
指定が完了したら画面を閉じます。

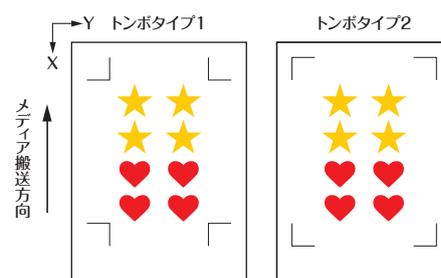


5. 「デザインセントラル」画面の「[✓]」を押します。
デザイン上にトンボが作成されます。



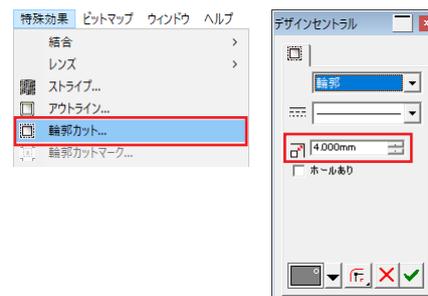
[2] プリント&カットのデータを作成する

1. プリント & カットするためのプリントデータを作成します。



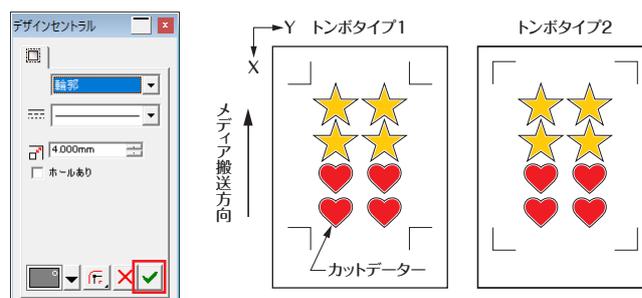
2. プリントデータを選択して、「特殊効果」-「輪郭カット」を選択します。

「デザインセントラル」画面で、輪郭のオフセット量を選択します。



3. 「デザインセントラル」画面の「」を押します。

デザイン上にカットデータが作成されます。



[3] 作成したデータを印刷する

1. 作成したデータを印刷します。

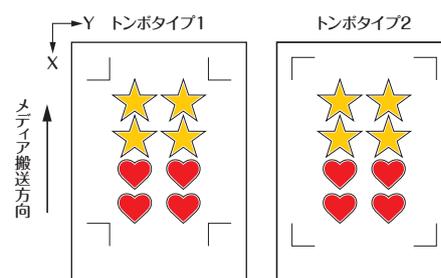
⚠ 注意

トンボ読み取りに失敗してカットできなくなる原因となりますので、印刷時は以下の点に注意してください。

- 拡大 / 縮小の倍率を100%に設定します。
- 印刷位置(中央 / 左下など)の設定は、「変更しない」に設定します。

[4]印刷したメディアをカットする

1. 印刷したメディアをCE LITE-50にセットします。
(「2.4 シート紙のセット」参照)

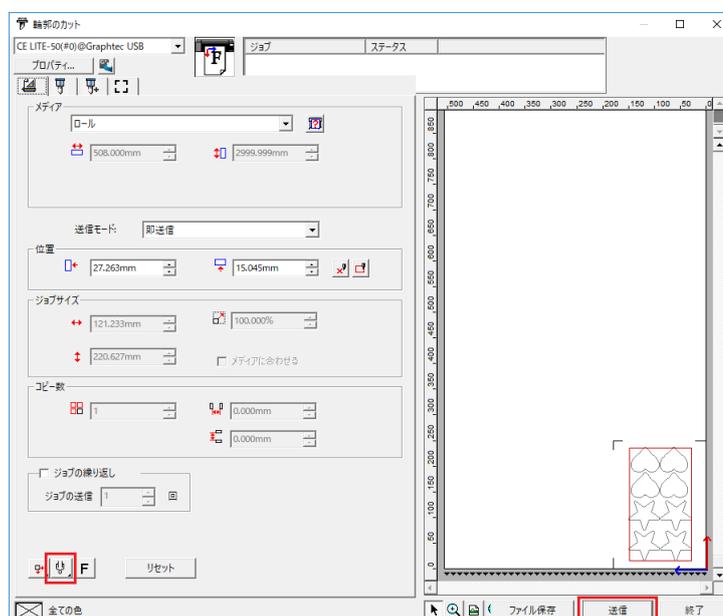


2. 「輪郭のカット」アイコンをクリックします。



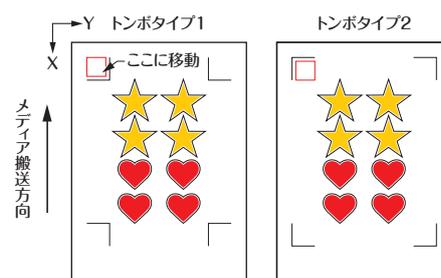
3. 「輪郭のカット」画面が起動します。
メディアのセット方向を合わせるために回転を「」に設定します。

- 初めて「輪郭のカット」画面を表示した場合は、「デバイスを追加」画面が表示されます。
画面の指示に従って、機種名は「CE LITE-50」、接続先は「Graphtec USB」を選択してください。



4. 「送信」を押します。

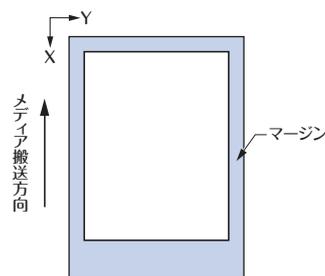
5. 確認画面が表示されます。
左上のトボ(赤色の四角)にツールを移動して「OK」を押します。
トボの検出が始まり、全てのトボを検出し終わるとカットを開始します。



Cutting Master 4

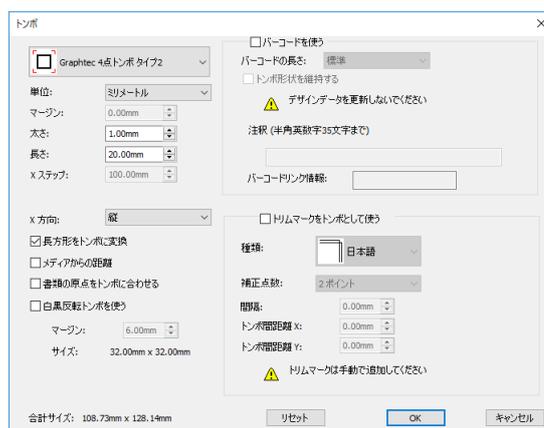
[1] トンボを作成する

1. IllustratorまたはCoreDRAWの「長方形」ツールを使用して、デザイン上に長方形を作成します。
長方形を作成するときにメディア端からのマージンが必要です。印刷するプリンターにより印刷位置が異なることがあるので、マージンは数ミリ余裕を持つことをお勧めします。

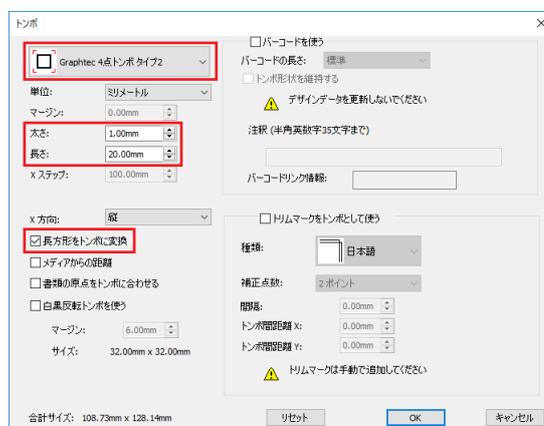


2. 長方形を選択後、Illustratorの場合は、ファイルメニューから「Cutting Master4」-「トンボ」を選択します。CoreDRAWの場合は、ツールバーから「起動」-「トンボ (CM4)」を選択します。

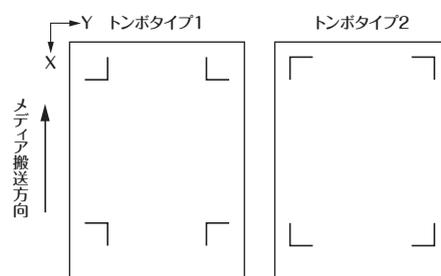
- CoreDRAWのバージョンがX7以前の場合は、アプリケーションランチャーから選択すると、トンボ画面が表示されます。
- 右画面は、Illustratorから起動した場合の画面です。



3. トンボのタイプ、太さ、長さを指定します。「長方形をトンボに変換」にチェックを入れます。

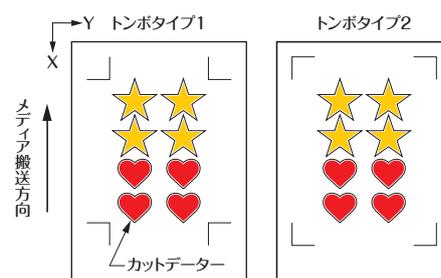


4. トンボ画面を閉じます。デザイン上にトンボが作成されます。



[2] プリント&カットのデータを作成する

1. プリント&カットするためのプリントデータを作成します。
プリントデータとカットデータは、レイヤーを分けて作成することをお勧めします。



[3] 作成したデータを印刷する

1. 作成したデータを印刷します。
印刷する前に、カットデータのレイヤーは非表示に設定してください。

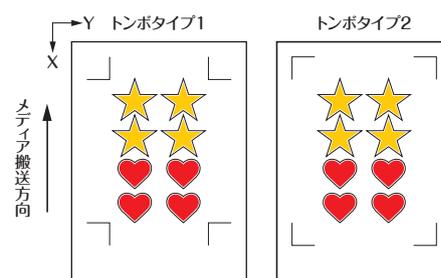
⚠ 注意

トノボ読み取りに失敗してカットできなくなる原因となりますので、印刷時は以下の点に注意してください。

- 拡大/縮小の倍率を100%に設定します。
- 印刷位置(中央/左下など)の設定は、作成したドキュメントの位置と印刷結果の位置関係が同じになるように設定します。

[4]印刷したメディアをカットする

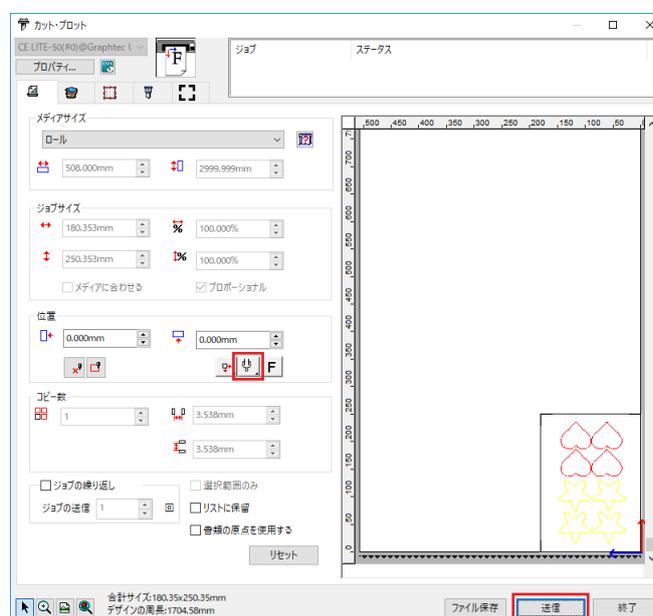
1. 印刷したメディアをCE LITE-50にセットします。
(「2.4 シート紙のセット」参照)



2. Illustratorの場合は、ファイルメニューから「Cutting Master4」-「カット・プロット」を選択します。
CorelDRAWの場合は、ツールバーから「起動」-「カット・プロット(CM4)」を選択します。
 - CoreDRAWのバージョンがX7以前の場合は、アプリケーションランチャーから選択します。
カット・プロットを選択する前に、プリントデータのレイヤーは非表示に設定してください。

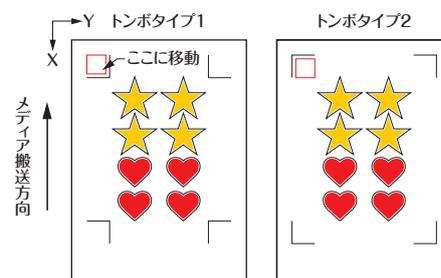
3. 「カット・プロット」画面が起動します。
メディアのセット方向を合わせるために回転を「」に設定します。

- 初めて「カット・プロット」画面を表示した場合は、「デバイスを追加」画面が表示されます。
画面の指示に従って、機種名は「CE LITE-50」、接続先は「Graphtec USB」を選択してください。



4. 「送信」を押します。

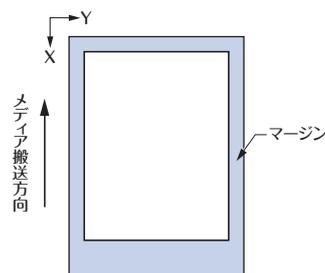
5. 確認画面が表示されます。
左上のトンボ(赤色の四角)にツールを移動して「OK」を押します。
トンボの検出が始まり、全てのトンボを検出し終わるとカットを開始します。



Graphtec Studio

[1] トンボを作成する

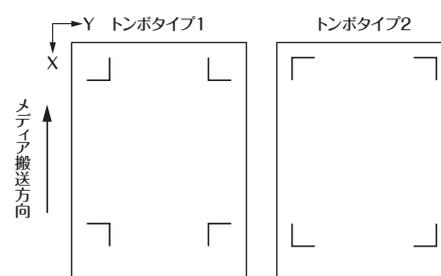
1. Graphtec Studioの「トンボ」タブからデザイン上にトンボを作成します。
トンボを作成するときにメディア端からのマージンが必要です。印刷するプリンターにより、印刷位置が異なることがあるので、マージンは数ミリ余裕を持つことをお勧めします。



2. トンボのパターン、長さ、太さ、配置位置を指定します。

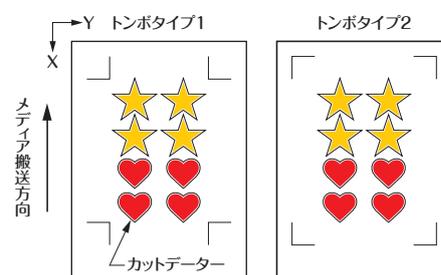


3. デザイン上にトンボが作成されます。



[2] プリント&カットのデータを作成する

1. プリント&カットするためのプリントデータとカットデータを作成します。
カットデータは、プリントデータで使用していない色を指定して作成してください。



[3] 作成したデータを印刷する

1. 作成したデータを印刷します。

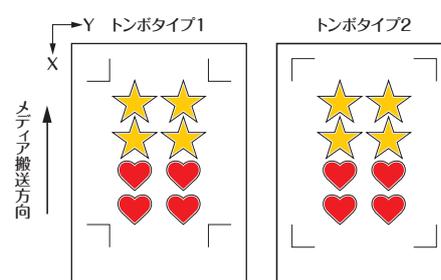
⚠ 注意

トンボ読み取りに失敗してカットできなくなる原因となりますので、印刷時は以下の点に注意してください。

- 拡大 / 縮小の倍率を100%に設定します。
- 印刷位置(中央 / 左下など)の設定は、作成したドキュメントの位置と印刷結果の位置関係が同じになるように設定します。

[4] 印刷したメディアをカットする

1. 印刷したメディアをCE LITE-50にセットします。
(「2.4 シート紙のセット」参照)



2. 「カットジョブの設定」パネルを開きます。
「カット条件の割り当て」から「色別」を選択して、カットする色を選択します。



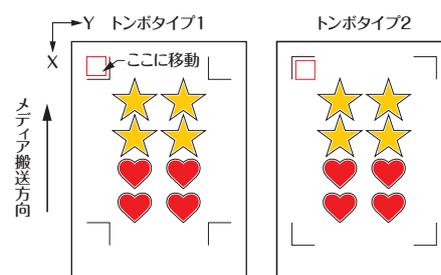
3. 「ページ」パネルを開きます。
メディアのセット方向を合わせるために回転を「180°」に設定します。



4. 「カッティングプロッター」パネルを開きます。

5. 左上のトンボ(赤色の四角)にツールを移動します。

6. 「カットジョブを送信」を押します。
トンボの検出が始まりすべてのトンボを検出し終わると、カットを開始します。



4章 便利な機能

この章では、本機に搭載されている便利な作図機能について説明します。

- 4.1 ロール紙のカット
- 4.2 カッティング用台紙を使用したカット
- 4.3 筆記ペンでの作図
- 4.4 USBメモリからのカット
- 4.5 同じデータを複数カット(コピー機能)
- 4.6 作図位置を指定してカット
- 4.7 作図範囲の拡張
- 4.8 カットの中止と一時停止
- 4.9 ツールキャリッジの退避

4.1 ロール紙のカット

ロール紙は、定型サイズ幅のメディアを付属のロール紙ストッカーにセットして使用してください。

- メディアの種類(特に透過性が高いメディア)によっては、メディアの先端/幅/セット位置を検出できないため、メディアをセットできない場合があります。このような場合は、用紙幅検出を無効にして使用してください。
- メディアの種類によっては、プッシュローラーだけでメディアを抑えきれずに浮きが発生する場合があります。浮きが発生する場合は、メディアの中央または、浮きが激しい部分にメディア押さえローラー(可動式)を移動してください。浮きが発生していない場合は、右側のプッシュローラーにメディア押さえローラー(可動式)を寄せてください。
- メディア押さえローラー(可動式)の移動は、メディアセットレバーを上げてから行ってください。
- コシの弱いメディア、極端に薄いメディアは、カットすることができません。

用紙幅検出については、「5.7 メディア動作の調整」を参照してください。

使用できる幅 : A4 ~ 20inch (「1.5 メディアサイズと作図範囲」参照)

装着可能な径 : 2inch 紙管 最大径150mm、最小径52.8mm

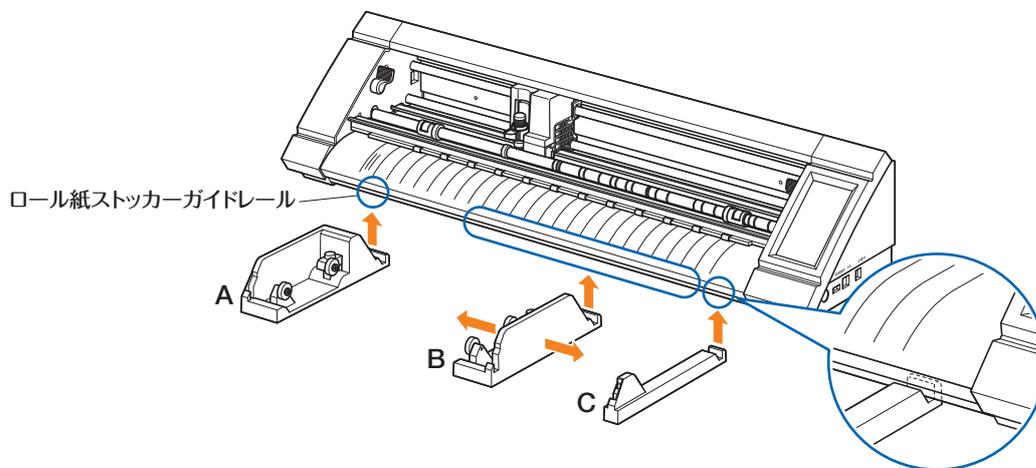
3inch 紙管 最大径150mm、最小径78.2mm

装着可能な重量 : 2.5kg 以下

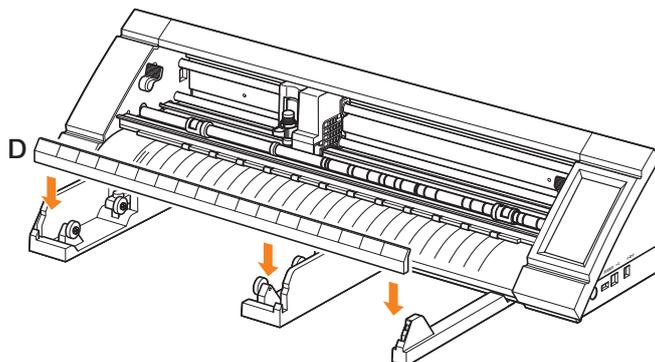
ロール紙ストッカーの組み立て

ロール紙ストッカーを本体下部にあるロール紙ストッカーガイドレールに沿わせてセットします。

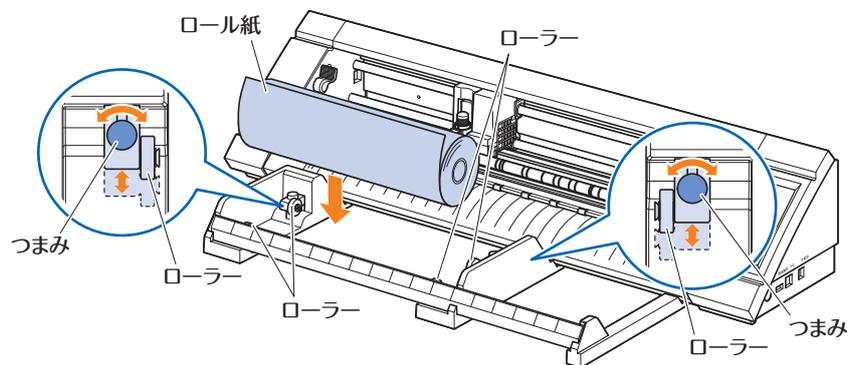
各パーツの方向に注意し、パーツAを左、パーツCを右にセットし、パーツBはロール紙の幅に合わせた位置にセットしてください。



パーツDは、パーツAとパーツCで挟み込むようにセットします。



2inch 紙管を使用する場合はローラーを手前に、3inch 紙管を使用する場合はローラーを奥にスライドさせます。
ローラーは、つまみを緩めて移動させ、つまみを締めて固定してください。
ロール紙は上から引き出す方向で、ローラーの上にセットします。



ロール紙ストッカーを使用する場合は、作図動作に影響しないよう設置スペースに注意してください(「1.4 本体の設置」参照)

ロール紙のセットと検出

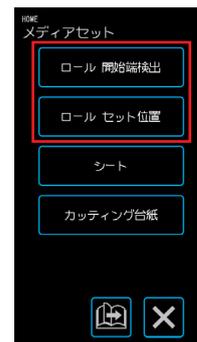
ロール紙を本機で検出(操作パネルで「メディアセット」の操作)する方法は、2種類あります。

ロール 開始端検出

ロール紙の先端から作図したい場合に使用します。ロール紙の幅と先端を検出します。

ロール セット位置

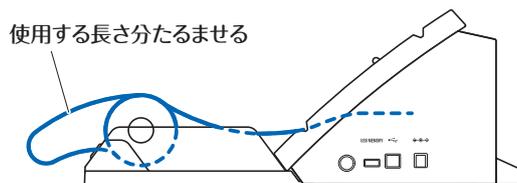
ロール紙の途中から作図したい場合に使用します。ロール紙の幅のみを検出します。



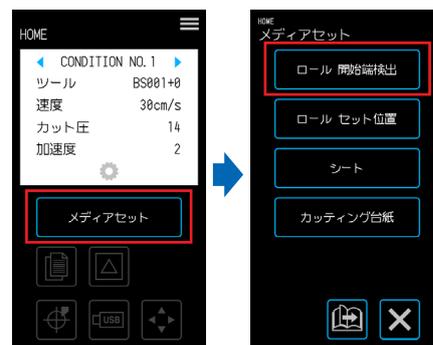
プッシュローラーに突当ててセット

ロール紙をプッシュローラーに突当ててセットする場合、検出方法は「ロール 開始端検出」となります。

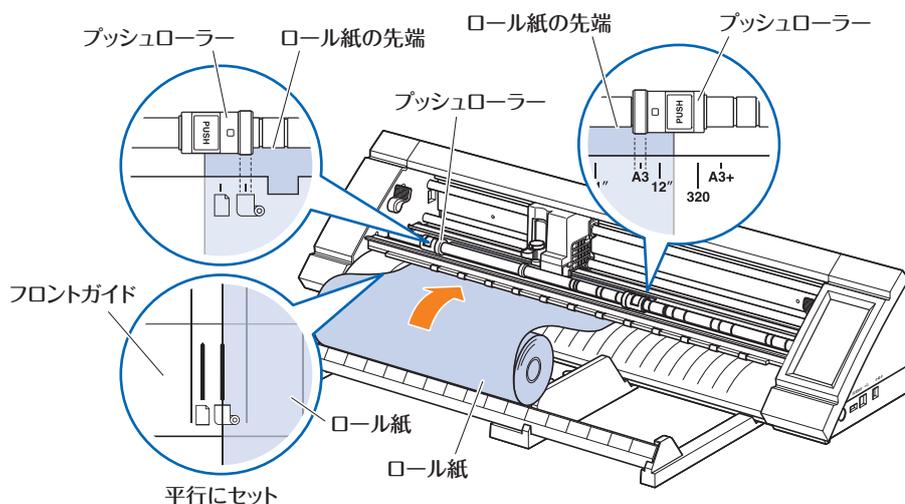
1. 左右のメディアセットレバーを上げて、プッシュローラーを解除します。
2. 左側のプッシュローラーを「」マーク位置にセットします。
右側のプッシュローラーは、ロール紙の幅に合わせてセットします。
3. 左右のメディアセットレバーを下げて、プッシュローラーをロックします。
4. ロール紙を引き出し、本体前方に使用する長さと同じ量のロール紙のたるみを作ります。



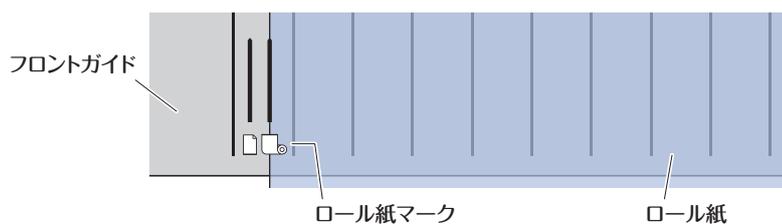
5. 「HOME」画面から「メディアセット」→「ロール 開始端検出」を押します。



6. ロール紙の先端をプッシュローラーに均等に突当てます。
 ロール紙は、プッシュローラー位置ガイドの下を通し、フロントガイドに平行になるようにセットしてください。



7. ロール紙の左端をフロントガイドの「」マークの「」印に合わせます。



8. ロール紙の幅と先端を検出し、ロール紙がセットされます。
 エラー表示が出た場合は、画面の指示に従って操作してください。

⚠ 注意

「ロール 開始端検出」を押すと、メディアやツールキャリッジが動き出します。体や物に触れないようご注意ください。

プッシュローラーを解除してセット

ロール紙をプッシュローラーを解除してセットする場合、検出方法は「ロール 開始端検出」「ロール セット位置」の2種類あります。

1. 左右のメディアセットレバーを上げて、プッシュローラーを解除します。

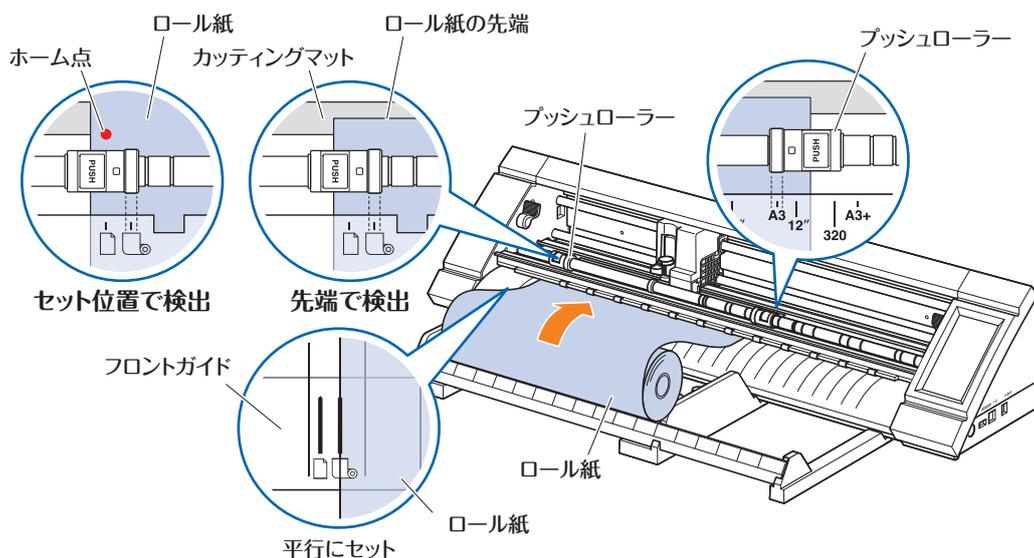
2. 左側のプッシュローラーを「」マーク位置にセットします。
右側のプッシュローラーは、ロール紙の幅に合わせてセットします。

3. ロール紙の先端で検出させる場合

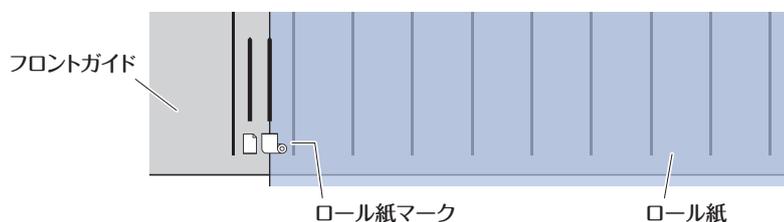
ロール紙の先端をプッシュローラーの奥のカットマット(白い半透明のマット)まで差し込みます。
ロール紙は、プッシュローラー位置ガイドの下を通し、フロントガイドに平行になるようにセットしてください。
ロール紙を奥に差し込みすぎると、メディアを検出できない場合があります。

ロール紙をセット位置で検出させる場合

ロール紙の作図を開始したい位置をホーム点まで差し込みます。
ロール紙は、プッシュローラー位置ガイドの下を通し、フロントガイドに平行になるようにセットしてください。

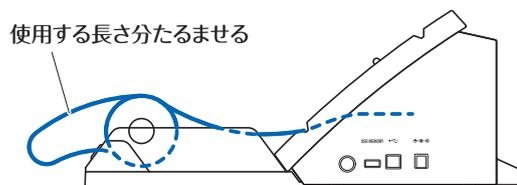


4. ロール紙の左端をフロントガイドの「」マークの「|」印に合わせます。



5. 左右のメディアセットレバーを下げて、プッシュローラーをロックします。

6. ロール紙を引き出し、本体前方に使用する長さと同じ量のロール紙のたるみを作ります。



7. 「HOME」画面の「メディアセット」を押します。

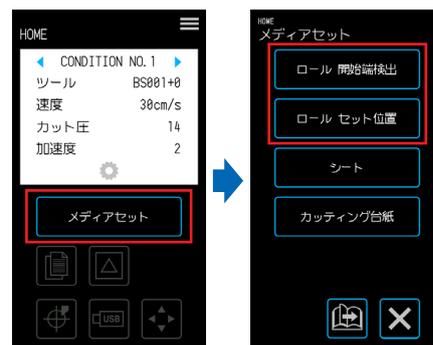
ロール紙の先端で検出させる場合

「ロール 開始端検出」を押すと、ロール紙の幅と先端を検出し、ロール紙がセットされます。

ロール紙をセット位置で検出させる場合

「ロール セット位置」を押すと、ロール紙の幅のみを検出し、ロール紙がセットされます。

エラー表示が出た場合は、画面の指示に従って操作してください。



⚠ 注意

「ロール 開始端検出」または「ロール セット位置」を押すと、メディアやツールキャリッジが動き出します。体や物に触れないようご注意ください。

ページ長さの設定

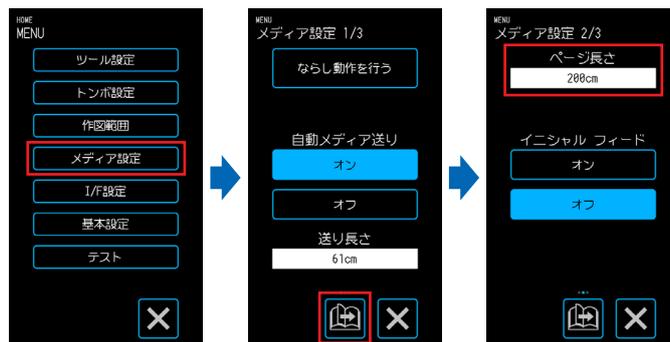
ロール紙を使用する場合の1ページの長さを設定します。

- デフォルト設定値は50cmです。長尺の作図を行うときは、ページ長さの設定を確認してください。
- 設定したページの長さを超える作図データの場合、設定の範囲内だけを作図し、超えた部分は作図しません。
- 本機は、100cmまでのページ送りについて精度保証しています(当社指定のメディアおよび設定条件によります)。
- 長尺の作図時のメディアのセットは、メディア幅方向の左右の張りを均一にしてセットしてください。均一でない場合、作図中に押さええているローラーからメディアが外れてしまうことがあります。

設定が終了したら、**✕**(終了)を押して「HOME」画面に戻ってください。

設定値 : 10 ~ 300 (cm)

1. 「MENU」画面から「メディア設定 1/3」→「メディア設定 2/3」画面を開きます。



2. 「ページ長さ」を押します。

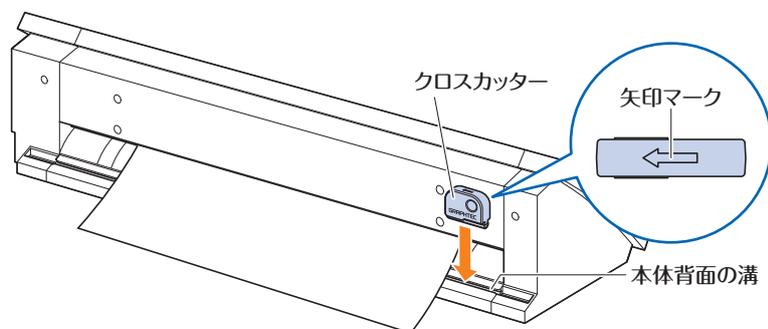
3. ページ長さを入力し、**✓**(確定)で確定します。



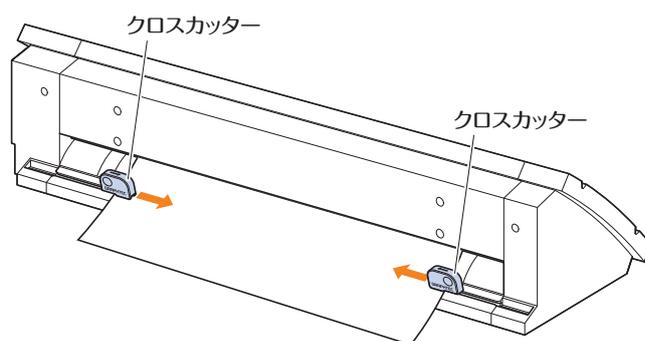
クロスカッターの使用法

クロスカッター(PM-CC-001)は、長尺メディアなどを途中で切り離す場合に用います。

1. 本体背面の溝にクロスカッターをセットします。
クロスカッターに付いている矢印マークを、必ずカットする方向に向けてセットしてください。
矢印マークがカットする方向と逆を向いていると、メディアをカットすることができません。



2. 本体背面の溝に沿ってクロスカッターをスライドさせてメディアをカットします。
クロスカットは、反対側からでも可能です。



4.2 カutting用台紙を使用したカット

カutting用台紙(PM-CM-003)を使用することにより、以下のメディアの切り抜きが可能になります。

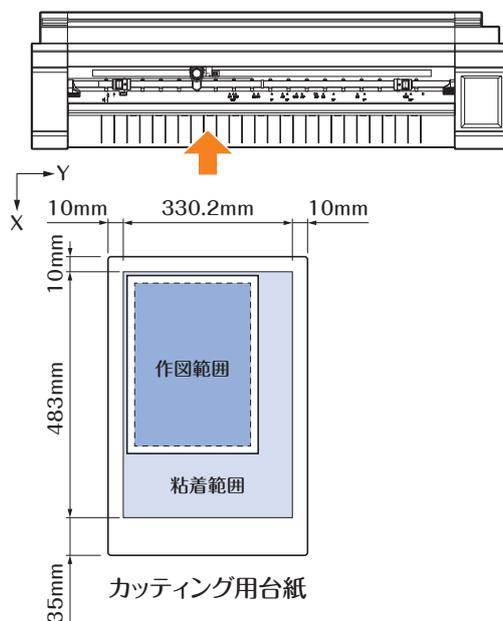
- メディアの定着用で台紙(剥離紙)のないもの。
- 台紙のないメディアをカット(切り抜き)するとき。
- A4サイズより小さいサイズのもの(官製はがき[100×148mm]より小さいメディアは、使用しないでください)。

注意事項

- カutting用台紙は再剥離タイプですが、ご使用にしたいが、反ったり、粘着力が低下したりします。その場合、新しいカutting用台紙と交換してください。
- カutting用台紙に貼りつけるメディアは、当社推奨のメディアをご使用ください。
市販のインクジェットメディアをご使用される場合、両面コートされているものは使用できません。
片面コートのインクジェットメディアの場合、コートされていない面を貼り合わせてください。コートされている面を貼り合わせた場合、カutting用台紙の粘着力が低下して使用不能になることがあります。
- カット後にカutting用台紙からメディアを取り外すときは、ゆっくり丁寧に剥がしてください。
- カutting用台紙の粘着部分は湿気を吸いやすい性質がありますので、使用直前まで袋から出さないようにしてください。
- 保管する際は、使用前に剥がしたセパレーターを粘着面に貼り付け、袋に入れて保管してください。
- 高温多湿および直射日光の当たる場所を避けて保管してください。
- 平滑性の良い(ザラツキ感のない)紙は、剥がした時にメディアに巻き癖が残る場合があります。
- コピー用紙などの薄いメディアは剥がせなくなったり、破れてしまう場合があります。

作図範囲と作図方向

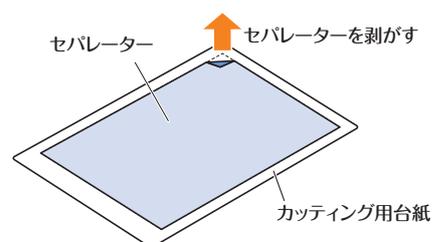
カutting用台紙の粘着範囲と作図範囲・作図方向は、以下のようになります。



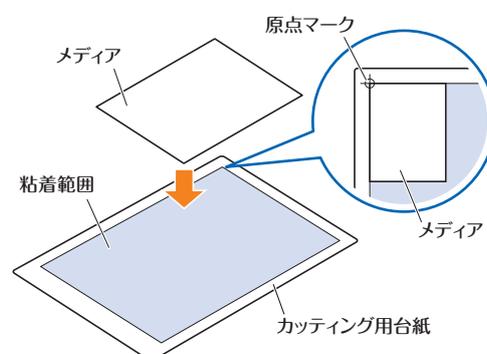
カッティング用台紙へのメディアのセット

- メディアをセットする際は、必ずカット可能範囲(粘着面)内にセットしてください。
- メディアは、粘着面と平行になるようにセットしてください。
- メディアを貼り付ける際、気泡・シワ・浮き・剥がれがない様にしっかりと押さえ付けてください。
- メディアは、カールが少ない状態でカッティング用台紙に貼り付けてください。カールしたコシの強いメディアを使用すると、トンボ読み取りエラーやメディアを引っ掛ける等不具合の原因となります。

1. カッティング用台紙のセパレーターを剥がし、粘着のある面を出します。
セパレーターは、保管の際に使用しますので、捨てないでください。



2. カッティング用台紙の粘着範囲にメディアを貼り付けます。
メディアは、カッティング用台紙左上の原点マークを基準に真っ直ぐ貼り付けてください。



カッティング用台紙のセット

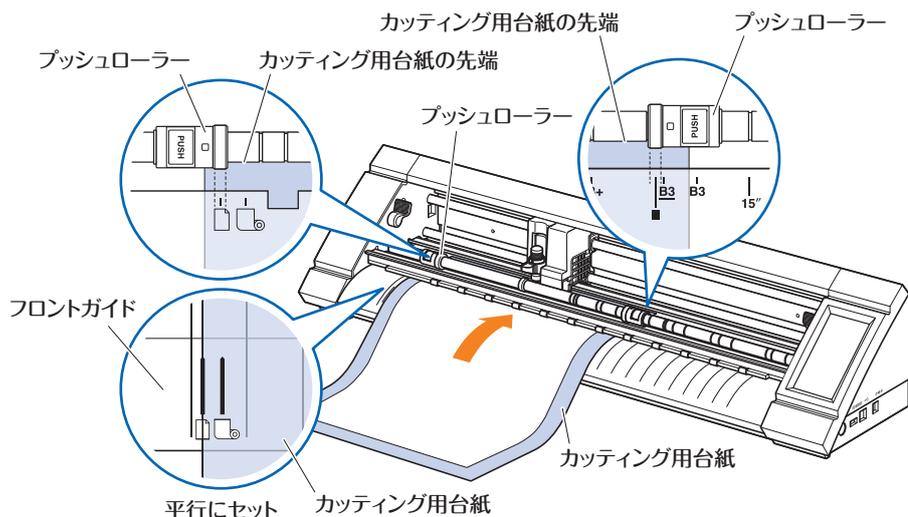
- メディアの種類によっては、プッシュローラーだけでメディアを抑えきれずに浮きが発生する場合があります。浮きが発生する場合は、メディアの中央または、浮きが激しい部分にメディア押さえローラー（可動式）を移動してください。浮きが発生していない場合は、右側のプッシュローラーにメディア押さえローラー（可動式）を寄せてください。
- メディア押さえローラー（可動式）の移動は、メディアセットレバーを上げてから行ってください。

プッシュローラーに突当ててセット

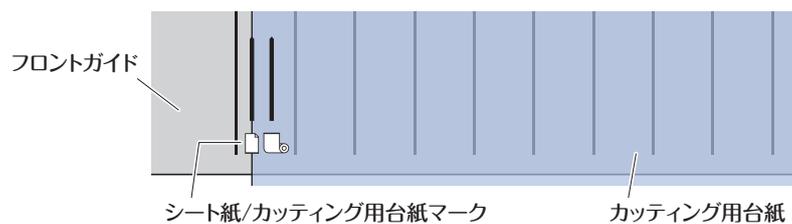
1. メディアセットレバーを上げて、プッシュローラーを解除します。
2. 左側のプッシュローラーを「□」マーク位置にセットします。
右側のプッシュローラーは、カッティング用台紙の幅に合わせてセットします。
3. 左右のメディアセットレバーを下げて、プッシュローラーをロックします。
4. 「HOME」画面から「メディアセット」→「カッティング台紙」を押します。



5. カッティング用台紙の先端をプッシュローラーに均等に突当てます。
カッティング用台紙は、プッシュローラー位置ガイドの下を通し、フロントガイドに平行になるようにセットしてください。



6. カutting用台紙の左端をフロントガイドの「□」マークの「I」印に合わせます。



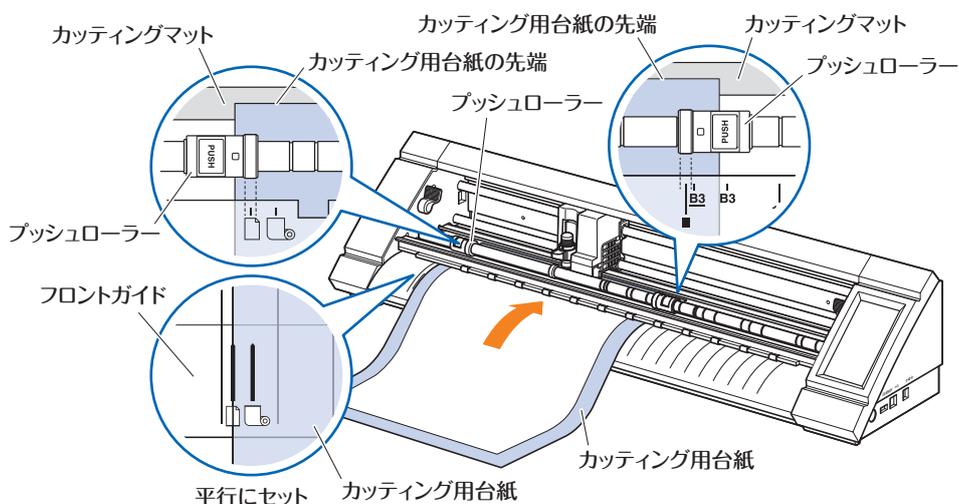
7. メディアを引き込む動作を行い、Cutting用台紙がセットされます。
エラー表示が出た場合は、画面の指示に従って操作してください。

⚠ 注意

「Cutting用台紙」を押すと、メディアやツールキャリッジが動き出します。体や物に触れないようご注意ください。

プッシュローラーを解除してセット

1. メディアセットレバーを上げて、プッシュローラーを解除します。
2. 左側のプッシュローラーを「□」マーク位置にセットします。
右側のプッシュローラーは、カット用台紙の幅に合わせてセットします。
3. カット用台紙の先端をプッシュローラーの奥のカットマット(白い半透明のマット)まで差し込みます。
カット用台紙は、プッシュローラー位置ガイドの下を通し、フロントガイドに平行になるようにセットしてください。
カット用台紙を奥に差し込みすぎると、メディアを検出できない場合があります。



4. カット用台紙の左端をフロントガイドの「□」マークの「|」印に合わせます。



5. 左右のメディアセットレバーを下げて、プッシュローラーをロックします。

6. 「HOME」画面の「メディアセット」を押します。
「カット用台紙」を押すと、メディアを引き込む動作を行い、カット用台紙がセットされます。
エラー表示が出た場合は、画面の指示に従って操作してください。

⚠ 注意

「カット用台紙」を押すと、メディアやツールキャリッジが動き出します。体や物に触れないようご注意ください。



4.3 筆記ペンでの作図

オプションのペンアダプターを使用することで、市販の筆記ペンを使用して作図が行えます。

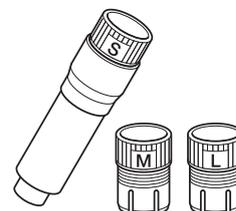
筆記ペンをペンアダプターにセット

ペンアダプター本体と共に、3種の固定ネジが付属されています。筆記ペンの太さに合わせて使用してください。

S (ライトグレー) : $\phi 8 \sim 9\text{mm}$

M (ダークグレー) : $\phi 9 \sim 10.2\text{mm}$

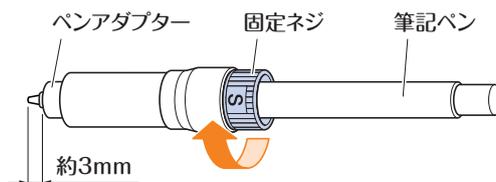
L (ブラック) : $\phi 10.2 \sim 11.3\text{mm}$



1. 筆記ペンをペンアダプターの後方より差し込みます。

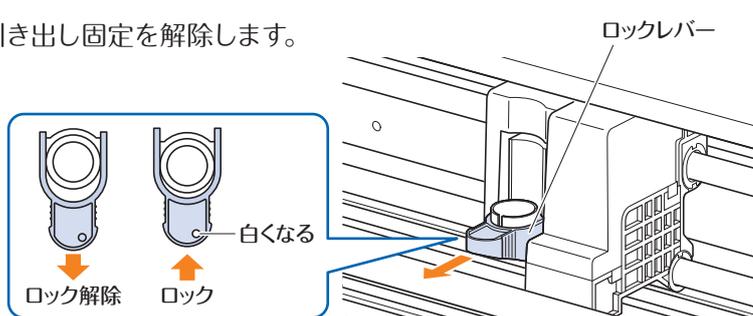


2. ペン先がペンアダプターから約3mm出るよう調整し、固定ネジを時計方向に回して固定します。

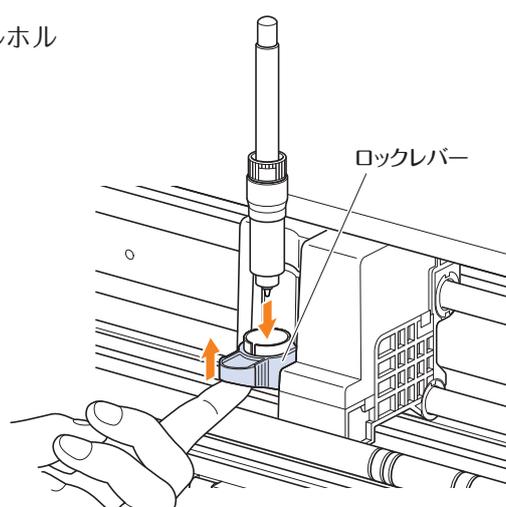


ペンアダプターのセット

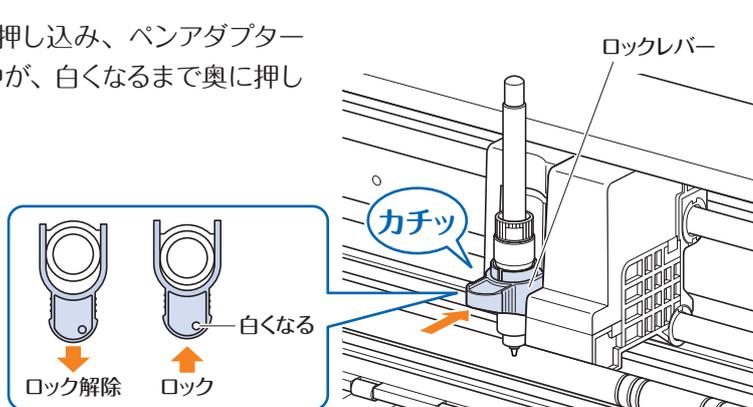
1. ツールホルダーのロックレバーを手前に引き出し固定を解除します。



2. ロックレバーを上押ししながら、ペンアダプターをツールホルダーの奥まで差し込みます。



3. ロックレバーを「カチッ」と音がするまで押し込み、ペンアダプターを固定します。ロックレバー手前の穴の中が、白くなるまで奥に押し込んでください。

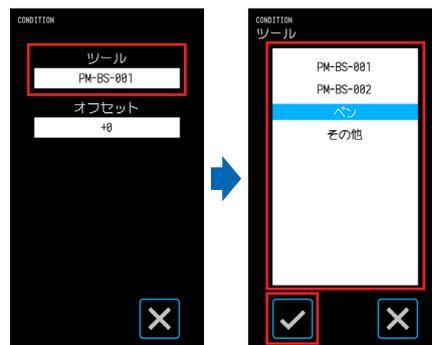


4. 「HOME」画面の ⚙️ (カット条件) を押して、CONDITION NO. の設定画面を開きます。



5. 「◀」「▶」で設定する CONDITION NO. を選択し、「ツール」を押します。

6. 「ツール」を押します。



7. 「ペン」を選択し、 (確定)を押します。

8. 「ペン」に対する各設定を行います。



9. メディアをセットして、パソコンから作図データを送信します。

4.4 USBメモリからのカット

USBメモリに保存されたxpfファイル/プロットファイルをメニューから選択し、オフライン出力を行います。

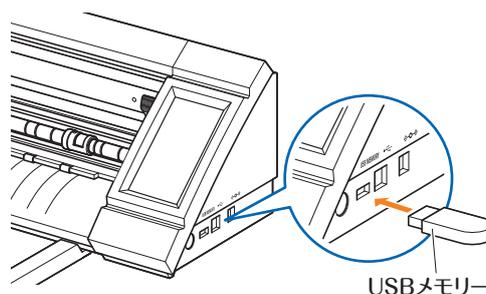
データをUSBメモリに保存

作図データを作成し、USBメモリに保存します。

- Graphtec Pro Studio、Cutting Master 4で作成された、拡張子「.xpf」のファイルとGP-GLまたはHP-GLのプロットファイル「.plt」以外のファイルは表示されません。
- ファイル名・フォルダ名の表示文字は、1バイト英数字(ASCII)のみに対応しています。
- Windowsの禁則文字(¥/:*?"<>|\)はファイル名に使用できません。
- 表示文字数制限は25文字です。オーバーした分はスクロールで表示します。
- フォルダの場合は、前にフォルダのアイコンを付けて表示しています。
- 並び順は、名前順で昇順です。
- ファイル・フォルダの取得可能数は、64です。

USBメモリのデータを読み込んでカット

1. 本機に作図データが保存されているUSBメモリを差し込みます。

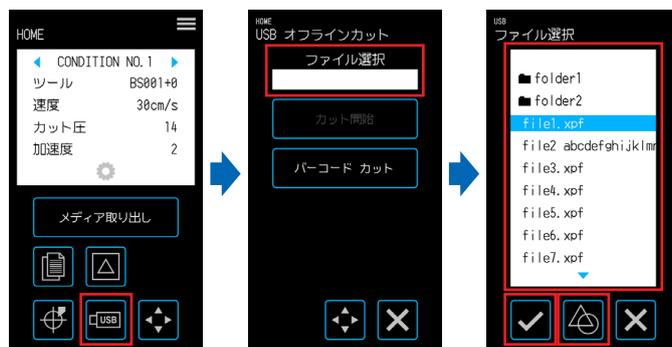


2. メディアとツールをセットし、CONDITION NO.を選択します。

3. 「HOME」画面の (USB) を押します。

4. 「ファイル選択」を押します。

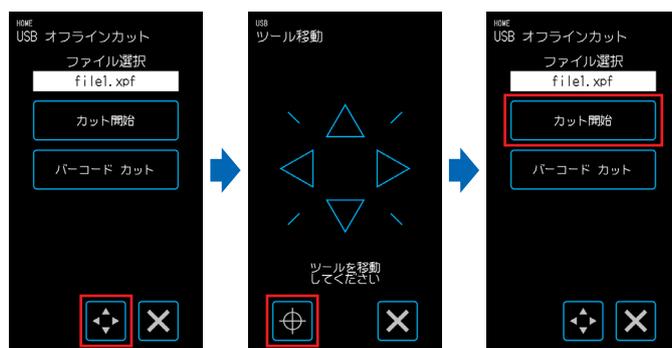
5. ファイルを選択し、 (確定) で確定します。
 (サムネイル) を押すと、サムネイル表示を行います(サムネイル情報付きの「.xpf」ファイルに限ります)。



6. (ポジション) を押して「ツール移動」画面を開きます。

7. 「」「」「」「」でツールをカット開始位置に移動し、 (原点) を押します。

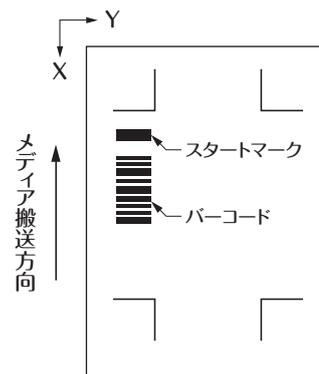
8. 「カット開始」を押すと、カットを開始します。



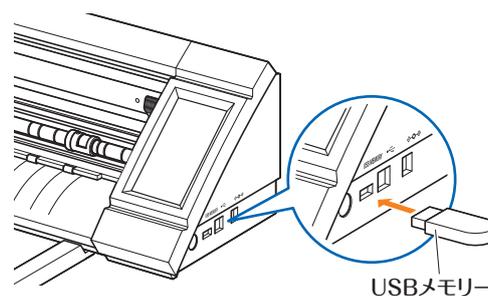
バーコード付きデータのカット

Cutting Master 4、Graphtec Pro Studio等で出力ファイルに関する情報をバーコード化し、デザインやトンボと一緒にメディアに印刷します。

そのメディアをカットするときに印刷されたバーコードを読み取り、USBメモリ内の適応する作図データ(.xpf)を検出してカットします。



1. 本機に作図データが保存されているUSBメモリを差し込みます。

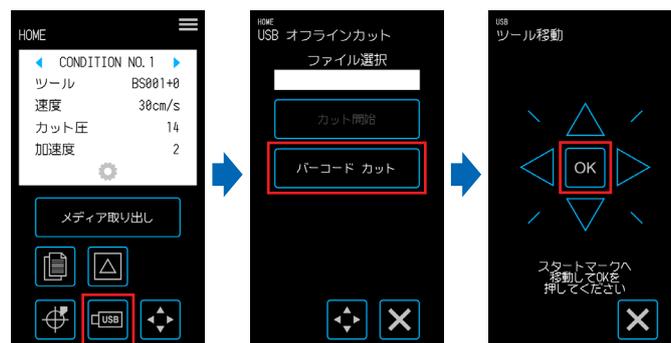


2. バーコードが印刷されているメディアとツールをセットし、CONDITION NO.を選択します。

3. 「HOME」画面の  (USB) を押します。

4. 「バーコードカット」を押します。

5. 「」「」「」「」でツールをスタートマークの位置に移動し、 (OK) を押します。USBメモリから適応するファイルを検出し、カットを開始します。



⚠ 注意

「OK」を押すと、メディアやツールキャリッジが動き出します。体や物に触れないようご注意ください。

4.5 同じデータを複数カット(コピー機能)

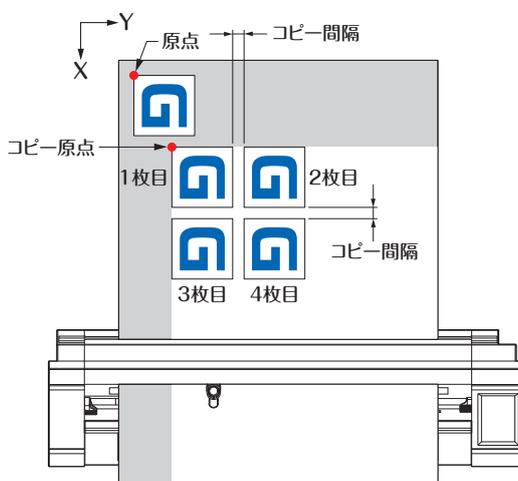
バッファメモリに保持した作図データを使って、指定した回数のカットを繰り返し行います。

- コピー中に新しいデータを送信しないでください。バッファメモリの作図データが消去されます。
- 1.6MB以上のデータは、本機のバッファメモリに収まらないためコピーできません。
- コピー元の作図データの位置が原点から離れている場合、コピー作図も同様に原点から離れてカットします。無駄な余白を省くためにも、なるべく作図データは原点に近づけて作成してください。
- 配列トロボのデータは、コピーできません。

1枚のメディアに複数コピー

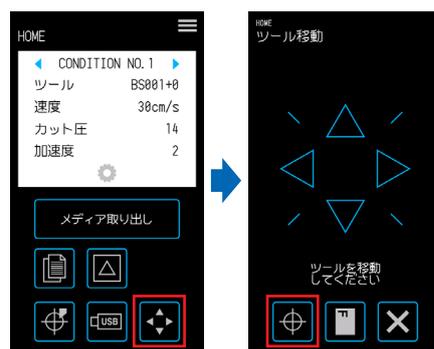
1枚のメディアに、設定回数分カットを行います。

- 作図が、メディアからはみ出さないよう注意してください。



1. コピーするデータで一度カットします。作図データがバッファメモリに保持されます。

2.  (ポジション) を押して「ツール移動」画面を開きます。



3. 「」「」「」「」でコピー開始位置にツールを移動し、 (原点) を押して設定します。

4. 「HOME」画面の  (コピー) を押します。



5. 「メディア交換モード」の「オフ」を押し、「コピー回数」を押します。

6. コピー回数を入力し、 (確定) で確定します。



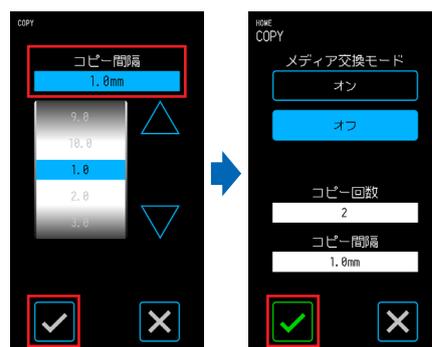
7. 「コピー間隔」を押します。

8. 「」「」でコピー間隔を選択し、 (確定) で確定します。

9. (実行) を押すと、コピーカットを開始します。

注意

「実行」を押すと、メディアやツールキャリッジが動き出します。体や物に触れないようご注意ください。



複数のメディアに繰り返しコピー

複数のメディアに、設定回数同じカットを行います。

- シート紙またはカッティング用台紙を使用します。
- 1回のカット終了ごとにメディアを交換するメッセージが表示されます。**✕**（終了）を押すと、コピーを中止して「HOME」画面に戻ります。
- メディア交換の操作を行うと、直ちにメディアを検出しコピーカットを行います。
- メディア交換時のメディアの種類は、2枚目以降も1枚目に選択したものが使用されます。
- バッファメモリ内にデータがない場合は、「コピーの為のデータがバッファにありません」と表示されます。作図データを送ってください。
- バッファメモリに収まらない容量のデータを送った場合は、「コピー モード バッファが一杯です!」と表示されます。

1. コピーするデータで一度カットします。作図データがバッファメモリに保持されます。

2. 「HOME」画面の （コピー）を押します。



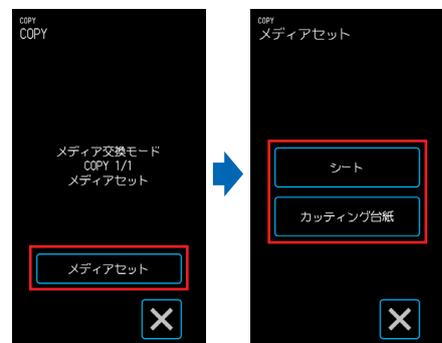
3. 「メディア交換モード」の「オン」を押し、「コピー回数」を押します。

4. コピー回数を入力し、**✓**（確定）で確定します。



5. **✓**（実行）を押すと、メディアが排紙されます。

6. コピーを行うメディアをセットし、「メディアセット」を押します。



7. セットしたメディアに対応するボタンを押すと、メディアをロードしてコピーカットを開始します。

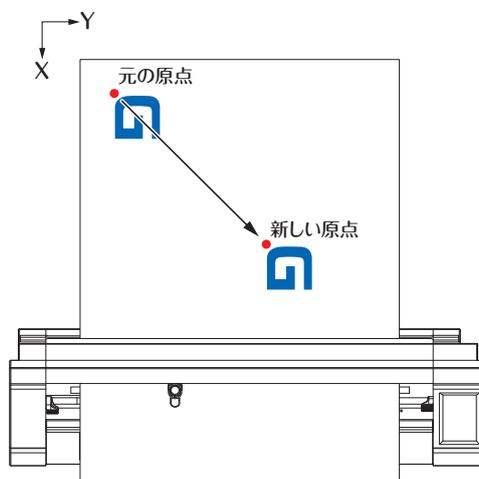
⚠ 注意

メディアに対応するボタンを押すと、メディアやツールキャリッジが動き出します。体や物に触れないようご注意ください。

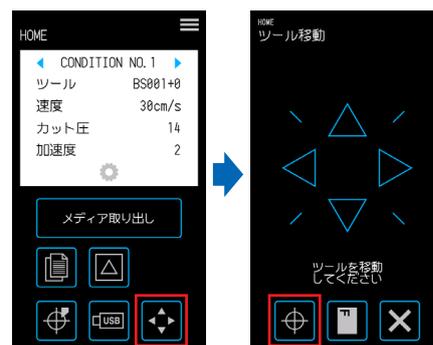
8. 1枚目のカットが終わると、コピー枚数に達するまで「メディア交換モード COPY メディアセット」と表示されます。その都度、メディアを交換して6→7の工程を繰り返してください。
2枚目以降の「メディアセット」では、メディア種類の選択画面は表示されずに、1枚目に選択されたものが使用されます。

4.6 作図位置を指定してカット

カットを開始する位置(作図原点)を設定します。作図原点は、任意の位置に設定できます。設定が終了したら、**✕**(終了)を押して「HOME」画面に戻ってください。



1. **⊕** (ポジション) を押して「ツール移動」画面を開きます。



2. 「**△**」「**▽**」「**◀**」「**▶**」で、ツールを新しい原点位置に移動し、**⊕** (原点) で作図原点を設定します。

4.7 作図範囲の拡張

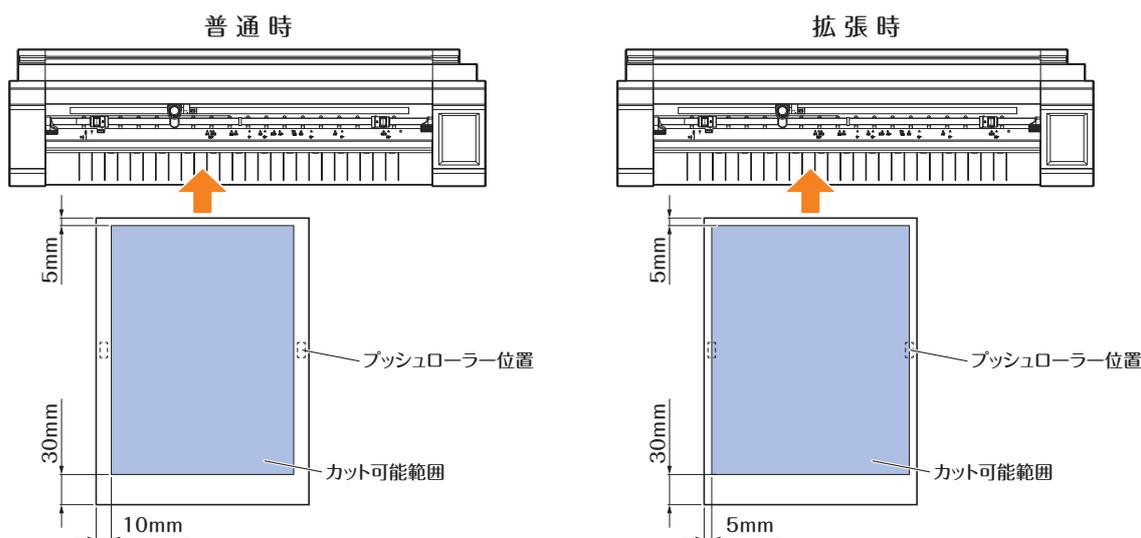
メディア幅の余白を設定し、作図範囲を拡張することができます。

「拡張」を選択すると、「普通」に比べ作図範囲を左右に拡張します。

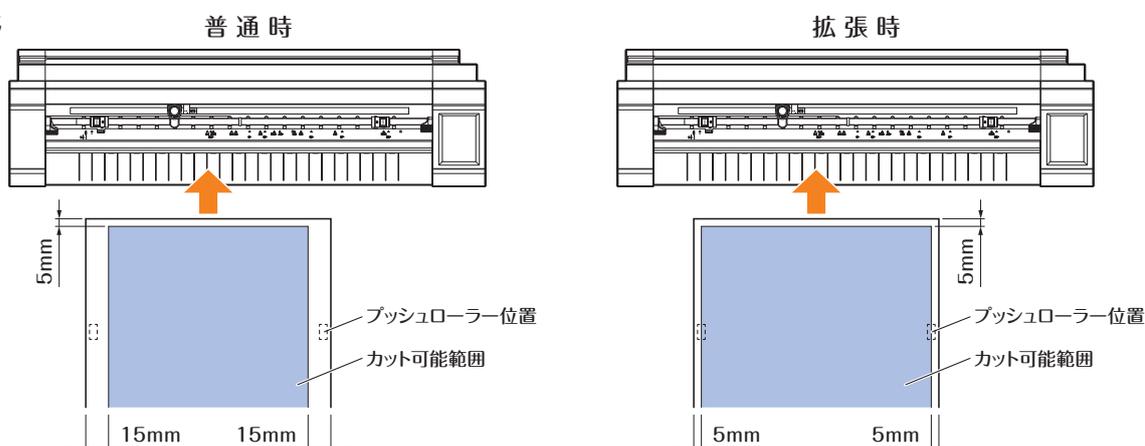
- 「拡張」ではプッシュローラにかかる位置にも作図できますが、作図範囲内をプッシュローラーが移動するので、メディアによっては正常に送れない場合があります。
- 余白を設定してから作図データを送ってください。余白を変更するとバッファメモリにある作図データを消去します。

設定が終了したら、**✕**（終了）を押して「HOME」画面に戻ってください。

シート紙



ロール紙



1. 「MENU」画面から「作図範囲 1/2」画面を開きます。



2. 余白から「拡張」を選択します。

4.8 カットの中止と一時停止

カットやテスト等の作図動作を、中止または一時停止します。

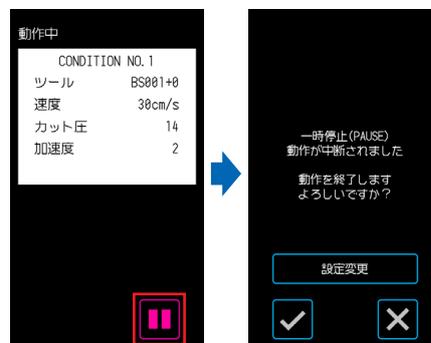
1. カットを途中で停止する場合は、 (停止) を押します。

2. 動作終了の確認に伴う操作方法が表示されますので、状況に合わせて選択してください。

「設定変更」：CONDITION NO.(カット条件) の設定が変更できません。

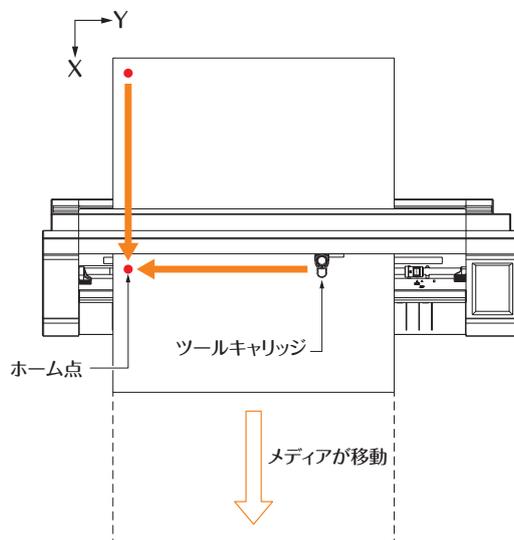
(確定) : カットを中止します。

(終了) : カットを再開します。



4.9 ツールキャリッジの退避

ツールキャリッジをホーム点に退避させることができます。カット終了後に退避を行うと、カットの結果を容易に確認できます。



1.  (ホーム) を押すと、ツールキャリッジがホーム点に移動します。



5章 詳細設定

この章では、作図に関する調整や本機の操作設定について説明します。

- 5.1 カット条件の設定を個別に登録
- 5.2 カット品質の調整
- 5.3 作図時間の調整
- 5.4 厚いメディアのカット
- 5.5 テストカットを行う
- 5.6 トンボの読み取り設定
- 5.7 メディア動作の調整
- 5.8 コマンドの設定
- 5.9 操作パネルの設定

5.1 カット条件の設定を個別に登録

カット条件の設定は、CONDITION NO.1～8まで8種類を設定・登録することができます。
ツールの種類やカットするメディアに合わせて条件を設定し、登録してください。

- ツール : 使用するツールの種類を選択します。
- 速度 : カット速度を設定します。
- カット圧 : カット圧を設定します。
- 加速度 : 加速度を設定します。
- タンジェント制御 : 厚いメディアをカットするときに使用します。
 オーバーカット 始点: 角の切り残しの防止に使用します。
 オーバーカット 終点: 角の切り残しの防止に使用します。
- 距離補正 : メディアの種類や厚さによって発生する、カットの線分の長さのズレを補正します。

設定方法は、各項目を参照してください。

1. 「HOME」画面の  (CONDITION) を押して、CONDITION NO. (カット条件) の設定画面を開きます。



2. 設定項目と内容が表示されますので、「◀」「▶」を押して設定する CONDITION NO. を選択します。
各項目を設定し、 (終了) を押して「HOME」画面に戻ります。

5.2 カット品質の調整

カット条件の設定を行うことで、カットの品質を調整します。

設定に対する切れ具合の確認は、実際にカットして行います。「5.5 テストカットを行う」を参照してください。

設定が終了したら、**✕** (終了) を押して「HOME」画面に戻ってください。

ツールの選択とオフセット値の設定

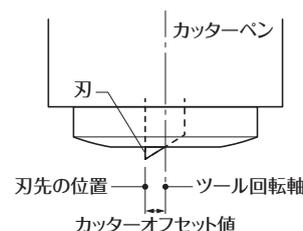
カットするメディアに合わせてツールを選択します。

選択項目：「PM-BS-001(付属品)」「PM-BS-002(オプション)」

「ペン(筆記)」「その他」

オフセット値は、カッターペン本体の中心と刃先の中心との位置の誤差のことです。作図の角がしっかりカットできなかったり切れすぎている場合に調整してください。オフセット値は、ペン種ごとに標準値が設定されています。標準値に対しての微調整を行ってください(標準値を0として調整します)。

設定範囲：-5 ~ +5

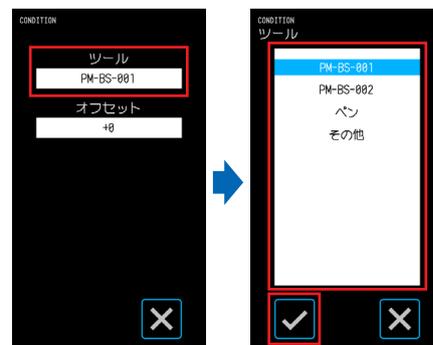


1. 「HOME」画面の (CONDITION) を押して、CONDITION NO. の設定画面を開きます。



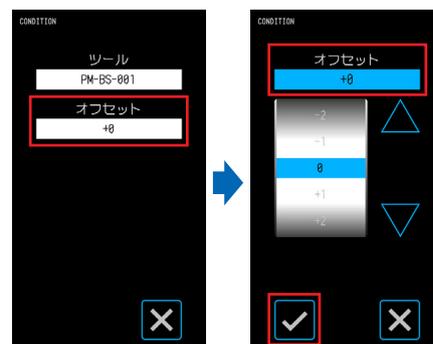
2. 「◀」「▶」で設定するCONDITION NO.を選択し、「ツール」を押します。

3. 「ツール」を押します。



4. 使用するツールを選択し、**✓** (確定) を押します。

5. 「オフセット」を押します。
ツールに「ペン」が選択されているときは、「オフセット」は表示されません。



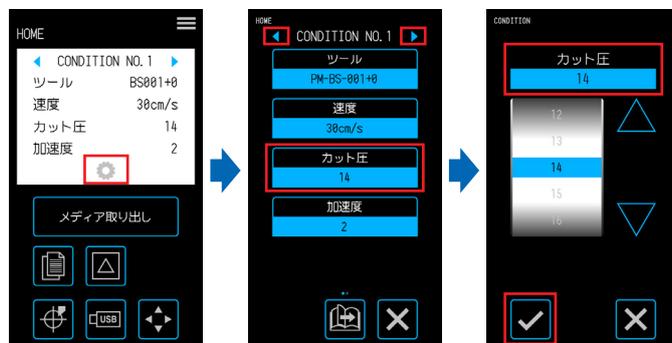
6. 「△」「▽」でオフセット値を選択し、**✓** (確定) で確定します。

カット圧の設定

ツールのカット圧を設定します。カットが浅かったり、深く切れすぎている場合に調整してください。

設定範囲：1～26

1. 「HOME」画面の  (CONDITION) を押し、CONDITION NO. の設定画面を開きます。
2. 「」「」で設定するCONDITION NO. を選択し、「カット圧」を押します。
3. 「」「」でカット圧を選択し、 (確定) で確定します。



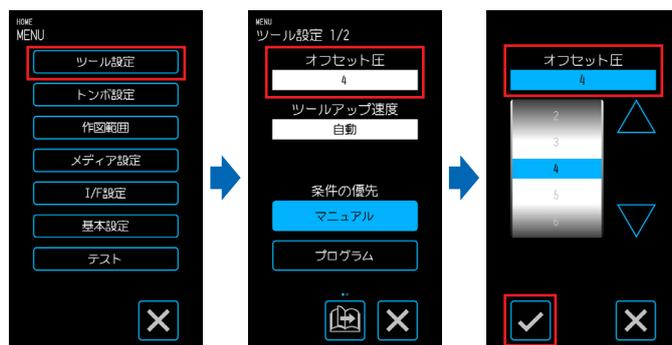
オフセット圧の設定

初期動作時に刃先の方向を確認するために行う、初期制御のカット圧(オフセット圧)を設定します。オフセット圧が弱いと、切り初めに刃の方向が定まらず始点と終点が合わないことがあります。

オフセット圧は、タンジェント制御で刃先の回転制御を行う場合のカット圧としても利用します。

設定範囲：1～26

1. 「MENU」画面から「ツール設定1/2」画面を開きます。
2. 「オフセット圧」を押します。
3. 「」「」でオフセット圧を選択し、 (確定) で確定します。



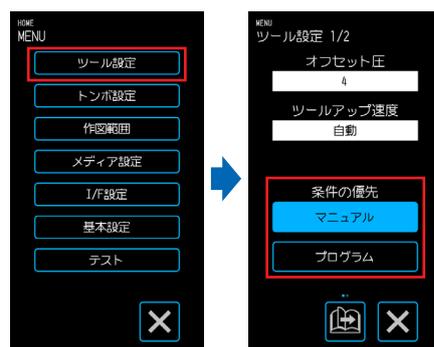
条件の優先の設定

ツールの条件を「マニュアル」「プログラム」から選択します。

マニュアル: ソフトウェアから送られてくるカット条件は無効になり、操作パネルで設定した条件が有効になります。

プログラム: 操作パネルとソフトウェアのどちらからでもカット条件を変更でき、いつでも新しいカット条件で上書き設定されます。

1. 「MENU」画面から「ツール設定1/2」画面を開きます。
2. 条件の優先から「マニュアル」か「プログラム」を選択します。



距離補正の設定

使用するメディアの種類や厚さによって発生する、作図線分の長さズレを補正します。距離補正値は、線分のズレ量をパーセントで入力します。たとえば補正値を+0.1%に設定すると、1m(1000mm)の長さの線が $1000 \times 0.1\% = 1\text{mm}$ 増えて、1001mmとなります。距離補正値は、CONDITION NO.ごとに設定できます。

1. 「HOME」画面の  (CONDITION) を押して、CONDITION NO. の設定画面を開きます。

2. 「」「」で設定するCONDITION NO.を選択し、 (ページ) で次ページに移行します。

3. 「距離補正」を押します。

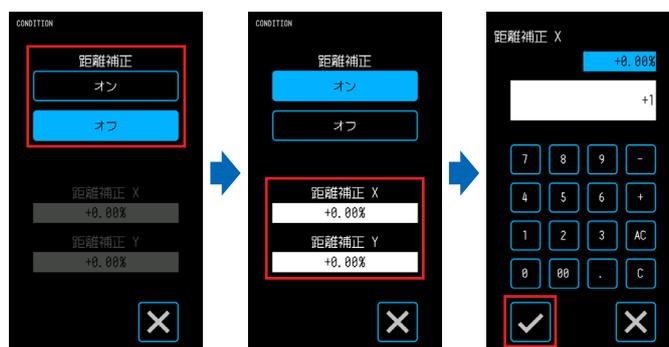


4. 「距離補正」の「オン」「オフ」を選択します。「オン」を選択すると「距離補正 X」「距離補正 Y」が入力可能になります。

5. 「距離補正 X」を押します。

6. 距離補正値を入力し、 (確定) で確定します。

7. 「距離補正 Y」も同様に入力します。



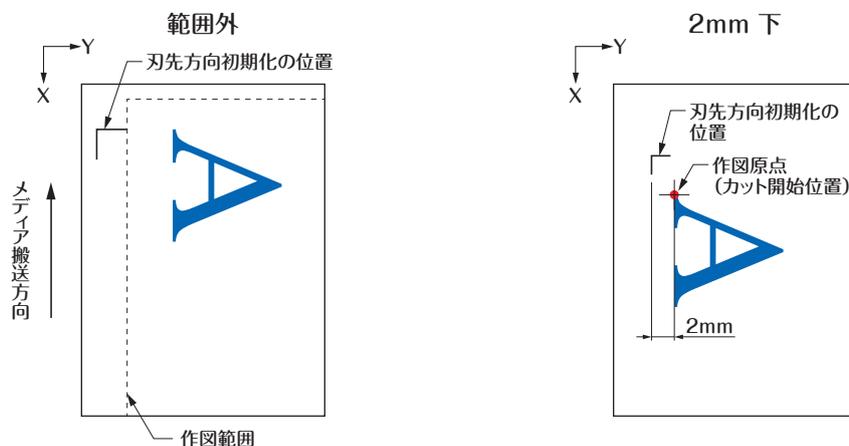
刃先方向初期化位置の設定

電源投入直後やペン条件設定後の作図前にメディアに刃を当て、刃先の向きを整えます。

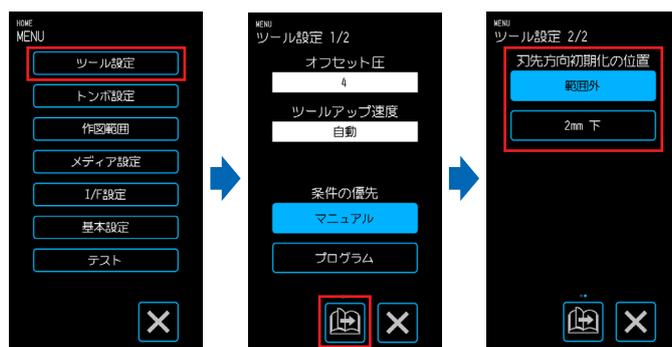
この動作はメディアに刃を当てるため、作図に傷を付けない位置で行うように、刃先方向初期化の位置を設定します。

範囲外：作図範囲外で刃先方向初期化を行います。

2mm 下：カット開始点の2mm 下(メディアの搬送方向先端側2mm)で刃先方向初期化を行います。



1. 「MENU」画面から「ツール設定 1/2」→「ツール設定 2/2」画面を開きます。



2. 「刃先方向初期化の位置」から「範囲外」か「2mm 下」を選択します。

5.3 作図時間の調整

作図時間の調整は、「作図速度」「切り始め速度(加速度)」「ツールアップ時の移動速度」で行います。速度を速くしすぎると、カット品質に影響が出る場合がありますので、ツールとメディアの種類に合った設定を行ってください。

設定が終了したら、**✕** (終了) を押して「HOME」画面に戻ってください。

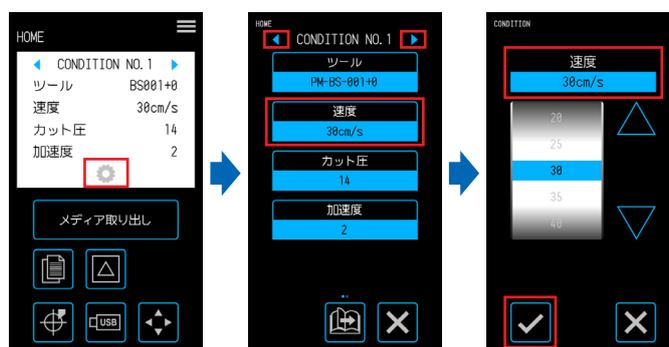
速度の設定

作図速度を設定します。

設定を速くすると作図時間は短くなりますが、仕上がりが粗くなる場合があります。

設定範囲：1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、15、20、25、30、35、40、45、50

1. 「HOME」画面の **⚙** (CONDITION) を押して、CONDITION NO. の設定画面を開きます。
2. 「**◀**」「**▶**」で設定するCONDITION NO. を選択し、「速度」を押します。
3. 「**▲**」「**▼**」で速度を選択し、**☑** (確定) で確認します。



加速度の設定

加速度を設定します。この設定は、ツールダウンしカットを始めるとき全てに適用されます。

設定値を大きくすると作図時間は短くなりますが、仕上がりが粗くなる場合があります。

設定範囲：1～2

1. 「HOME」画面の **⚙** (CONDITION) を押して、CONDITION NO. の設定画面を開きます。
2. 「**◀**」「**▶**」で設定するCONDITION NO. を選択し、「加速度」を押します。
3. 「**▲**」「**▼**」で加速度を選択し、**☑** (確定) で確認します。



ツールアップ速度の設定

作図中のツールアップ状態での移動速度を設定します。

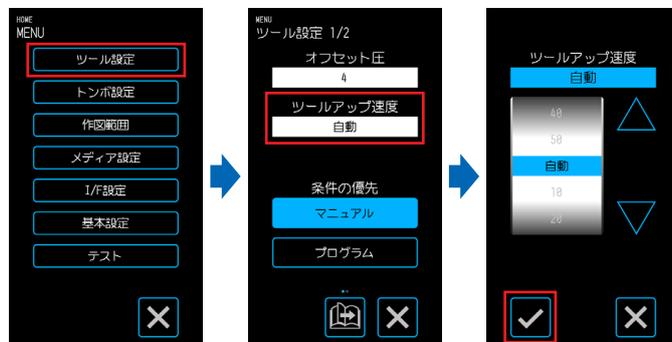
自動はカット(ツールダウン)時の速度と同じです。

設定範囲：自動、10、20、30、40、50 (cm/s)

1. 「MENU」画面から「ツール設定 1/2」画面を開きます。

2. 「ツールアップ速度」を押します。

3. 「△」「▽」で移動速度を選択し、 (確定)で確定します。



5.4 厚いメディアのカット

厚いメディアをカットするときの設定を行います。

●総厚が0.3mm以上（カッティング用台紙含む）のメディアは、カットできません。

設定が終了したら、**✕**（終了）を押して「HOME」画面に戻ってください。

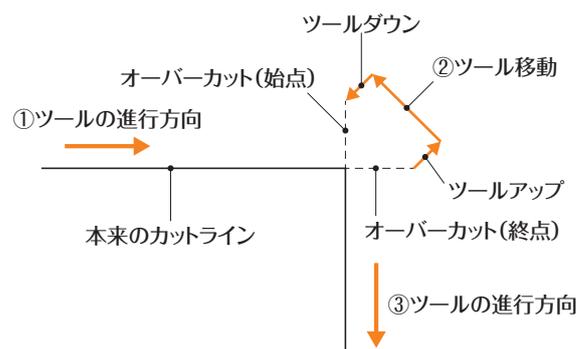
タンジェント制御とは

タンジェント制御とは、厚いメディアの角をきれいにカットする機能のことです。

メディアをカットするとき、刃先は常に進行方向を向いている必要があります。本機では、曲線や角を描く場合にも刃先が自動的に進行方向に向くようにしています。

厚いメディアの角をカットする場合、刃は進行方向に回転しづらいためカットがしにくくなります。

タンジェント制御では、角の部分で余分にカット（オーバーカット終点）してからツールアップします。次の直線も本来のカットラインの手前にツールダウンし、余分にカット（オーバーカット始点）してから本来の線をカットを行います。



タンジェント制御の設定

タンジェント制御には、2つのモードがあります。

モード1：カットラインの切り始めと切り終わりの位置、角度のきついコーナをオーバーカットします。

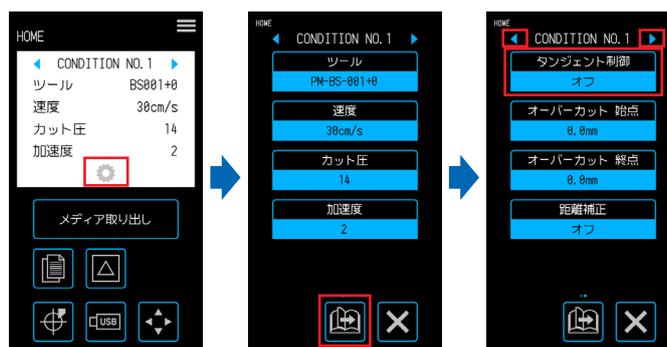
刃が大きく回転するときは、刃先を制御しますのでメディアの硬さや厚みの影響を受けずにカットできます。

モード2：カットラインの切り始めと切り終わりの位置のみオーバーカットします。

切り始めの位置でのみ刃先を制御しますので、モード1と比較してカット時間が短くなります。

設定値：オフ、1、2

1. 「HOME」画面の (CONDITION) を押して、CONDITION NO. の設定画面を開きます。



2. 「」「」で設定するCONDITION NO. を選択し、「タンジェント制御」を押します。

3. 設定値を選択します。



オーバーカットの設定

タンジェント制御で使用するオーバーカットの長さを設定します。
 オーバーカットの長さは、線の始点と終点それぞれに設定できます。
 設定範囲：0.0 ～ 0.9 (mm)

1. 「HOME」画面の  (CONDITION) を押し、CONDITION NO. の設定画面を開きます。

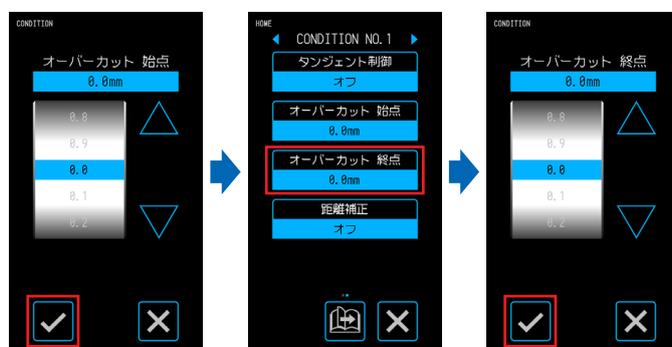


2. 「◀」「▶」で設定するCONDITION NO. を選択し、「オーバーカット 始点」を押します。

3. 「△」「▽」で設定値を選択し、 (確定) で確定します。

4. 「オーバーカット 終点」を押します。

5. 「△」「▽」で設定値を選択し、 (確定) で確定します。



5.5 テストカットを行う

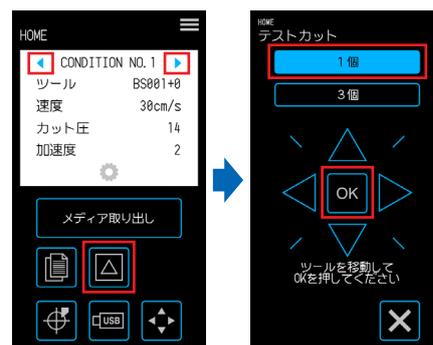
CONDITION NO.(カット条件)の設定値での切れ具合を、メディアの切れやコーナーの丸まりで確認します。

1個: 現在表示されている CONDITION NO.の設定値で、1つだけ「▲」マーク(テストパターン)をカットします。

3個: 現在表示されている CONDITION NO.の設定値に、カット圧またはカッターオフセットの値±1を含めた3つの「▲」マーク(テストパターン)をカットします。

設定値で1つカット

1. 実際のカットと同じメディアとツールをセットします。
2. 「HOME」画面の「◀」「▶」で、テストカットを行う CONDITION NO.を選択し、「▲」(テストカット)を押して設定画面を開きます。
3. テストカットの「1個」を選択します。
「▲」「▼」「◀」「▶」でカット開始位置にツールを移動し、「OK」を押すと、「▲」マークを1つカットします。

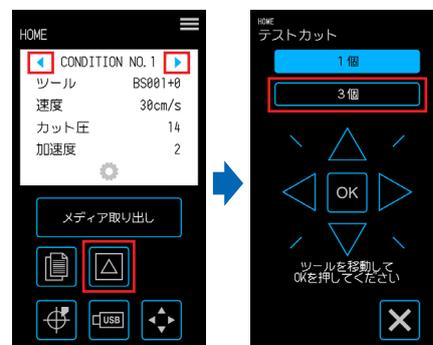


⚠ 注意

「OK」を押すと、メディアやツールキャリッジが動き出します。体や物に触れないようご注意ください。

設定値に±1を含めた3つのテストパターンをカット

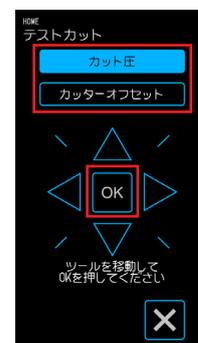
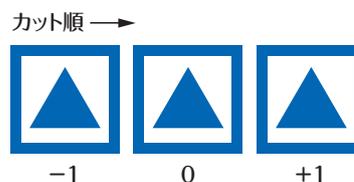
1. 実際のカットと同じメディアとツールをセットします。
2. 「HOME」画面の「◀」「▶」で、テストカットを行う CONDITION NO.を選択し、「▲」(テストカット)を押して設定画面を開きます。
3. テストカットの「3個」を選択します。
4. 確認したい項目(「カット圧」「カッターオフセット」)を選択します。
5. 「▲」「▼」「◀」「▶」でカット開始位置にツールを移動し、「OK」(OK)を押すと、「▲」マークを3つカットします。



⚠ 注意

「OK」を押すと、メディアやツールキャリッジが動き出します。体や物に触れないようご注意ください。

テストカットパターンは、右図のようなカット順と設定値の増減値になります。



テストカットの確認

テストカットの結果を確認し、最適な設定になるよう各種設定を調整します。良好なカットができるまで、テストカットと設定を繰り返してください。

オフセット値の調整

三角形や四角形の角を確認します。角がしっかりカットできていなかったり切れすぎている場合は、オフセット値を調整してください。



補正量が不足しています。
オフセット値を上げてくだ
さい。



適正なオフセット値です。



補正しすぎです。
オフセット値を下げてくだ
さい。

ハーフカット時の調整

三角の部分をはがして、台紙に薄くカットした跡が残るくらいになるよう調整します。

台紙が完全に切れている場合は、カット圧が高すぎるか刃を出しすぎています。台紙にカットした跡が付いていない箇所がある場合は、カット圧が低すぎるか、刃出し量が少なすぎます。

全カット時の調整

メディアが完全に切れるように調整します。

メディアが完全に切れていない場合は、カット圧が低すぎるか、刃出し量が少なすぎます。

全カットを行う場合は、必ずカッティング用台紙を使用してください。

筆記ペン使用時の調整

作図にカスレが出ないように、筆圧を調整します。ただし筆圧を上げるとペンの寿命が短くなりますので、カスレが出ない程度まで筆圧を弱めます。

5.6 トンボの読み取り設定

読み取りモードの設定

トンボを読み取るセンサーの読み取りモードを選択します。メディアの状態に合わせて選択してください。設定が終了したら、**✕**（終了）を押して「HOME」画面に戻ってください。

モード1：一般的な白地のメディアを使用する場合は、このモードを選択してください。

モード2：色付きのメディアや光沢のあるメディアを使用する場合は、このモードを選択してください。

モード3：特殊素材でモード1あるいはモード2で読めない場合に使用してください。

読み取りモードの選択の目安は、「メディア確認」機能で確認します。

また、必要に応じてトンボ調整値の設定を行ってください。トンボ調整値は「+」「-」で設定します。

モード1の場合、トンボ線の濃度で判断します。濃いトンボ線は「+」、薄いトンボ線は「-」に設定してください。

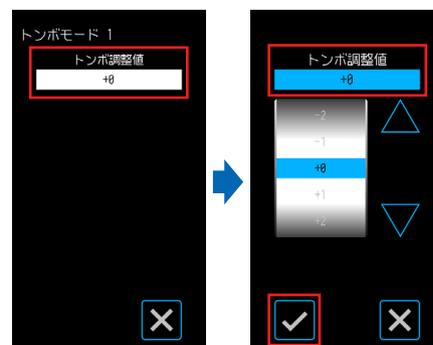
モード2とモード3の場合、下地とトンボ線のコントラストで判断します。コントラストが大きいときは「+」、小さいときは「-」に設定してください。

1. 「MENU」画面から「トンボ設定 1/2」画面を開きます。



2. 「トンボモード」から選択するモードのボタンを押します。

3. トンボ調整値を調整する場合は、「トンボ調整値」を押します。変更不要の場合は、**✕**（終了）を押してください。



4. 「△」「▽」で設定値を選択し、**✓**（確定）で確定します。

トンボ検出の確認

使用するメディアの状態を検出し、読み取りモードの選択／トンボ色の選択／トンボ下地の色の選択等の推奨条件を表示します。

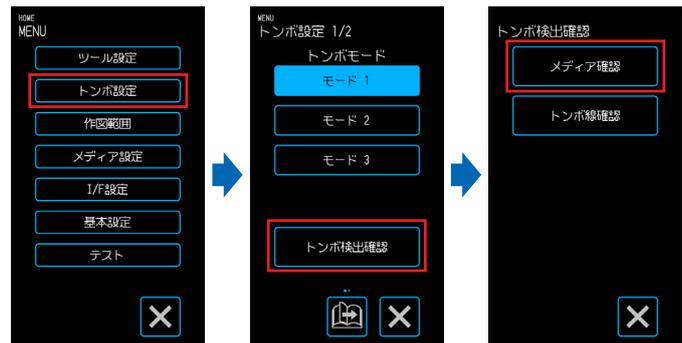
設定が終了したら、**✕** (終了) を押して「HOME」画面に戻ってください。

メディア確認

メディアの状態から、適正なトンボの読み取り条件を算出して表示します。

1. 実際にカットするのと同じメディアで、印字されていないメディアをセットします。

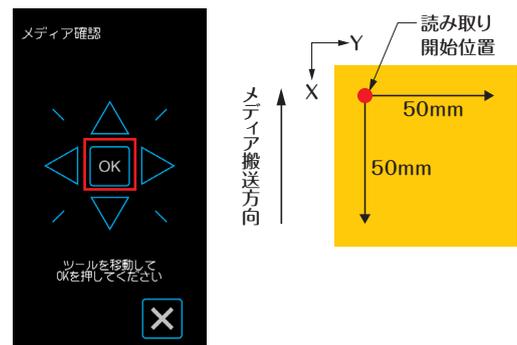
2. 「MENU」画面から「トンボ設定 1/2」画面を開きます。



3. 「トンボ検出確認」を押します。

4. 「メディア確認」を押します。

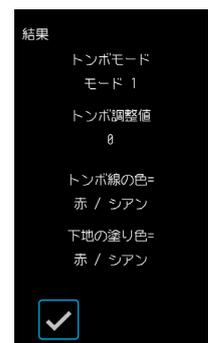
5. 「**△**」「**▽**」「**◀**」「**▶**」で読み取り開始位置(左上隅の任意の位置)にツールキャリッジを移動し、**OK** (OK) を押します。



6. ツールキャリッジが移動し、自動的にメディアの状態を検出します。
読み取り開始位置を基準に、Y方向に50mm、X方向に50mm移動して、メディアの状態を検出します。

7. 検出したメディアの状態から適正なトンボ色を算出し、画面に表示します。

トンボモード：推奨の読み取りモード1 / 2 / 3が表示されます。
トンボ調整値：推奨のトンボ調整値が表示されます。
トンボ線の色：推奨のトンボの色が表示されます。
下地の塗り色：推奨のトンボ下地の塗り色が表示されます。
読み取り結果により、「下地の塗り色」が表示されない場合もあります。



トンボ確認

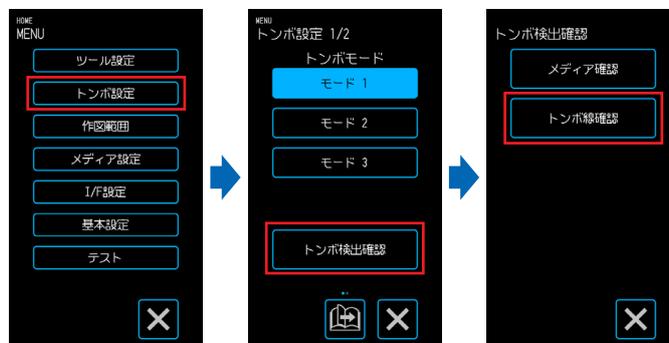
実際にトンボを検出して、トンボの検出動作を確認します。

1. トンボが描かれているメディアをセットします。

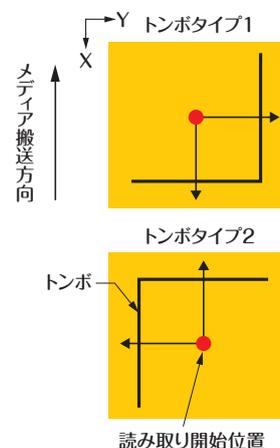
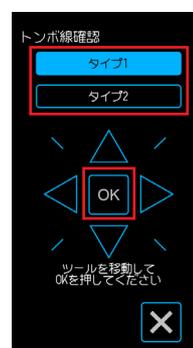
2. 「MENU」画面から「トンボ設定 1/2」画面を開きます。

3. 「トンボ検出確認」を押します。

4. 「トンボ線確認」を押します。



5. 読み取るトンボのタイプを選択し、「△」「▽」「◀」「▶」で読み取り開始位置(右図の赤丸の位置)にツールキャリッジを移動し、OK (OK) を押します。

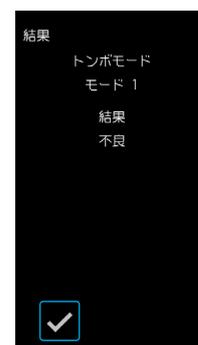


6. ツールキャリッジが移動し、自動的にトンボの検出を行います。

7. 検出結果を画面に表示します。

トンボモード : 現在設定されている読み取りモードが表示されます。

結果 : 検出結果(良好/不良)が表示されます。



下地の状態によっては、検出できない場合もあります。その場合は「メディア確認」を行い、推奨条件でお試ください。

トンボ位置の補正

トンボを読み取るセンサーは、ツールの刃先から離れた位置にあります。このため、トンボを読み取った座標値と実際にカットする位置が一致するように補正する必要があります。

トンボがすでにメディアに描かれている場合は、そのトンボを読み取ってから同じ位置にトンボを描いて、両方のトンボのズレ量を測ります。このズレ量を補正值とします。

メディアにトンボが描かれていない場合には、トンボを作図してからそのトンボを読み取り、もう一度トンボを描いて両方のトンボのズレ量を測ります。このズレ量を補正值とします。

実際に使用するメディアとツールを使用すると、補正の精度が高くなります。

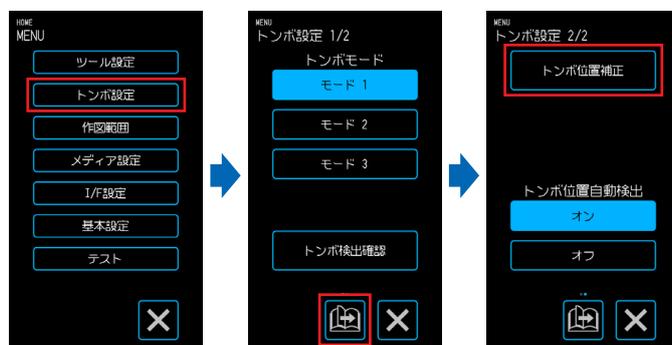
設定が終了したら、**✕** (終了) を押して「HOME」画面に戻ってください。

印刷してある補正用トンボを検出して補正值を入力する

メディアに描かれたトンボを読み取り、読み取り位置と作図位置との誤差を使用して補正を行います。

1. 補正用のトンボ(一辺が40mm、太さ0.4mmの十字)が描かれたメディアセットします。

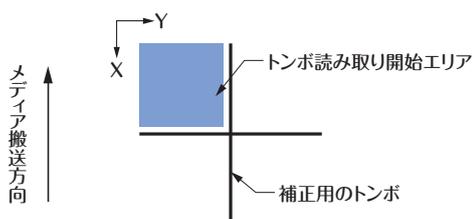
2. 「MENU」画面から「トンボ設定 1/2」→「トンボ設定 2/2」画面を開きます。



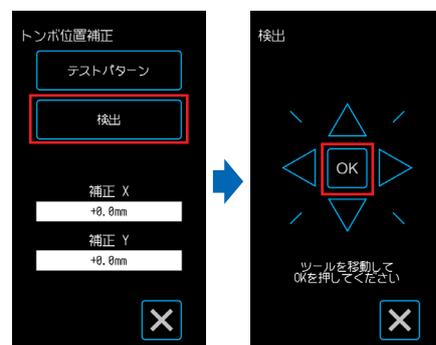
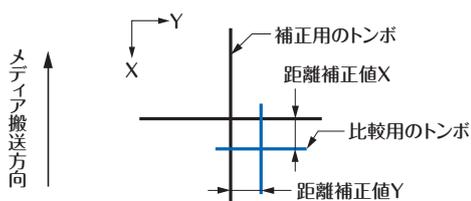
3. 「トンボ位置補正」を押します。

4. 「検出」を押します。

5. 「**△**」「**▽**」「**◀**」「**▶**」で、ツールをトンボ読み取り開始エリアに移動し、**OK** (OK) を押します。



トンボを読み取り、比較用のトンボを作図します。



⚠ 注意

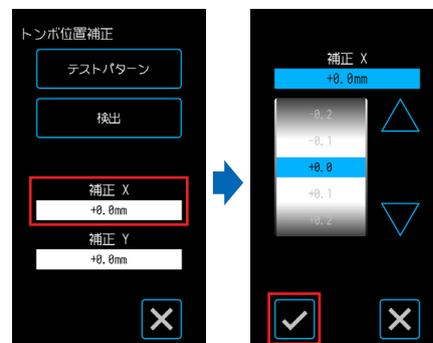
「OK」を押すと、メディアやペンキャリッジが動き出します。体や物に触れないようご注意ください。

6. 補正用のトンボに対して、比較用のトンボがどれだけズレているかを実測します。
 実測は、線の中心で測ってください。
 手順の5の下図の場合は、XもY方向もマイナス方向にズラす必要があるので、それぞれの補正値はマイナスの値になります。

7. 「補正 X」を押します。

8. 手順5で実測したXの値を入力します。
 「△」「▽」で設定値を選択し、（確定）で確定します。

9. 「補正 Y」も同様に入力します。

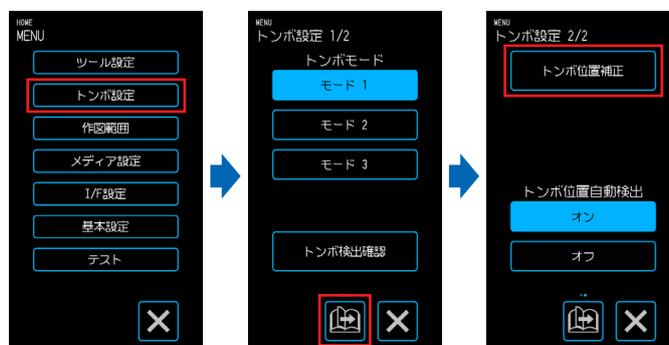


テストパターン(補正用トンボ)を作図してから補正する

トンボ位置の補正用のトンボを作図し、そのトンボを使用して補正を行います。

1. 作図用の白いメディアをセットします。
 2. ツールホルダーに筆記ペンをセットし、CONDITION NOを選択します。

3. 「MENU」画面から「トンボ設定 1/2」→「トンボ設定 2/2」画面を開きます。



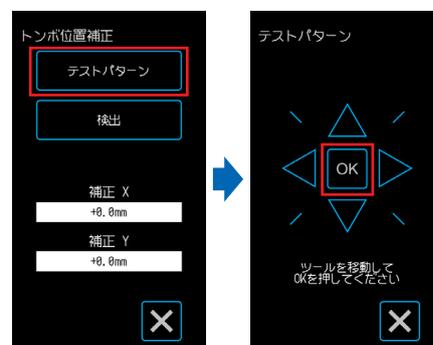
4. 「トンボ位置補正」を押します。

5. 「テストパターン」を押します。

6. 「△」「▽」「◀」「▶」でトンボ作図位置に移動して (OK) を押し、補正用のトンボが作図されます。

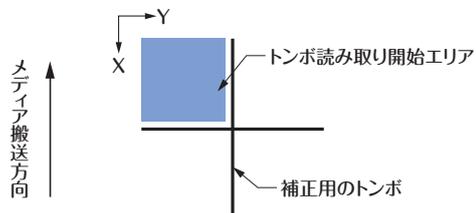
注意

「OK」を押すと、メディアやペンキャリッジが動き出します。体や物に触れないようご注意ください。

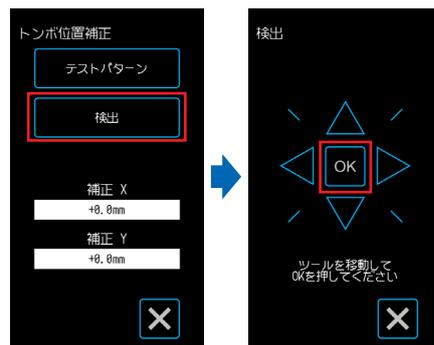
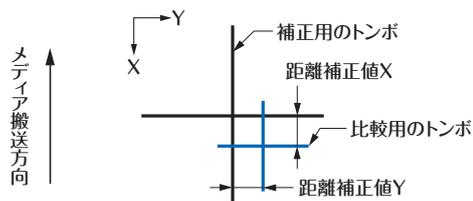


7. 「検出」を押します。

8. 「 Δ 」「 ∇ 」「 \triangleleft 」「 \triangleright 」で、ツールをトンボ読み取り開始エリアに移動し、**OK** (OK) を押します。



トンボを読み取り、比較用のトンボを作図します。



⚠ 注意

「OK」を押すと、メディアやペンキャリッジが動き出します。体や物に触れないようご注意ください。

9. 補正用のトンボに対して、比較用のトンボがどれだけズレているかを実測します。

実測は、線の中心で測ってください。

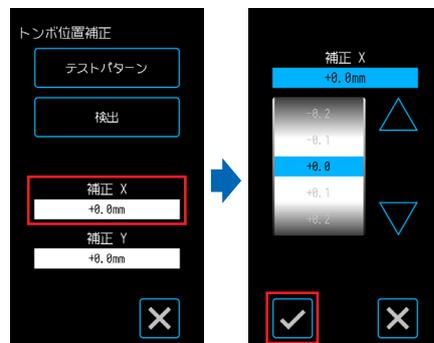
手順の8の下図の場合は、XもY方向もマイナス方向にズラす必要があるので、それぞれの補正値はマイナスの値になります。

10. 「補正 X」を押します。

11. 手順8で実測したXの値を入力します。

「 Δ 」「 ∇ 」で設定値を選択し、 (確定) で確定します。

12. 「補正 Y」も同様に入力します。

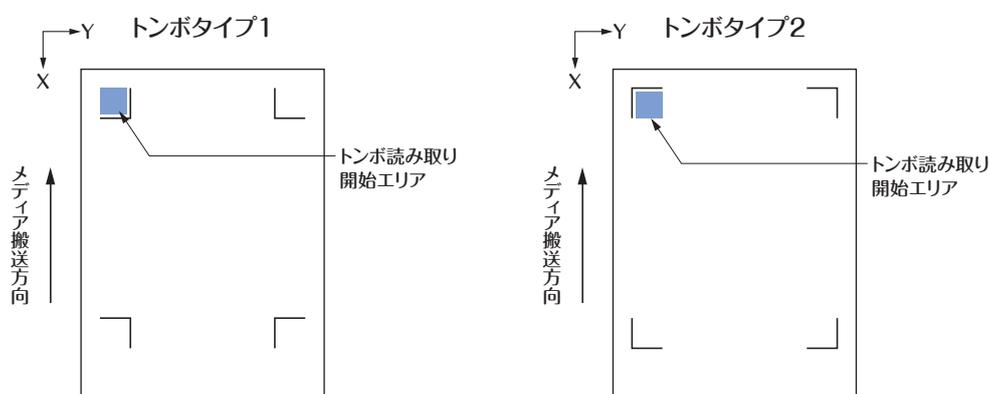


トンボ位置自動検出の設定

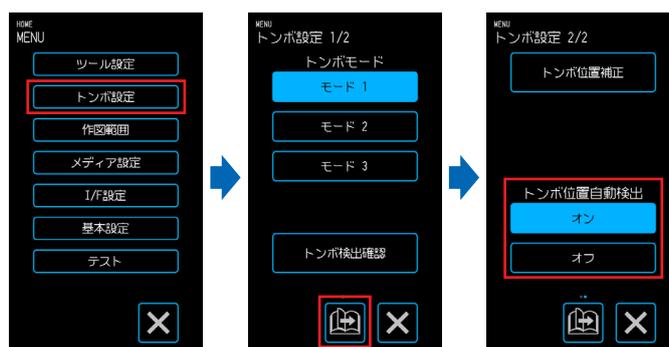
「トンボ位置自動検出」の設定が「オン」の状態です。ツールの位置がトンボ読み取り開始エリアに近い場合、トンボの自動読み取り開始時にトンボ位置を自動で検索します。

ツールの現在位置がトンボ読み取り開始エリアと離れている場合には、検索に時間が掛かったり見つからずにエラーになる場合があります。

「オフ」に設定した場合は、上記の動作は、行いません。



1. 「MENU」画面から「トンボ設定 1/2」→「トンボ設定 2/2」画面を開きます。



2. 「トンボ位置自動検出」から「オン」「オフ」を選択します。

5.7 メディア動作の調整

メディアの動作に対する設定をします。

設定が終了したら、**✕** (終了) を押して「HOME」画面に戻ってください。

ならし動作の設定

メディアを設定量搬送させ、メディアにローラー跡を付けることでメディアのズシを防止する動作の設定をします。

長尺送りのときは、メディアを環境になじませることで伸縮が取り除かれ、安定した送り動作ができるようになります。

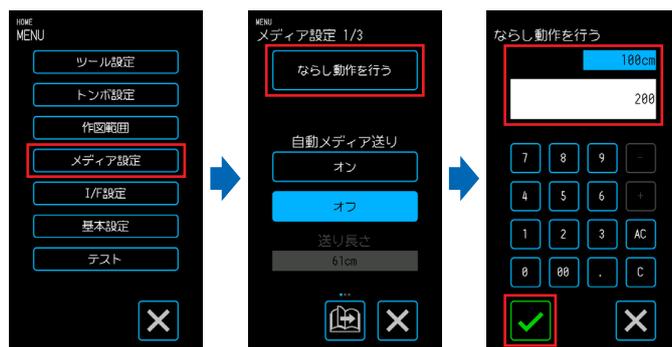
設定値：10～300 (cm)

1. 「MENU」画面から「メディア設定 1/3」画面を開きます。

2. 「ならし動作を行う」を押します。

3. ならし動作を行う距離を入力します。

✓ (実行) を押すと、設定された距離のならし動作を開始します。



⚠ 注意

「実行」を押すと、メディアやツールキャリアッジが動き出します。体や物に触れないようご注意ください。

自動メディア送りの設定

作図データを受信したときに、自動的に指定した長さのメディアを送り出して戻るように設定できます。

ならし動作を自動で行える効果があり、ロール紙を作図前に引き出す効果もあります。

設定範囲：10～300 (cm)

1. 「MENU」画面から「メディア設定 1/3」画面を開きます。

2. 「自動メディア送り」の「オン」「オフ」を選択します。
「オン」を選択すると「送り長さ」が入力可能になります。

3. 「送り長さ」を押します。

4. 送り出す距離を入力し、**✓** (確定) で確定します。

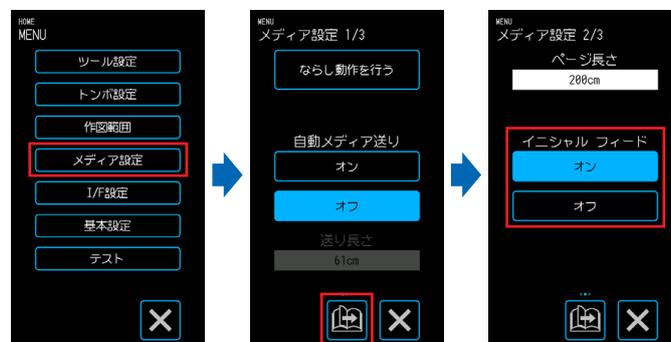


イニシャル フィードの設定

メディアをセットしたときにページ長さ分のメディアを自動的に送り出し、元に戻すように設定できます。メディアのズレ防止のための「ならし動作」を、自動で行える効果があります。

「ページ長さ」の設定は「4.1 ロール紙のカット」の「ページ長さの設定」を参照してください。

1. 「MENU」画面から「メディア設定 1/3」→「メディア設定 2/3」画面を開きます。



2. 「イニシャル フィード」から「オン」「オフ」を選択します。

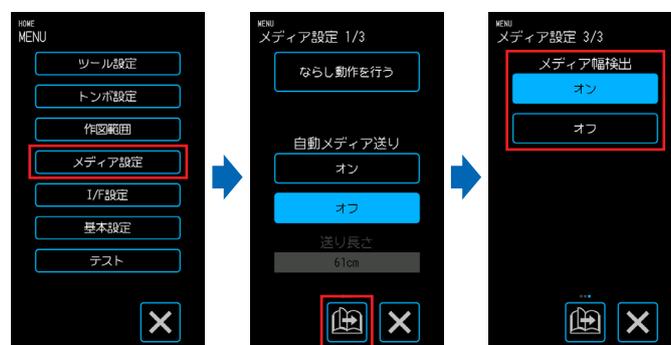
メディア幅検出の設定

本機は、メディア幅センサーを使用して、メディアの先端/幅/セット位置を検出しています。

メディアの種類(特に透過性が高いメディア)によっては、メディアの先端/幅/セット位置に関するエラーが発生して正しくメディアをセットできない場合があります。

このような場合は、カッティング用台紙を使用するか、以下の手順でメディア幅検出を無効にして使用してください。設定を行う前にメディアを取り外してください。メディアがセットされている状態では、設定できません。

1. 「MENU」画面から「メディア設定 1/3」→「メディア設定 3/3」画面を開きます。



2. 「メディア幅検出」から「オン」「オフ」を選択します。

3. 設定に応じて、「HOME」画面の「メディアセット」画面の表示が変わります。

「オン」に設定した場合は、セットするメディアの形状を選択します。「オフ」に設定した場合は、セットするメディアのサイズを選択します。「A4/A3/B4/8"/11"」を選択した場合は「A3」、「A3+/A2/B3/12"/15"」を選択した場合は「A2」、「B2/17"/20"」を選択した場合は「20"」のロール紙メディアがセットされているものとして扱われます。

⚠ 注意

「オフ」に設定した場合は、セットしたメディアサイズを超えるデータをカットしないでください。メディアの外側をカットしてしまうため、カッターパンやカッティングマットが破損する恐れがあります。



「オン」を選択した場合

「オフ」を選択した場合

<参考>

この設定は、「LOAD MEDIA」画面からも指定することが可能です。

1. 「HOME」画面から「メディアセット」を選択して、「メディアセット」画面を表示します。



2.  (ページ) を押します。「メディア幅検出」画面が表示します。

3. 「メディア幅検出」から「オン」「オフ」を選択します。



5.8 コマンドの設定

本機が扱うコマンドには、GP-GLとHP-GLの2種類があります。使用するソフトウェアの設定値に合わせるか、自動に設定してください。ただし、使用するアプリケーションにより、自動設定では正しく動作しない場合があります。GP-GLやHP-GLコマンドを使用する場合のみ、有効な項目です。設定が終了したら、**×**（終了）を押して「HOME」画面に戻ってください。

コマンドの選択

使用するコマンドを選択します。

1. 「MENU」画面から「I/F設定 1/3」画面を開きます。

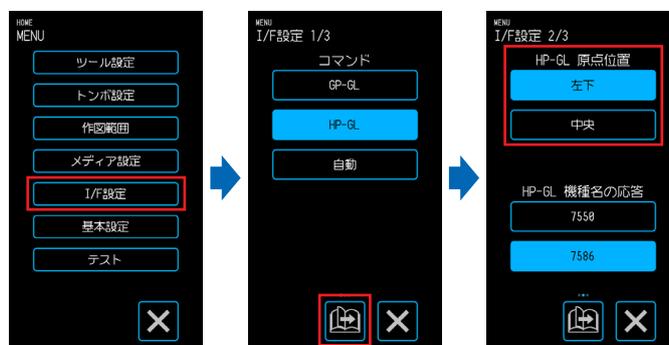


2. 使用するコマンドを選択してください。

HP-GL 原点位置の設定

HP-GLコマンドを使用する場合のみ、有効な項目です。

1. 「MENU」画面から「I/F設定 1/3」→「I/F設定 2/3」画面を開きます。

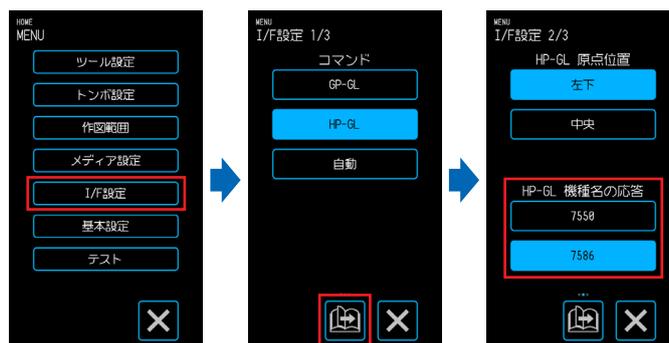


2. 「HP-GL 原点位置」から「左下」「中央」を選択します。

HP-GL 機種名の応答の設定

HP-GLコマンドを使用する場合のみ、有効な項目です。

1. 「MENU」画面から「I/F設定 1/3」→「I/F設定 2/3」画面を開きます。



2. 「HP-GL 機種名の応答」から「7550」「7586」を選択します。

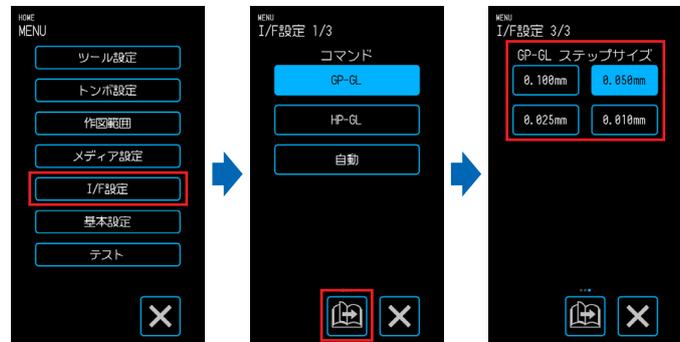
GP-GL ステップサイズの設定

コマンドの1ステップでツールが移動する距離を変更できます。設定値が合わないと、作図のサイズが異常になる場合があります。使用するソフトウェアの設定値に合わせてください。

GP-GLコマンドを使用する場合のみ、有効な項目です。

1. 「MENU」画面から「I/F設定 1/3」→「I/F設定 3/3」画面を開きます。

2. 「GP-GL ステップサイズ」から「0.100mm」「0.050mm」「0.025mm」「0.010mm」を選択します。



5.9 操作パネルの設定

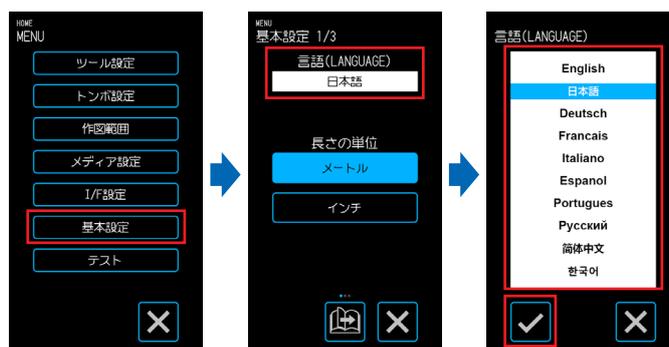
操作パネルの基本的な設定を行います。

設定が終了したら、**✕**（終了）を押して「HOME」画面に戻ってください。

言語の選択

操作パネルに表示する言語を設定します。

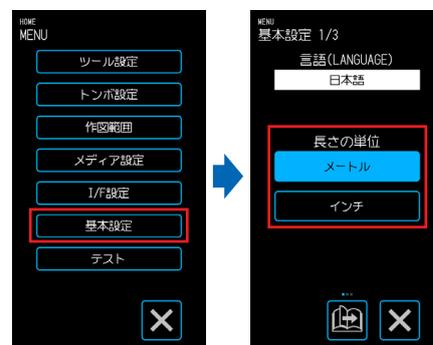
1. 「MENU」画面から「基本設定 1/3」画面を開きます。
2. 「言語(LANGUAGE)」を押します。
3. 使用する言語を選択し、**✓**（確定）で確定します。



長さの単位の選択

操作パネルに表示する長さの単位を設定します。

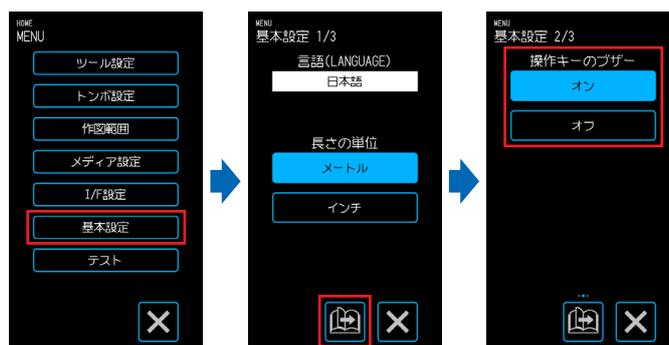
1. 「MENU」画面から「基本設定 1/3」画面を開きます。
2. 「長さの単位」から「メートル」「インチ」を選択します。



操作キーのブザーの設定

操作パネルのキーを押したときに鳴るブザー音のオン・オフを設定します。

1. 「MENU」画面から「基本設定 1/3」→「基本設定 2/3」画面を開きます。
2. 「操作キーのブザー」から「オン」「オフ」を選択します。



6章 トラブル対処

動作がおかしいと感じたときや困ったなと思ったときに参考にしてください。また、本機の設定状態や作図データを確認したり、テストパターンを作図したりする方法についても説明します。トラブル対処は、Webサイト製品Q&Aも参照してください。

http://www.graphtec.co.jp/site_support/qa/index.html

- 6.1 困ったときの対処
- 6.2 エラーメッセージの確認
- 6.3 本体の動作確認
- 6.4 本体ファームウェアのバージョンの確認
- 6.5 カッティングマット交換方法

6.1 困ったときの対処

電源をオンにしても動作しないとき

現象	考えられる原因	対処
液晶パネルに何も表示されない。	電源が供給されていない。	電源コードが、本機のコネクタと、ACコンセントに正しく差し込まれているか確認してください。ACコンセントに電気がきているか確認してください。それでも解決しないときは、購入された販売店、または弊社カスタマーセンターにご連絡ください。
	機械の故障。	購入された販売店、または弊社カスタマーセンターにご連絡ください。

動作がおかしいとき

現象	考えられる原因	対処
メディア検出ができない。	本体に強い光が当たっている可能性があります。	窓際などで直射日光が当たっている場合は、光をさえぎってください。近くに蛍光灯スタンドなどがある場合は、遠ざけてください。
	透過性の高いメディアをセットしている。	メディア幅検出を無効にします。詳しくは、「5.7 メディア動作の調整」をご覧ください。
	メディア幅センサーに不具合が生じている可能性があります。	メディア幅センサーの調整を行います。詳しくは、「6.3 本体の動作確認」をご覧ください。
	本体に不具合が生じている可能性があります。	購入された販売店、または弊社カスタマーセンターにご連絡ください。
メディアが蛇行する。	プッシュローラーが、正しくセットされていない。	プッシュローラーの位置を確認してください。
どちらか片側のプッシュローラーがメディア上から外れる。	メディアの前側または後側が、メディアに対して真っ直ぐに裁断されていない。	メディアの端を、真っ直ぐに裁断してください。

6.2 エラーメッセージの確認

GP-GL コマンドエラー

エラー番号	表示原因	対処
E02001	認識できない命令が転送された。	☑ (確定) を押してください。
	パソコンの電源を入れたときに、ノイズが入った。	ソフトウェアのメニューで本機を動かす設定にしてください。
	ソフトウェアの出力する機械の設定が変わってしまいました。	ソフトウェアのインターフェースの設定を直してください。
	プロッターのインターフェースの設定が変わってしまいました。	プロッターのインターフェースの設定を直してください。
E02004	コマンドの数値パラメータが使用できる範囲を超えた。	ソフトウェアのメニューで本機を動かす設定にしてください。
	ソフトウェアの出力する機械の設定が変わってしまいました。	ソフトウェアのインターフェースの設定を直してください。
	プロッターのインターフェースの設定が変わってしまいました。	プロッターのインターフェースの設定を直してください。
E02005	インターフェース内のデータの受取りに関するエラーが起こった。	ソフトウェアのメニューで本機を動かす設定にしてください。
	ソフトウェアの出力する機械の設定が変わってしまいました。	ソフトウェアのインターフェースの設定を直してください。
	プロッターのインターフェースの設定が変わってしまいました。	プロッターのインターフェースの設定を直してください。
E02006	作図範囲を外れるデータを受信した。	データを確認してください。
		メディアの大きさと作図範囲を確認してください。
		倍率の設定を確認してください。
		ステップサイズの設定を確認してください。

HP-GL コマンドエラー

HP-GL コマンドのエラーが表示された場合は、その原因のほとんどは、以下の2つです。

- アプリケーションソフトが出力する機種の設定が変わってしまいました。
- 本機のインターフェースの設定が変わってしまいました。

これらが原因の場合は、対策として次のことを行ってください。

- アプリケーションソフトの出力する機種を本機に設定し直す。
- 本機のインターフェースの設定をやり直す。

エラー番号	表示原因	対処
E03001 エラー 1	認識できない命令が実行された	使用できるコマンドを実行してください。
E03002 エラー 2	パラメータの数が間違えて指定された。	コマンドを正しいパラメータの数で実行してください。
E03003 エラー 3	使用できないパラメータが実行された。	使用できるパラメータを実行してください。
E03005 エラー 5	使用できない文字セットが指定された。	使用できる文字セットを指定してください。
E03006 エラー 6	コマンドの座標値が作図範囲外に指定された。	作図範囲内の座標で実行してください。
E03007 エラー 7	ダウンローダブルキャラクタバッファ、ポリゴンバッファ等の処理でバッファメモリがオーバーフローした。	バッファサイズを調整してください。
E03010 エラー 10	出力命令の実行中に他の出力命令を実行した。	プログラムをチェックしてください。

エラー番号	表示原因	対処
E03011 エラー 11	ESC コードに続いて無効なバイトを受信した。	プログラムをチェックしてください。
E03012 エラー 12	デバイス制御命令の中で、無効なバイトを受信した。	プログラムをチェックしてください。
E03013 エラー 13	I/O 関係のコマンドで、範囲外のパラメータが指定された。	プログラムをチェックしてください。
E03014 エラー 14	I/O 関係のコマンドで、パラメータの数が多すぎる。	プログラムをチェックしてください。

ARMSエラー

エラー番号	原因	対処
E04001	軸補正で設定する傾きが大きすぎる。	メディアをセットし直してください。
E04002	距離補正の設定範囲を超えている。	補正値を小さく設定し直してください。
E04003	センサーレベル調整に失敗した。	このメディアは使用できません。
E04004	距離補正の設定範囲を超えている。	補正値を小さく設定し直してください。
E04005	トンボを読み取れなかった。	トンボ読み取り位置を確認してください。
E04006	セグメントエリアトンボで、データ量が、I/O バッファサイズを越えた。	データを減らしてください。
E04007	センサー位置調整でテストパターン作図位置が作図範囲内に入りきっていない。	メディアを中央よりに移動してテストパターンを作図する。
E04008	トンボ検出中にメディアエンドを検出した。	メディアを確認してください。 トンボの印字位置を見直してください。
E04009 ～ E04017	トンボ検出中に検索範囲を越えた。	メディアを確認してください。 トンボの印字位置を見直してください。
E04018	メディアセットレバーが上がった。	メディアをセットし直して、やり直してください。
E04019	ユーザーによるキャンセル操作があった。	処理をやり直してください。
E04020	検出設定値に異常がある。	設定値を見直してください。
E04021	自動検出範囲にトンボを発見できなかった。	メディアを確認してください。 トンボの印字位置を見直してください。
E04022	ユーザーによるキャンセル操作があった。	処理をやり直してください。
E04023 ～ E04025	トンボを検出できなかった。	センサーレベル調整をやり直してください。 トンボ印字色を変えてください。 メディアを確認してください。 トンボ印字位置を見直してください。

その他のエラー表示

エラー番号	原因	対処
E01001 ～ E01015	機械の故障	購入された販売店、または弊社カスタマーセンターにご連絡ください。
E05001	バッファサイズより大きいデータはコピーできない。	コピーモードを使用しないで通常作図にする。
E05002	コピーするデータがない。	データを送信して通常作図を行い、コピーモードを使用する。
E05003	コピーするメディア有効エリアが狭い。	大きいメディアを使用する。 コピー開始位置を確認する。

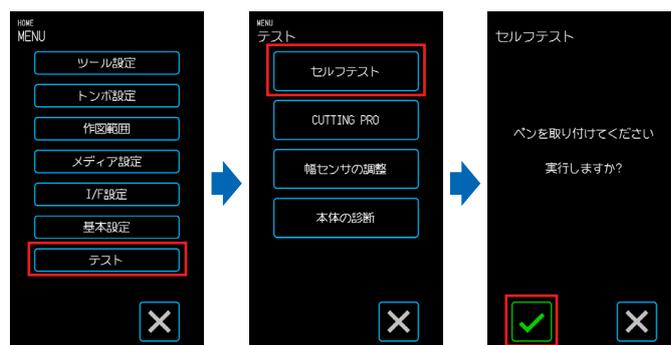
6.3 本体の動作確認

セルフテストパターンの作図

本機の動作をチェックするために、セルフテストパターンを描きます。
印字を開始すると、途中で一時停止／キャンセルはできません。

1. A3サイズ以上の大きさのメディアをセットします。
2. ツールホルダーに筆記ペンをセットし、CONDITION NO.を選択します。

3. 「MENU」画面から「テスト」画面を開きます。



4. 「セルフテスト」を押します。

5. (実行) を押すと、セルフテストパターンの印字を開始します。

⚠ 注意

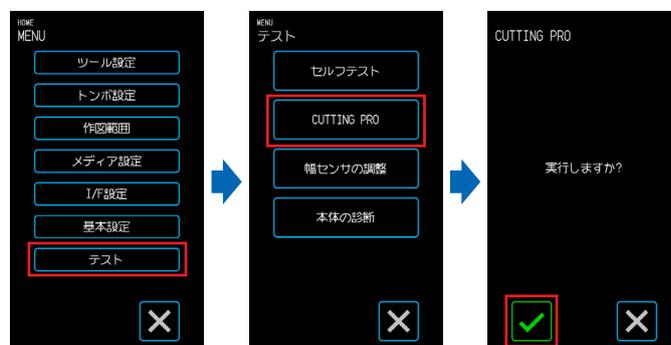
「実行」を押すと、メディアやツールキャリッジが動き出します。体や物に触れないようご注意ください。

テストパターンの作図

本機の動作をチェックするために、テストパターン(CUTTING PROという図形)を描きます。
印字を開始すると、途中で一時停止／キャンセルはできません。

1. A3サイズ以上の大きさのメディアをセットします。
2. ツールホルダーに筆記ペンをセットし、CONDITION NO.を選択します。

3. 「MENU」画面から「テスト」画面を開きます。



4. 「CUTTING PRO」を押します。

5. (実行) を押すと、テストパターンの印字を開始します。

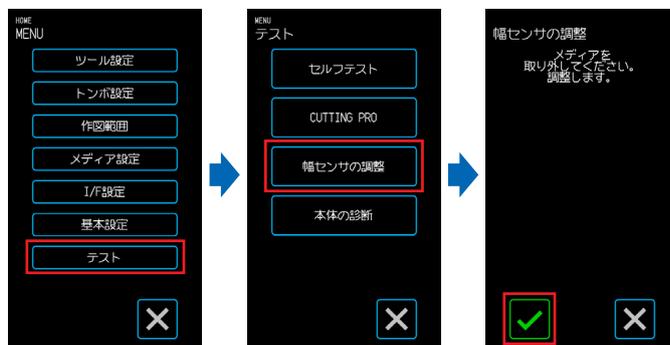
⚠ 注意

「実行」を押すと、メディアやツールキャリッジが動き出します。体や物に触れないようご注意ください。

メディア幅センサーの調整

本機は、メディア幅センサーを使用して、メディアの先端/幅/セット位置を検出しています。これまで問題なくセットできていたメディアで、メディアの先端/幅/セット位置に関するエラーが発生する場合は、メディア幅センサーの調整を行ってください。調整を行う前にメディアを取り外してください。メディアがセットされている状態では、正しく調整できません。

1. 「MENU」画面から「テスト」画面を開きます。



2. 「幅センサーの調整」を押します。

3. (実行) を押すと、メディア幅センサーの調整を開始します。

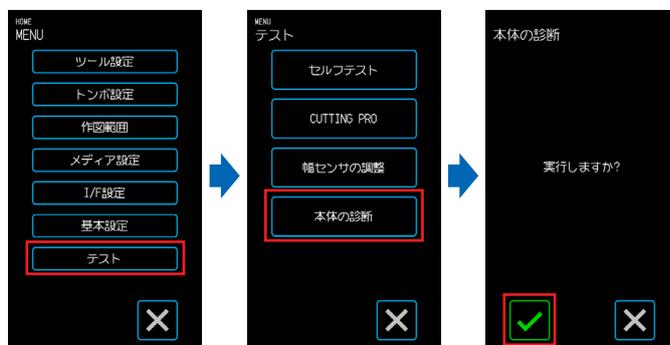
⚠ 注意

「実行」を押すと、ツールキャリッジが動きだします。体や物に触れないようにご注意ください。

本体診断テスト

画面の指示にしたがって各センサやスイッチを操作し、動作状態をチェックできます。

1. 「MENU」画面から「テスト」画面を開きます。



2. 「本体の診断」を押します。

3. (実行) を押すと、画面にテストのためのメッセージが表示されます。

4. 画面に表示されるメッセージにしたがってセンサやレバーを操作してください。

各テスト項目の画面で▶ (次へ) を押すと、次のテスト項目へ移行します。✕ (終了) を押すと、本体診断を終了して「テスト」画面に戻ります。

テスト項目

「メディアセンサ」→「ホームセンサ」→「ツール上下」→「吸引ファン」→「トンボLED」→「メディアセットレバー」

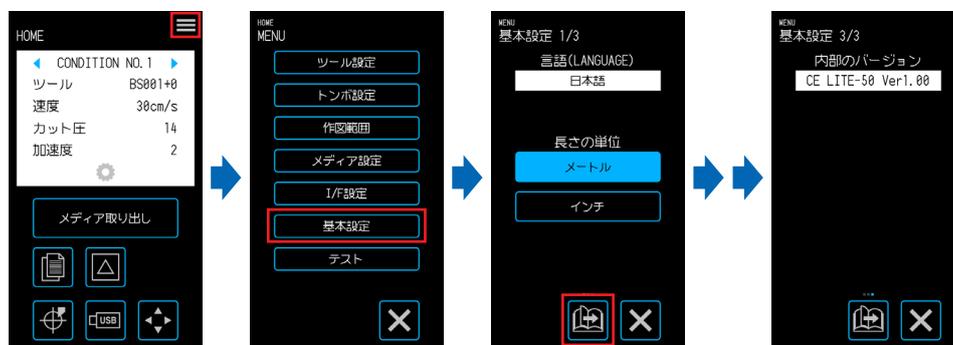
テストは、操作に対する動作状態の検知と目視での確認があります。

検知の場合、正常に検出できれば「OK」と表示されます。

全てのテスト項目が終了すると、「テスト」画面に戻ります。

6.4 本体ファームウェアのバージョンの確認

本機システムの内部のバージョンが確認できます。
「基本設定 3/3」画面にバージョンNo.が表示されます。



6.5 カuttingマット交換方法

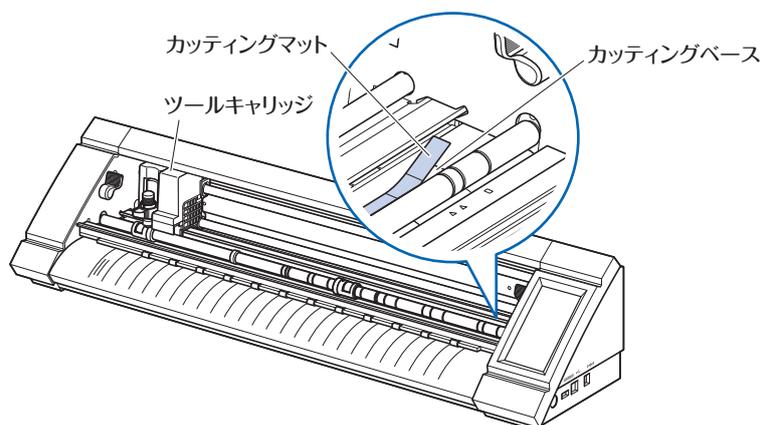
カuttingマットに傷が付いた場合は、カuttingマットを交換してください。
カuttingマットに傷が付いた状態で、カットを行うとカット品質に影響を与えます。

⚠ 注意

- 本体の電源を切ってから作業を行なってください。
- 本体に触れる場合は、十分に注意して作業してください。
- ツールキャリッジは、作業が行いやすい位置へ移動してください。
- ねじれや歪みがないように貼り付けを行ってください。ねじれ等があると、作図(カット)品質に影響を及ぼす場合があります。
- 貼り付け面に異物や気泡等はいらないようにしてください。異物や気泡による膨らみがあると、作図(カット)品質に影響を及ぼす場合があります。

1. カuttingマットを右側から剥がします。

カuttingマットを剥がした後、カuttingベースに粘着テープ等の付着物が残っていないことを確認してください。



2. 剥離紙を少しずつ剥がしながら、交換用のカuttingマットを左側から貼ってください。

付録

この章では、本機の仕様等について説明します。

- A.1 標準仕様
- A.2 サプライ品
- A.3 外観図
- A.4 メニューツリー
- A.5 初期値一覧

A.1 標準仕様

項目		CE LITE-50
CPU		32bit
形状		グリットローリング方式
駆動方式		ステッピングモーター
最大カッティング範囲*1		498mm×3m
精度保証範囲(幅×長さ)*1		478mm×1m
装着可能なメディア幅	最小	210mm(A4、8.27")
	最大	508mm(20")
	定型*2	JIS A2/A3/A4/B3/B4、ISO A2/A3/A4/B2/B3/B4 8.5"/11"/12"/15"/17"/20"、220mm/320mm/329mm(A3ノビ相当)/500mm
プッシュローラーの数		2個
最大カット速度		500mm/s(全方向)、18段階
最大加速度		1.0G(9.8m/s ²)(全方向)2段階
最大カット圧		2.1N(210gf)26段階
メカニカルステップサイズ		0.025mm
プログラムステップサイズ		GP-GL: 0.1/0.05/0.025/0.01mm、HP-GL™*4 : 0.025mm
反復精度		0.1mm以下/1m*1
装着可能なツール本数		1本
カッターの種類		超硬刃
使用可能なペンの種類		専用ペンアダプターにて対応*3
カット可能なメディア		厚み0.1mm以下、マーキングフィルム(塩ビ/蛍光/反射) 高輝度反射フィルムを除く
インターフェース		USB2.0(Full Speed)
バッファメモリサイズ		2MB
コマンドの種類		GP-GL/HP-GL*4(操作パネル切替、コマンド自動切替)
LCD表示		4.3"カラータッチパネル
自動トンボ読み取り*5		有り(ARMS7.0搭載)、4点補正、セグメントエリア補正、マルチトンボ補正、トンボマーク自動検出等
主な機能		シンプルプリント&カット(メディア傾き補正)、オフライン出力、バーコード管理機能
定格電源		AC100 ~ 240V 専用アダプター出力、DC24V(2A)
消費電力		32W以下
使用環境		10 ~ 35℃、35 ~ 75% R.H.(結露なきこと)
精度保証環境		16 ~ 32℃、35 ~ 70% R.H.(結露なきこと)
外径寸法(約)[W×D×H]		784×227×164mm(ロール紙ストッカー含まず)
質量(重量)(約)		8kg(ロール紙ストッカー含まず)
対応OS*6		Windows 10(Home/Pro/Enterprise/Education) Windows 8.1(Windows 8.1/Pro/Enterprise) Windows 8(Windows 8/Pro/Enterprise) Windows 7(Ultimate/Enterprise/Professional/Home Premium) MacOS X 10.6 ~ 10.13(10.6は、Graphtec Studioのみ対応)
標準ソフトウェア		Graphtec Pro Studio、Graphtec Studio for Mac、Cutting Master 4、Windows Driver
保証期間		1年間(保証登録が必要です)
関連規格	安全規格	UL/cUL/CEマーキング
	EMC規格	VCCI Class A/FCC Class A/CEマーキング(EN55032等)

*1: 当社指定のフィルムとカット条件によります。

*2: 定型サイズ以外は、カッティング用台紙を使用してください。

*3: 専用のペンアダプター(別売り)が必要です。ペンの太さに合わせた3種の固定ネジが同梱されています。
対応ペンの直径範囲: 8.0 ~ 11.3mm(ペンによっては、使用できない場合があります)

*4: HP-GL™は、米国ヒューレットパッカード社の登録商標です。

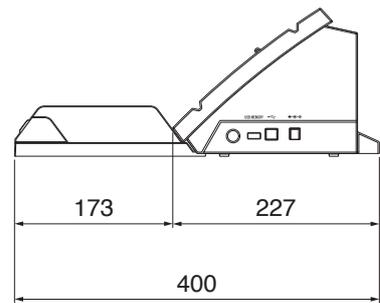
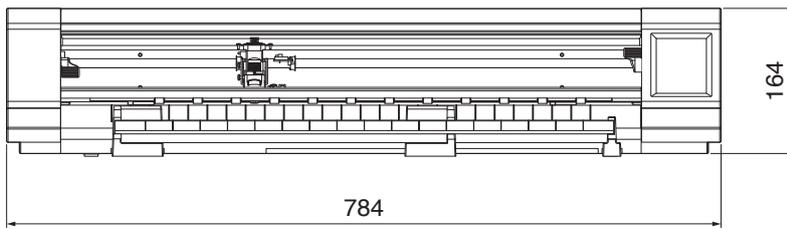
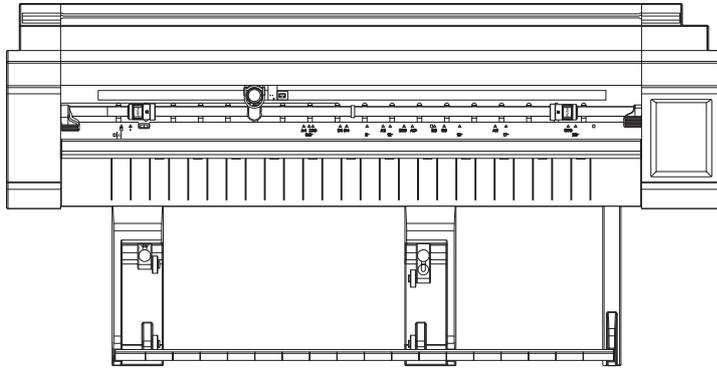
*5: メディアの色や模様によって、トンボが読み取れない場合があります。

*6: OSメーカーのサポートが終了しているOSにつきましては、当社でのサポートも対象外となります。

A.2 サプライ品

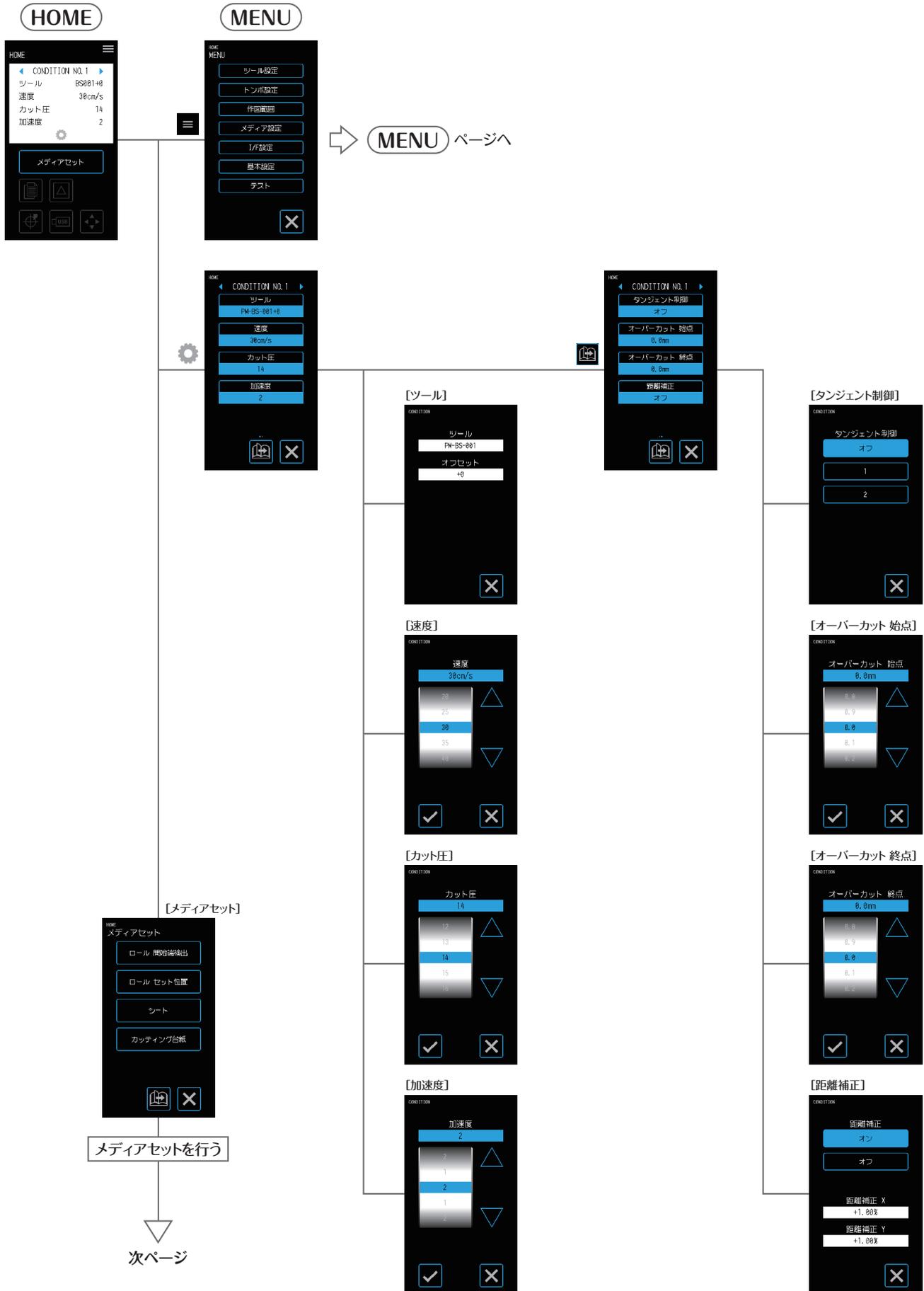
商品名	型名
カッターセット(標準刃)	PM-BS-001
カッターセット(厚物刃)	PM-BS-002
カッティング用台紙(13インチ)	PM-CM-003
ペンアダプター	PM-BH-001
カッティングマット	PM-CR-001
クロスカッター	PM-CC-001

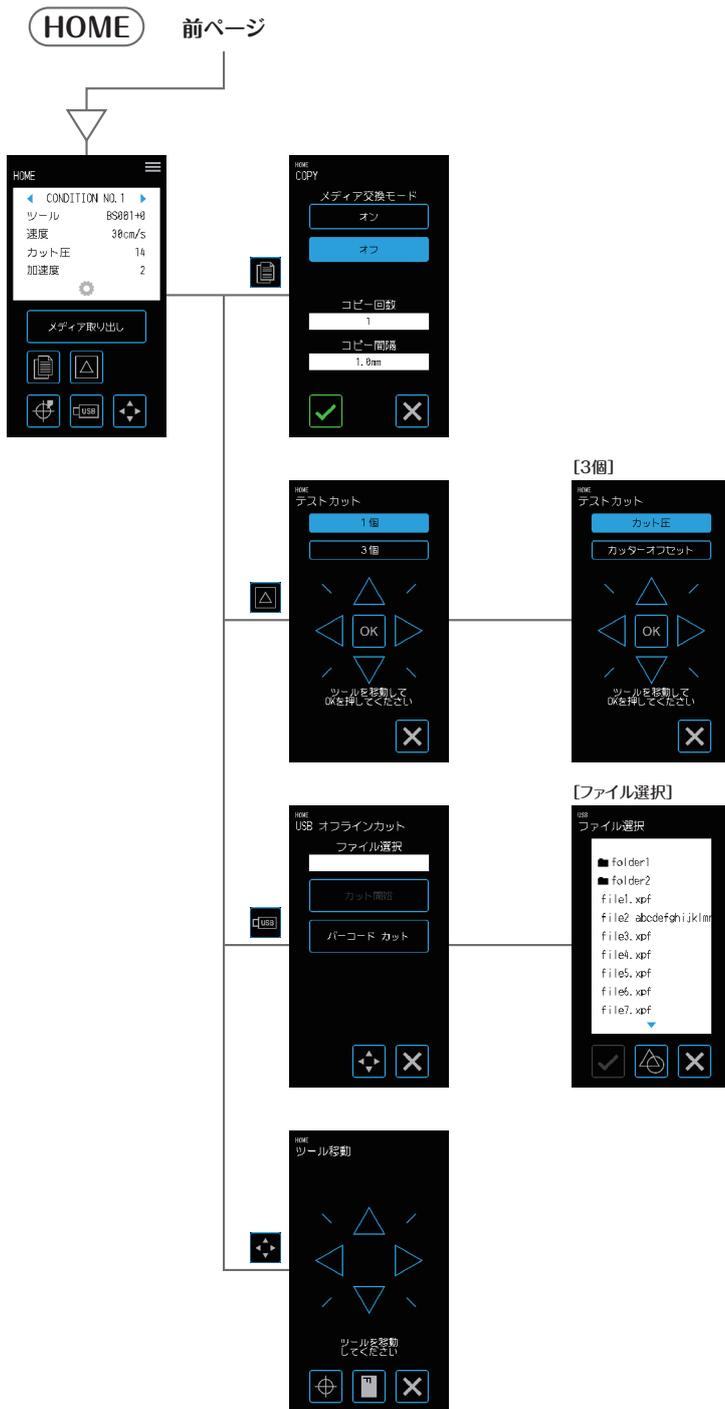
A.3 外觀圖

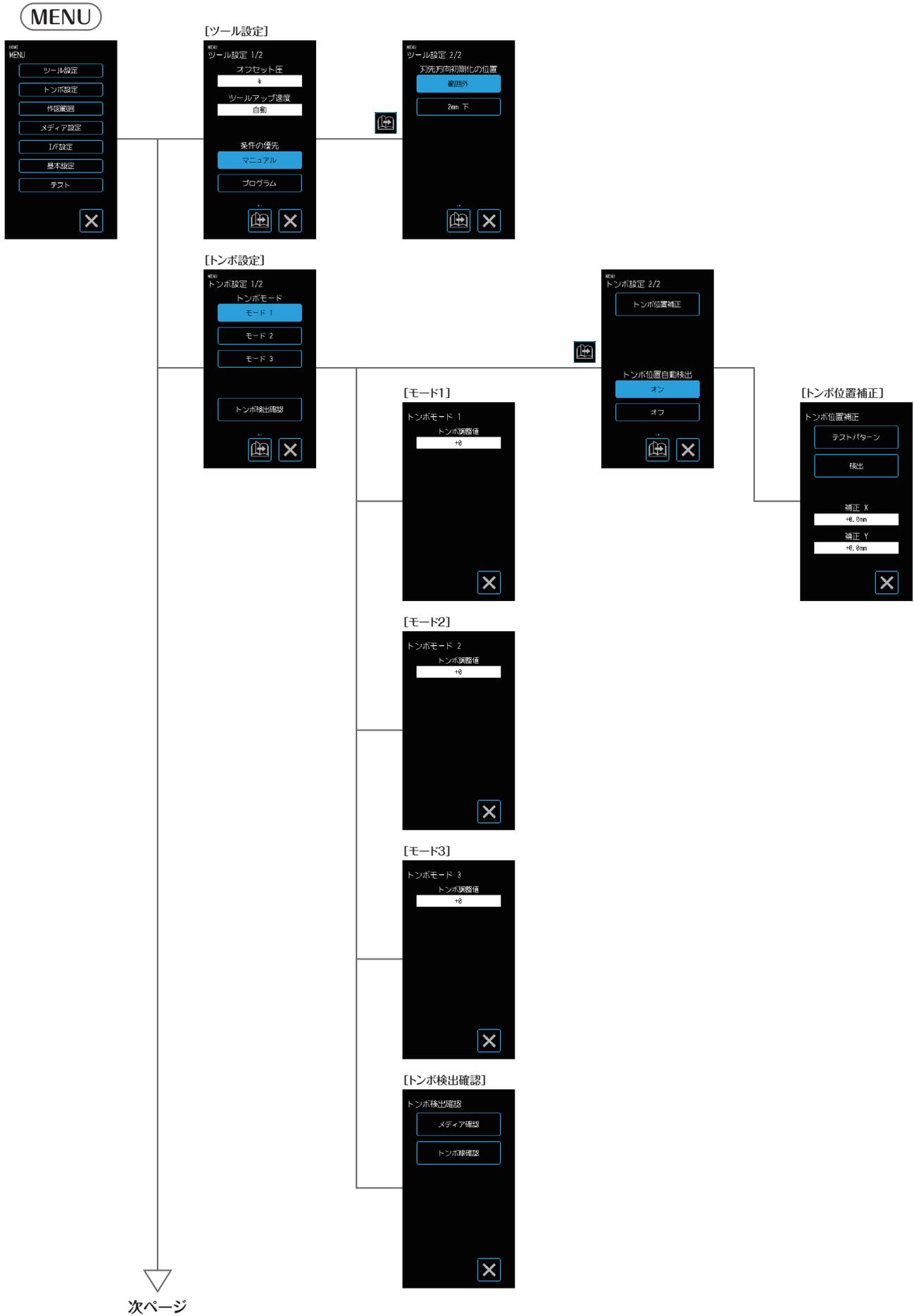


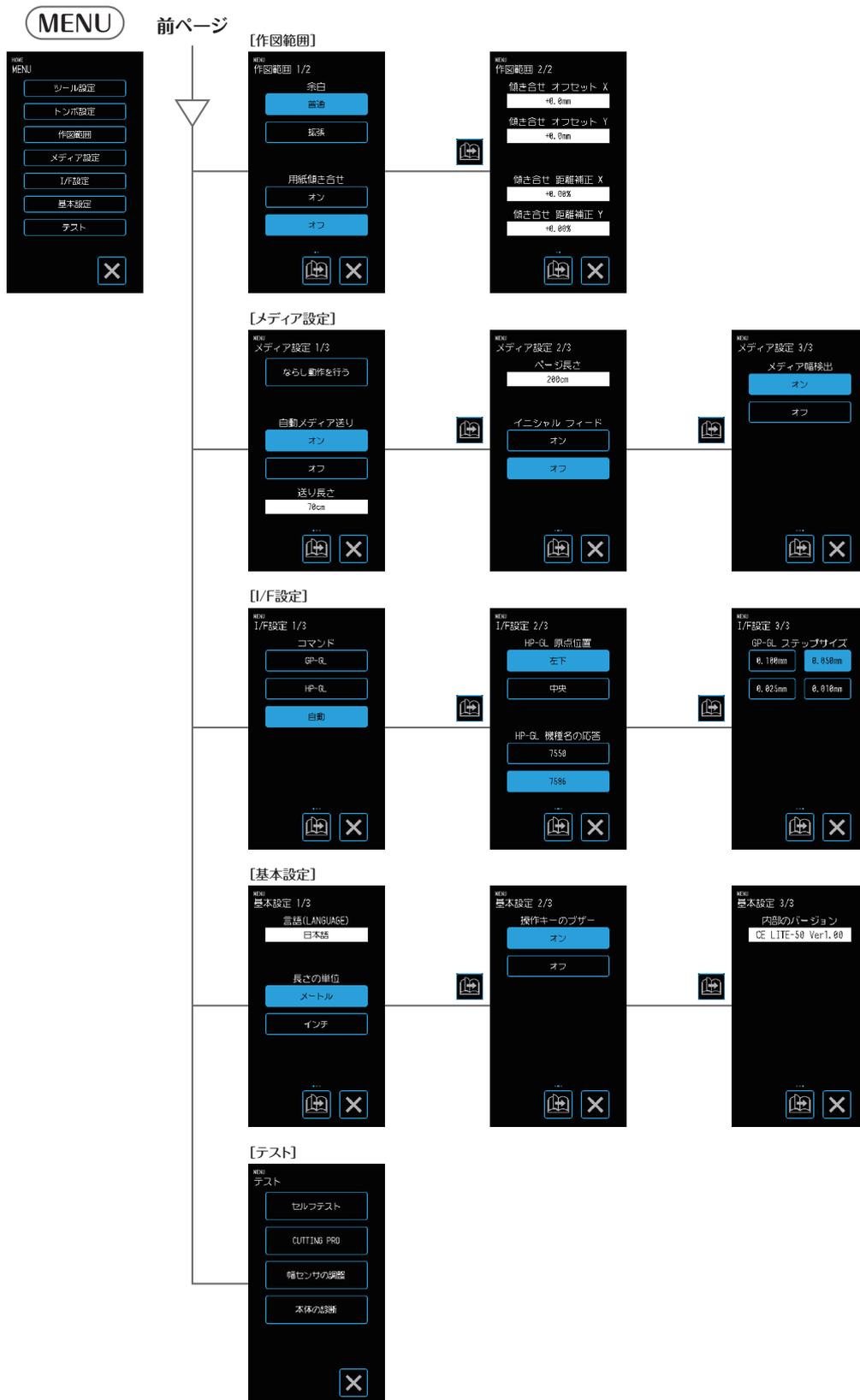
單位：mm
寸法誤差：± 5mm

A.4 メニューツリー









A.5 初期値一覧

HOME 画面

メニュー項目	設定項目	初期値
メディアセット	(設定項目なし)	—
コピー	メディア交換モード	オフ
	コピー回数	1
	コピー間隔	1mm
テストカット	(設定項目なし)	—
原点へ移動	(設定項目なし)	—
USB	(設定項目なし)	—
ツール移動	(設定項目なし)	—

NENU 画面

メニュー項目	設定項目	初期値
ツール設定	オフセット圧	10
	ツールアップ速度	自動
	条件の優先	プログラム
	刃先方向初期化の位置	2mm下
トンボ設定	トンボモード	モード1
	トンボ調整値	モード1(+0)
	トンボ検出確認	—
	トンボ位置補正	X=0、Y=0
	トンボ位置自動検出	オン
作図範囲	余白	普通
	用紙傾き合せ	オフ
	[傾き合せ] オフセット X	0.0mm
	[傾き合せ] オフセット Y	0.0mm
	[傾き合せ] 距離補正 X	0.00%
	[傾き合せ] 距離補正 Y	0.00%
メディア設定	ならし動作を行う	30cm
	自動メディア送り	オフ
	送り長さ	30cm
	ページ長さ	50cm
	イニシャルフィード	オフ
	メディア幅検出	オン
I/F 設定	コマンド	自動
	HP-GL 原点位置	左下
	HP-GL 機種名の応答	7586
	GP-GL ステップサイズ	0.100mm
基本設定	言語(LANGUAGE)	英語/日本語/ドイツ語/フランス語/イタリア語/スペイン語/ポルトガル語/ロシア語/中国語/韓国(初期電源投入時に選択)
	長さの単位	メートル/インチ(初期電源投入時に選択)
	操作キーのブザー	オン
	内部のバージョン	—
テスト	セルフテスト	—
	CUTTING PRO	—
	幅センサの調整	—
	本体の診断	—

ツール条件(CONDITION NO.) 設定画面

メニュー項目	設定項目	初期値
CONDITION NO. 1	ツール	PM-BS-001
	オフセット	+0
	速度	30cm/s
	加速度	2
	カット圧	14
	タンジェント制御	オフ
	オーバーカット(始点)	0.0mm
	オーバーカット(終点)	0.0mm
	距離補正	オフ
	距離補正 X、Y	0.00%
CONDITION NO. 2	ツール/オフセット	ペン/(なし)
	速度/加速度/カット圧	10/2/12
	タンジェント制御から距離補正まで	CONDITION NO.1と同じ
CONDITION NO. 3	ツール/オフセット	PM-BS-001/+0
	速度/加速度/カット圧	30/2/12
	タンジェント制御から距離補正まで	CONDITION NO.1と同じ
CONDITION NO. 4	ツール/オフセット	PM-BS-001/+0
	速度/加速度/カット圧	20/1/17
	タンジェント制御から距離補正まで	CONDITION NO.1と同じ
CONDITION NO. 5	ツール/オフセット	PM-BS-001/+0
	速度/加速度/カット圧	20/2/17
	タンジェント制御から距離補正まで	CONDITION NO.1と同じ
CONDITION NO. 6	ツール/オフセット	PM-BS-001/+0
	速度/加速度/カット圧	10/2/22
	タンジェント制御から距離補正まで	CONDITION NO.1と同じ
CONDITION NO. 7	ツール/オフセット	PM-BS-001/+0
	速度/加速度/カット圧	30/2/17
	タンジェント制御から距離補正まで	CONDITION NO.1と同じ
CONDITION NO. 8	ツール/オフセット	PM-BS-001/+0
	速度/加速度/カット圧	5/1/26
	タンジェント制御から距離補正まで	CONDITION NO.1と同じ

索引

A

- ACアダプター 1-2
- ACケーブル 1-2
- ARMSエラー 6-4

C

- CONDITION NO. 選択 ボタン 1-4
- CONDITION NO. の確認 2-10
- CONDITION ボタン 1-4

G

- GP-GL コマンドエラー 6-3
- GP-GL ステップサイズの設定 5-24

H

- HP-GL 機種名の応答の設定 5-23
- HP-GL 原点位置の設定 5-23
- HP-GL コマンドエラー 6-3

O

- OK ボタン 1-4

S

- Software Activation Code 1-2

U

- USB インターフェース 1-3
- USB ケーブル 1-2
- USB ボタン 1-4
- USB メモリからのカット 4-18
- USB メモリ専用ポート 1-3

あ

- 厚いメディアのカット 5-9
- 安全に正しくお使いいただくために 1-2

い

- 一時停止 4-25
- イニシャル フィードの設定 5-21

え

- エラーメッセージの確認 6-3

お

- オーバーカットの設定 5-10
- オフセット圧の設定 5-4
- オフセット値の設定 5-3
- オフセット値の調整 5-12

か

- 外観図 A-4
- 確定 ボタン 1-4
- 各部の名称と機能 1-3
- 加速度の設定 5-7
- カッターセット 1-2, A-3
- カッターペンの清掃 2-13
- カッターペンの刃出し量の調整 2-2
- カッター溝 1-3
- カッティングマット A-3
- カッティングマット交換方法 6-8
- カッティング用台紙 1-2
- カッティング用台紙のセット 4-12
- カッティング用台紙へのメディアのセット 4-11
- カッティング用台紙を使用したカット 4-10
- カット圧の設定 5-4
- カット条件の確認 2-10
- カット条件の設定を個別に登録 5-2
- カットの中止 4-25
- カット品質の調整 5-3

き

- 距離補正の設定 5-5

く

- クロスカッター 1-2, A-3
- クロスカッターの使用法 4-9

け

- 言語の選択 1-11, 5-25
- 原点 ボタン 1-4

こ

- コピー機能 4-20
- コピー ボタン 1-4
- 困ったときの対処 6-2
- コマンドの選択 5-23

さ

作図位置を指定してカット	4-23
作図原点位置	2-11
作図時間の調整	5-7
作図データの送信	2-12
作図範囲	1-7, 2-11
作図範囲の拡張	4-24
作図範囲 ボタン	1-4
サプライ品	A-3

し

シート紙のセット	2-6
シート紙の取り出し	2-9
実行 ボタン	1-4
自動メディア送りの設定	5-20
終了 ボタン	1-4
条件の優先の設定	5-4
初期値一覧	A-9
シンプル プリント&カット	3-3

す

スリープ解除	1-5
--------	-----

せ

設置スペース	1-6
セットアップマニュアル	1-2
セルフテストパターンの作図	6-5
全カット時の調整	5-12

そ

操作キーのブザーの設定	5-25
操作パネル	1-3
操作パネルの設定	5-25
速度の設定	5-7

た

対応 OS	1-8
タンジェント制御	5-9

つ

ツールアップ速度の設定	5-8
ツールキャリッジ	1-3
ツールキャリッジの退避	4-26
ツールのセット	2-3
ツールの選択	5-3

ツールホルダー	1-3
---------	-----

て

停止 ボタン	1-4
データを作成する際の注意	2-11
テストカット	5-11
テストカットの確認	5-12
テストカット ボタン	1-4
テストパターンの作図	6-5
電源コネクタ	1-3
電源スイッチ	1-3
電源の接続と投入	1-9

と

ドライバ/ソフトウェアのインストール	1-8
トンボ位置自動検出	3-8
トンボ位置自動検出の設定	5-19
トンボ位置の補正	5-16
トンボ確認	5-15
トンボ検出の確認	5-14
トンボ作成からカットまでの流れ	3-9
トンボの形状	3-6
トンボの配置位置	3-7
トンボの読み取り設定	5-13
トンボ読み取り プリント&カット	3-5

な

長さの単位の選択	1-11, 5-25
ならし動作の設定	5-20

に

日常のお手入れ	2-13
入力画面	1-5

は

バーコード付きデータのカット	4-19
ハーフカット時の調整	5-12
刃先キャップ取り外し治具	1-2
刃先方向初期化位置の設定	5-6
パソコンの接続	1-10
刃出し量調整の目安と注意	2-2

ひ

筆記ペン使用時の調整	5-12
筆記ペンでの作図	4-15

標準仕様	A-2
標準付属品	1-2, 1-4

ふ

ファームウェアのバージョンの確認	6-7
ブッシュローラー	1-3
ブッシュローラー位置ガイド	1-3
ブッシュローラーのセット	2-5
プリント&カット	3-2
フロントガイド	1-3

へ

ページ長さの設定	4-8
ページ ボタン	1-4
ペンアダプター	4-15, A-3
ペンアダプターのセット	4-16

ほ

ホーム ボタン	1-4
ポジションキー	1-4, 1-5
保証書	1-2
保存方法	2-13
本体診断テスト	6-6

め

メディア押さえローラー	1-3
メディア確認	5-14
メディアサイズ	1-7
メディアセット ボタン	1-4
メディアセットレバー	1-3
メディアセットレバー位置	1-7
メディアセットレバーのセット	2-4
メディアセンサー	1-3
メディア動作の調整	5-20
メディア取り出し ボタン	1-4
メディア幅検出の設定	5-21
メディア幅センサーの調整	6-6
メニューツリー	A-5
メニュー ボタン	1-4

よ

読み取りモードの設定	5-13
------------	------

ろ

ロール紙ストッカー	1-2, 1-3
-----------	----------

ロール紙ストッカーの組み立て	4-2
ロール紙のカット	4-2
ロール紙のセットと検出	4-4

グラフィック製品お問い合わせ窓口

グラフィック製品に関して、ご相談・ご用命を承ります

この商品の操作に関するお問い合わせは、下記のカスタマーセンターにご連絡ください。

●ナビダイヤル：0570-016262(カスタマーセンター)

ただし、通話地域制限がある内線電話からはご利用できません。全国通話ができる電話機をご使用ください。
また、携帯電話をご使用の場合、ナビダイヤルにつながらない事があります。その場合は、045-825-6382におかけください。

サプライ品および製品修理に関して、ご相談・ご用命を承ります

ご採用いただいた製品を常に最良の状態でお使いいただき、そして万一の故障修理がお客様の近くで迅速にサービスできるように、サービス拠点を配置しています。サービスおよび純正サプライ品についてのご相談・ご用命は、当社製品販売代理店、または下記のカスタマーセンターへお問い合わせください。

●ナビダイヤル：0570-016262(カスタマーセンター)

ただし、通話地域制限がある内線電話からはご利用できません。全国通話ができる電話機をご使用ください。
また、携帯電話をご使用の場合、ナビダイヤルにつながらない事があります。その場合は、045-825-6382におかけください。

グラフィック製品に関する最新情報やサポート情報は、こちらのURLからご覧いただけます。

<http://www.graphtec.co.jp>

●本書の記載事項は、お断りなく変更することがありますのでご了承ください。

CE LITE-50取扱説明書
(CE LITE-50-UM-101)

2018年3月16日発行
第2版

発行 横浜市戸塚区品濃町503-10
グラフテック株式会社

GRAPHTEC